

012345678910

昭和十六年二月二十五日發行(毎月一週二十五日發行)

企 畫

第三卷 第十號
(昭和十六年二月) (通計第三十四號)

佛國の人口減退と戦争
合衆國の對中南米貿易に就て

情報

獨逸・戦時下の勞働奉仕團の活動
佛國・ド・ゴール政権の地位及其の英國政府との關係

英國 戦時下の『工場照明』
失業者動員計畫

資料・統計

「戦争と平和の爲の計畫」
「英週刊タイムズ」誌の「見解」
伊太利重工業アウタルキー計畫
伊太利化學工業とモンテカティニ・コンツェルン

附 録

列國總動員關係記事月報
一、列國總動員關係記事月報(歐文資料)
二、内外總動員關係記事月報(邦文資料)

企 畫 院

3
1

本誌記事轉載の際には豫め本院に照會の上、企畫院發行「企畫」に
よる旨を明記し且つ當該刊行物二部寄附ありたし、

企 畫 院

企 畫 第三卷第十號 目次

佛國の人口減退と戦争……………(一)

はしがき……………(一)

目 次……………(一)

一、序 言……………(三)

二、佛國に於ける現在の人口状態……………(五)

三、佛國將來の人口學的地位の豫測……………(八)

四、佛國最近の人口對策的措置……………(三)

▲衆國の對中南米貿易に就て……………(三)

はしがき……………(三)

目 次……………(三)

一、序 言……………(三)

二、對中南米貿易の重要性……………(七)

三、今次歐洲戦前に於ける中南米の輸出貿易……………(五)

310

141

四、中南米諸國の合衆國依存度……………(三)

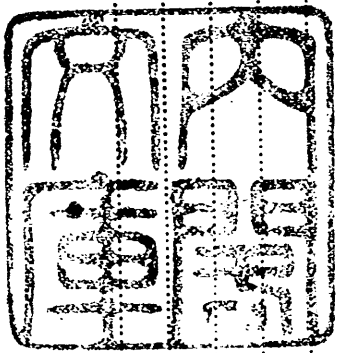
五、合衆國の對中南米輸入貿易……………(五)

六、合衆國の輸入能力……………(四)

七、中南米に於ける過剩物資……………(四)

八、米洲防衛對策……………(五)

九、結 言……………(五)



獨逸 戦時下の勞働奉仕團の活動……………(五)

佛國 D・ゴール政權の地位及其の英國政府との關係……………(五)

英國 戦時下の工場照明……………(六)

失業者動員計畫……………(六)

資料・統計

「戦争と平和の爲の計畫」……………(六)

——英週刊タイムズ誌の一見解——

伊太利重工業アツタルキー計畫……………(六)

附 録

伊太利化學工業とモンテカティニー・コンツェルン……………(六)

列國總動員關係記事月報……………(六)

一、列國總動員關係記事月報(歐文資料)……………(七)

二、内外總動員關係記事月報(邦文資料)……………(七)

佛國の人口減退と戦争

目次

はしがき

一、概説

二、佛國に於ける現在の人口状態

三、佛國將來の人口學的地位の豫測

四、佛國最近の人口對策的措置

はしがき

佛國のあらゆる弱點が、究極に於て「人口の劣勢」に遡源せられ得ることは、多年周知の事實であつた。人口増加は、既に第十八世紀の末葉以來、他の歐洲諸國よりも緩慢であつた。即ち、一七八四年に於て、二千四百六十萬と算へられた人口は、八十八年間を経たる一八七二年に、三千六百十萬、即ち、一年の平均増加率は、僅に〇・五二パーセントに過ぎなかつた。しかも此の微弱なる増加も一八七〇年頃以降は、殆んど停頓に陥り、一九一一年には、三千九百六十萬、即ち約四十年間に於ける年平均増加率は、〇・二五パーセントに低下した。其の原因が、結婚及産兒忌避に在ることも亦、周知の事實である。一八七二年、人口の五〇パーセントに當つた未婚者の數は、一九二六年には少しく減少して四五パーセントを示したとは謂へ、一婚期當の産兒の數も亦、二・九人より二・二人に低下した。此

の勢は、逐代佛國當局の憂慮とあらゆる努力とに拘はらず、竟に阻止せられ得ずして最近に及び、ポール・レーノ
1をして、昨一九三九年四月二十九日、其の第二次對戰經濟計畫を發表するに當り、「……特に、毎週六十時間の労働
を敢行する八千六百萬人の人民を擁する國と肩摩して生存する四千萬人口の佛蘭西……」と絶叫して國民の奮起を促
がさしめなければならなかつたほどに、莫大なる懸隔が獨逸との間に發生したのである。

戦争が一國の人口運動に對して厄災的影響を及ぼすことは言を俟たない。佛國は、前次大戰に於て、一、三九三、
三八八人の戦死者を出した。その人口學的效果、即ち、婚姻、隨つて出生の減退は、漸く今年以後に現はれて來るで
あらう。其の矢先に復たもや今次の大戦に突入した佛國は、其の人口に於て殆んど恢復すべからざる創痍を蒙つたで
あらう。(但し、全く豫期せられざりし急速なる休戦に依つて、少くとも此の殃禍のみは危く避けられた如く觀える)。

本稿は、Lehrbücher für Nationalökonomie und Statistik 第一五〇卷第六號、一九三九年十二月刊所載、
Roderich von Ungern-Sternberg の論文を譯出したものである。惟ふに原論文の脱稿は、遅くとも昨年十一月中の
ことに屬すべく、隨つて、佛國のかゝる早急なる屈伏が、今次大戰に於ける佛國の長期交戦を前提としたる著者の見
解の一部、倘へば篇末の歐羅巴勢力の將來に對する豫想等の基礎を動搖せしめたことは争はれない。併し乍ら、其
の他に於ては、就中、過去の佛國人口動態についての觀察の如きは、簡潔なれども明晰、吾人に示唆を與ふるもの尠
しとしない。仍りて全體として、特に其の結論に於て、稍々、失機の嫌あることを考慮に加へつゝ、茲に紹介するこ
ととした。尚ほ、目次の四は、便宜上、譯者が新に附加したものである。

一、概 説

凡ての近代的戦争が長期に互る場合には、其の結果として或る國の人口の年齢構成に於て、次に挙ぐるが如き、廣
汎なる、且つ災厄的な變動が出現する。

(一) 戦争の直接效果は、男性の國民の中、最も働き盛りであり、最も増殖能力ある年齢階級の範圍内に在る者の
戦死の結果として、其の現在数が減少することである。

(二) 次に、最も増殖能力ある年齢に在る兩性の長期に互る別居、戦争期間に於ける一般的なる政治的及經濟的
不安定の刺激に因りて激化する産兒忌避の結果として、出生数の減退することである。

(三) 次に、戦死を別として、窮乏、病氣、精神的緊張の結果として、全人口内に於ける死亡率の増加すること
である。これは男女を通じて就中五十歳以上の年齢に在る者に著しい。

(四) 最後に、對應する結婚年齢に在る多數の男子の戦死の結果として、一八歳乃至三五歳の年齢に在る女子の
結婚豫想が減少することである。

兩性の別居と産兒忌避との結果としての、戦争期間中の出生数減少は、更に其の結果として約二五年乃至三〇年の
後に、再び同一の現象を生ぜしめる。即ち、其の頃に至れば、出生数の減少が繰返されることを常とする。それは、
戦争時代に於て遙に平均以下に落ちた出生年次者は、其の他の條件が相等しいとすれば、彼等が結婚年齢に達したる
場合の結婚締結数、隨つて亦、産兒數も平均以下を示す(アイレルト・ズント——Eilert-Zundt——の法則)こと、

實を俟たないからである。かくの如く、戦争時代に於ける出生数の退汐は、(Eink der Geburtenhäufigkeit) 假令、原則として次第々々に其の程度を弱め乍らも、約三〇年の間隔を以て反復する、さうして略ぼ三回乃至四回の退汐時代を経たる後、例へば、移民の來住、出生数の増進其の他に之に類する種々なる人口學的過程の如き現象に因りて徐々に消滅するのである。

戦争時代の退汐年度は、長き戦争の終了したる直後には、結婚の進行、及之に應じて増加する出生数の結果、謂はゆる人口満潮 (Bevölkerungsflut) と交代せられる。此の満潮の波も亦、独自の周期性を有つて居る。即ち、全然退汐の波と同様に、約三〇年の間隔に於て規則正しく反復する、さうしてこの波も亦次第に低まりつゝ遂に消滅する。

随つて、比較的長期に亘る今日の戦争は、如何なる場合にも、人口統計的均衡の一の重大なる動搖を意味する。即ち、人口の年齢ピラミッド圖形は、(一)、基底に於ける縮小 (出生減退)、及、(二) 直接戰闘行爲、及、其の他、戦争時代の各種の不利なる効果に依つて、特別に打撃を受けたる年齢期の男子側に於ける異常の陥凹を経験する。さうして(三) ピラミッドの男子側全部が衰退し、それよりして、著しき女子過剰が、中年期に於て生ずる。

一旦被りたる損失は、之が累を受けたる諸年齢期に在つて再び之を除去することが出来ない。此の損失は、當該年齢期が、其の所屬者の死滅に因りて、全然消失したるとき初めて完全に消失する。

併し乍ら以上の斷言は、決して、戦争の影響を被りたる人口が、右に述べたるが如き種々なる効果より全然回復治癒せられ得ないといふことを意味しない。受けたる損害の恢復及除去の可能性、随つて亦、確實性は、二に、當該民

族の生物學的精力如何に繫存する、さうして、此の精力は、生産意思と出生實績とに於て表現せられる。それは眞先に滿潮時代中の出生数の高度、次に、其の後の數年間に於ける出生数の高度の中に現はれる。顯著なる出生弱勢を示す民族が戦争の影響より恢復することが遙に困難、緩慢であり、場合に依りては、全然不可能であり、之に反して、不屈なる生殖意思を有する人口が、戦争の人口學的損害を、比較的容易且つ迅速に征服し得ることは明かである。

退汐時代も滿潮時代も、共に、一國民の政治的並に社會的生活の全領域に亘つて、一列の現象を誘起する。若しくは全領域に亘つてと謂はざるまでも、少くとも、若干の特殊なる——大抵は危機的性質を帯ぶる——現象、例へば、勞働力の供給過剰、及、之より生ずる失業(滿潮時代)、若しくは、勞働力に於ける缺乏(退汐時代)、各種の内政的緊張、滿潮時代中の膨脹衝動の強化、對外移住の増加、若しくは、退汐時代に於ける勞働力缺乏に促がざる、外國人誘引の強化等の種々なる現象が、戦争の人口學的効果に因り、人口變動作用の正常の經過の場合に比すれば、遙に激烈に、遙に不利に發生することに與つて力となることが著しい。かくの如く、戦争中の變化したる人口動態より結果する此等の効果は、從來、戦争、革命的變動、移民運動等の如き歴史的事象の原因の探究に當つて、十分適當に評價せられなかつたことは勿論、殆んど考慮に加へられさへもしなかつた。

二、佛國に於ける現在の人口状態

以上の一般指標的注意の後に眼を佛國に轉ずるならば、さうして、此の國が今や再び不可避免的に多數の人民の損失を伴ふに違ひない、一箇の長期戦争に踏み入つたといふ前提より出發しつゝ、それが如何なる結果を此の國の人口學

れ得ざる程度に於て多数を占めて居る。之が爲めに農業の禍さること甚しく、僅に、外國及植民地の勞働力（ベルギー人、ポーランド人、スペイン人、伊太利人、ポルトガル人、アルジェリア人）の常規的來住に依りてのみ、穀物及葡萄の收穫を適時に取り入れ、又は、例へば甜菜栽培が大經營を以て行はれて居る北部佛蘭西に於て最も著しき如く、田圃の耕作が保證せられ得るに過ぎない。同一の事が、採鑛事業の全部について、及、可なりの程度まで、料理旅館業についても謂はれ得る。

(1) J. J. スペンダラ著、佛國の直面する人口衰減 (J. J. Spengler, France facez depopulation) 一九三八年刊、一八七頁参照。

(2) R. フォン・ウングェルン・シュテルンベルク著、佛國に於ける人口状態 (R. v. Ungewernberg, Die Bevölkerungsvhältnisse in Frankreich) ベルリン、一九三八年刊、七七頁以下参照。

佛國最近の國勢調査（一九三六年）の際に示された外國人は、二、四五三、五〇七人を算へ、全人口の六・六パーセントに相當した。外國人の割合は、一八五一年より一九三二年に至る八十年間には七倍となり、一九一一年より一九三二年に至る二十年間には二倍となつた。外國人の住處は、パリを別として、主として北方、南方及東方の國境地域に在るが、併し彼等は、地主、農業勞働者及中小商工業者として、國境より遠く離れた諸地方にも、既に夥しき數に於て見受けらるゝやうになつた。一九三一年には、伊太利人が、八〇八、〇〇〇人を擁して最も優勢を示した。併し乍ら彼等の數は、其の後、フアシストの歸還獎勵政策の影響を受けて著しく減少した。最近の數字は判然しない。第二位は、ポーランド人が約五〇八、〇〇〇人を以て、第三位はスペイン人が之を占めベルギー人其他が之に次いで、

だ、

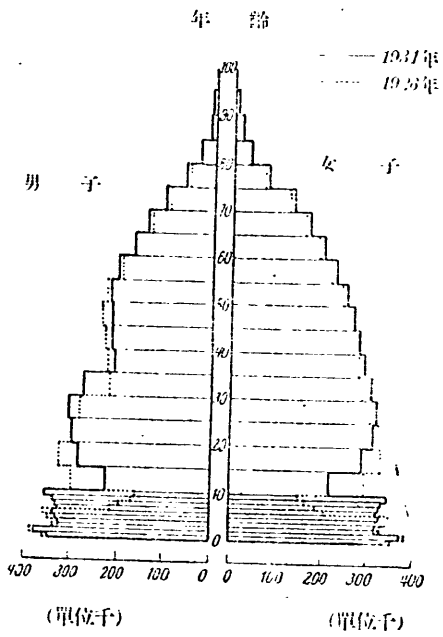
(1) ユーベール・ビュンローボヴァー著、佛國の人口 (Huber-Bunle-Boverat, La population de la France) 五六頁以下参照。

併し乍ら、此の關係に於て注意しなければならないことは、外國人の數に關する以上の數字が、尙ほ未だ完全に佛國に於ける外國的要素を表示するものではないといふことである。といふのは、適當なる外國人を歸化せしめんとする欲求が自國民族の生物學的弱點に鑑みて甚だ強く、隨つて歸化條件が比較的に寛大有利であるところから、近來に至り歸化したる外國人の割合が、特に大きいからである。即ち、一九三一年には、歸化人は三六一、〇〇〇人を算へた。さうして爾來此の數は、更に數萬人を加へたであらうと想像せられる。併し乍ら、斯うした歸化人の中、其の心的狀態乃至、靈的——精神的構成より觀て「佛蘭西人」たる者の甚だ少いことは疑を容れない。動もすれば彼等は、單に覺束無く佛蘭西語を話すといふに過ぎず、且つ僅に數年來佛國に定住して居るといふが如き者が多い。といふのは、本人が、例へば、聯合國の一の軍隊に勤務したとか、佛國婦人と結婚したとかいふが如き場合には、歸化は、僅々一箇年の在在を以てすら許可せられるからである。

(1) 詳細は、前掲、ウングェルン・シュテルンベルク著書、九一頁を見よ。

次に、佛國人口の年齢構成を觀察しよう。左に掲ぐる年齢ピラミット圖形は、單に佛國人の血統を有する者、及、歸化人のみに關するものであるが、之に依りても、本稿の冒頭に述べたるが如き、一九一四——一八年の大戦の痕跡が明瞭に現はれて居る。即ち、(1)一九三一年に、十二歳——十六歳であつた諸年齢期（即ち、大戦中の出生者）は、

佛國の人口減退と戦争



第一圖 佛蘭西人

出生減退の結果として著しく縮少して居る。(二)男子側は、殆んど前後一貫して、女子側より劣勢である。就中、三十五歳—五十五歳の各年齢期について見るに、一九三二年には、男子一、〇〇〇人に對して女子は二〇七一人を示した(獨逸に於ては、一九三三年に、此の關係が、一、〇〇〇對一、〇五八であつた)。六十歳代の者には、假令、謂ふに足らざるほどのものにもせよ、再び縮少が認められるが、これは、一八七〇—七一年戰役(謂はゆる普佛戰爭)中の出生減退の結果である。一九三一年には、ピラミッドの基底、即ち幼児の割合は、尙ほ比較的に安定して居た。然るに、一九三五年を出發點として、此の基底は、尙ほ後に述べるが如く、激甚なる縮少を示して居る。相對數を以て表現し、且つ若干の他の民族と比較すれば、佛國人口の高齡者が、明かに表はれる。

總人口一〇〇中の年齢別

國別	年次	五未滿	一五—三〇	三〇—四五	四五—六五	六五以上
佛國	一九三一	二二	二四	二二	二二	二二
伊太利	一九三六	三三	二五	一九	一八	七
獨逸	一九三八	二二	二四	二四	二二	八
イングランド及ウェイルス	一九三一	二四	二六	二二	二二	七
スウェーデン	一九三五	二二	二六	二二	二二	九
ポーランド	一九三一	三四	二九	二二	一六	八

表中に引例せられたる諸國の中、獨り佛國と同様に極めて出生率低きスウェーデンのみが、佛國と類似せる年齢形態を有つて居る(1)。

(1) 一九三八年「獨逸國統計年鑑國際篇」(Statistisches Jahrbuch des Deutschen Reichs, Internationaler Teil) 一八頁参照。

併し乍ら、斯かる極めて好ましからざる佛國人口の年齢構成は、決して單に、一八七〇—七一年、及、一九一四—一八年の兩戰役のみの結果ではない。それは寧ろ、約一世紀以來動かざる出生減退の結果たることが多い。此の衰退現象の經過は、次の數字系列に依つて概括的に之を窺ふことが出来る(1)。

一五乃至四九歳の女子一、〇〇〇人當妊娠數

年次	妊娠數
佛國の人口減退と戰爭	

一八四六—一八五五	一〇一
一八五六—一八六五	一〇一
一八六六—一八七五	一〇三
一八七六—一八八五	九九
一八八六—一八九五	八九
一八九六—一九〇五	八五
一九〇六—一九一三	七六
一九一四—一九一九	四七
一九二〇—一九二五	七一
一九二六—一九三〇	六八
一九三〇—一九三三	六八
一九三三—一九三五	六四
	六二

(1) 前掲、ユーベール・ビュンルー・ボヅラー著書一〇九頁。他の諸國の妊娠數との比較は、前掲スペイン著書、佛蘭西の直前する人口衰減、五九頁に載せられて居る。

右の數字に従へば、平均妊娠數は、前世紀中葉頃の二〇一より、一九三五年の六二に低下した。もう一度注意を喚

起しなければならぬことは、此の現象が決して之を生理的原因に遡源せられ得ないものであるといふことである。これは、二〇—二四歳の女子の妊娠數が、約三五箇年の一期間に於て、極めて微弱なる減少を示したに過ぎざること、即ち、一、〇〇〇人につき一八九六年より一九〇〇年に至る五箇年の平均に對する一三四より、一九三三年の二二四に低下したと、殊に、二〇歳以下の女子の妊娠數に至つては、却つて二七より三三に増加したること、之に反して、其以上の諸年齢階級の妊娠數が之に比すれば遙に顯著なる衰退を示して居る一事に徴しても明白である。(1)併し乍ら、年若き母に於て妊娠數が多いと謂つても、それは殆んど全體を通じて、昔も今も通例として喜ばれる、若しくは、喜ばれないまでも、少くとも、快く諦められる初兒であり、さうして此の初兒に、大抵の場合、第二子以下が續かないのである。併し乍ら之によつて、生理的産出力衰弱が、第一回の産兒以後卒然として生ずるとか、或は、二十五歳以上の婦人のみが此の衰弱状態に襲はれるとかいふ推定は成り立たない。

(1) 前掲、ユーベール・ビュンルー・ボヅラー著書一一頁。

次に、絶対數を以て表現すれば、一九一—一九三三年、即ち前大戰直前の一期間、及、一九三〇年以降に於ける佛國の自然の人口移動は、次の如き状態を示して居る。(1)。

佛國の自然の人口移動

年次	結婚	出生	死亡(死産を除く)	出生超過(+) 死亡超過(-)
一九一一—一九一三	三一九、一二四	七九一、二五四	七五五、六四四	+ 三五、六一〇
一九一三—一九一五	三四三、六九八	七四八、九一一	六四九、一二五	+ 九九、七八六
一九三三—一九三五	三二六、六六一	七三三、九〇九	六七九、一一四	+ 五五、六五五

佛國の人口衰退と戦争

年次	人口	人口	人口
一九三二	三一四、八七八	七二二、二四六	六六〇、八八二
一九三三	三一五、四六六	六八二、六八〇	六六一、〇八二
一九三四	二九八、一九二	六七七、三六五	六三四、五二五
一九三五	二八四、八九五	六四〇、五二七	六五八、三七九
一九三六	二七九、七四三	六三〇、〇五九	六四二、一三九
一九三七	二七四、一二三	六一六、八六三	六二八、六〇三
一九三八	二七三、九〇三	六一二、一三八	六四〇、八七九
			六四一、七四一
			一三四、七四一
			一四

(1) 佛國一般統計雜誌 (Bulletin de la Statistique Générale de la France) 一九三九年四月/六月號に據る。
右の表に従へば、自然的人口移動に關する限り、最近の四箇年間に、佛國の人口には、絶對的減退が現はれた。さうして之は對應する缺陷は、僅に、外國人の來住移民に依つて補填せられ得るのである。此の補填はかなりの程度に於て實現せられ、それが爲め、毎五年に行はるゝ國勢調査は、これまでのところでは、人口の減退を示して居ない。即ち、

年次	人口
一九二六	四〇、七三四、八五一
一九三一	四一、八三四、九二三
一九三六	四一、九〇五、九六八

併し乍ら、實際に於ては、前表の示すが如く、佛國は、今次戦争前の最近の四箇年間に、合計七六、四一三人の佛國人を喪つて居るのである。普通の「Citizen」(佛國市民)は勿論、殆んど之に氣が付かない。此の衰滅現象の報道

は、唯だ極めて微かにしか、彼の耳に入らない。しかも其の實、此の現象は、略ぼ最近四箇年間の喪失人口と相匹敵する約七九、〇〇〇の人口を有するメツツ若しくはツールの如き都市の全住民の死滅と同意義のものである。本(一九三九)年、及、續く數年間に於て、自然的人口移動の差引勘定に於ける缺陷がどれほどであらうかは、現在のところでは確知し難いが、とに角、一九三五年乃至一九三八年の數年間に見たるものより遙に多いことは疑を容れない。併し乍ら、之と共に、吾人が間もなく論及せんとする、佛國將來の人口數の計算は、忽ち崩壊するであらう。といふのは、最近の戦争結果を考慮に加ふることに出来なかつた計算よりも、實際の展開は、遙に厄災的なる結果を示すであらうからである。

試に自然の人口移動に關する上記の數字を觀察するならば、一九三三年より三四年にかけて、結婚の數が急激に減退したこと、及、其の後の數年間に、結婚の數が、更に遞減したことが目に付く。即ち合計して、一九三三年に於ける三一五、四六六件が、一九三八年の二七三、九〇三件となつて居る。それは半ば、此の數年間の佛國に於ける經濟的不況に基因するものであらう。が、併し、他の半ばは、一九一四—一八年の大戦中の出生減退の結果として生じた、最も若き、結婚能力ある年齢期に在る者の減少が、既に其の影響を現はし始めたものと見るべきであらう。

(1) "La France économique 1935" 一四頁、及、其以後の各卷参照。

一九三三年に於ける、人口一、〇〇〇に對して一五・一パーセントより、一九三七年及一九三八年に於ける同二三・一へと低下したる結婚數に對應して、出生の數も亦、持續的減少を示して居る。その端緒は一九三〇年である(一、〇〇〇に付き一八・〇パーセントより一四・六パーセントに低下、同期間中の獨逸に於ては、一七・六より一九・二

と上昇した。更に、前大戦直前時代と比較すれば、一九三八年の出生数は、實に二一パーセントだけ減退した。併し乍ら、之に對しては次の如く反駁せられるかも知れない。即ち、決定的意義あることは、出生の數ではなく、成長の數である、幼児死亡の減少の結果として、佛國に於ては、嘗て出生數が多かつた當時に比して、より多くの兒童が、一層高き、増殖能力ある年齢へ成長して行くのではなからうか、といふ疑問である。此の問題は既に幾度と無く検討せられた、さうして、其の結果、成長數も亦、出生數減退の影響を受けて減少したことが判明した。かくの如く、J.ブルドン(J. Bourdon) (2) は、一九二九年と一九三五年とについて、次の如き統計的表示を對照せしめて居る。

産兒成長數比較

	一九二九年	一九三五年
出生數	七三〇、〇六〇	六三八、八八一
生年中の死亡	七〇、一〇四	四四、二六七
一歳兒童の成長數	六五九、九五六	五九四、九五六

(2) "La France économique 1935" 一一頁。

之に従へば、なるほど生年中に死亡したる幼児の數こそ、一九三五年には、一九二九年よりも、二五、八三四人だけ少なかつたこと、併しそれにも拘はらず、一歳の兒童の總計は、一九三五年に於て、一九二九年に比すれば六五、三四二人の減少を見たのである。

次に、死亡の數も同様に減少したことは事實である。併し乍ら、それは、出生の數の減少の持続的であり、激甚であることは到底同日の談ではない。しかも一九三八年の死亡率は、六四六、八七九件を以て、其の前年に比較すれば

ば著しく高くすらなつて居る。同年の死亡數は、人口一、〇〇〇に付き一五・四を示し、諸隣國よりも遙に高かつた(例へば獨逸は、一一・九パーミル)、これは主として佛國人口の高齡、不釣合に大なる「祖父母割合」に遡源せらるるものである。

以上を要約すれば、今次大戦参加までの佛國については、簡単に次の如き人口學的診斷を與ふことが出来る。

- (一) 兒童割合の持続的縮小。これは、出生率と死亡率とに變動が無いものと假定すれば、約三〇年後に、人口増加の減小が現はれることを意味する。
- (二) 民族體の高齡。これは死亡率の増加を招來する。
- (三) 年齢ピラミッド圖形に於て、女子側に比して男子側、特に現在四〇—六〇歳の年齢に在る者より見たる男子側の過度の劣勢。

随つて、既に今次大戦の勃發前より、佛國の人口情勢の將來の形態は、識者方面より甚だしく悲觀的に判斷せられて居た。之に關するソーヴィー(Sauvy)の計算に據れば、若し受胎率と死亡率とが一段と降下するならば、即ち、人口進化の動態に於ける現在の傾向が持続するならば、佛國の總人口は、一九八五年、即ち約五十年後には、僅に二千九百五十萬と低下して居るであらう。二〇歳未満の佛國人の數は、約三分の二だけ、二〇歳以上三四歳までの佛國人の數は、約半分だけ減少するに反して、三五歳以上五九歳までの佛國人の數は、單に十三分の一の減少を示すに過ぎないであらう。更に、六〇歳以上の年齢に在る佛國人の數は、却つて四〇パーセントを増加するであらう。五歳未満の兒童の數は、一九三五年に於て、三、二八〇、〇〇〇を算へたるに拘はらず、一九八五年には、辛うじて尙ほ、七



〇二、〇〇を示すに過ぎないであらう。此の計算に添へてソウヴィーイは次の如く述べて居る。曰く、『勝負が、一九八五年を俟つまでも無く疾くに積まつて居るであらうことは明白である。何となれば、しかく強力なる流（出生減退の如き）は、容易に堰き止められ得ないからである。要救植者及貨子生活者の大軍と、國勢復興に取つて必要な児童の多数とを同時に養はんが爲めには、成人々口は莫大なる重荷を背負はなければならないであらう』。

(1) "Journal de la Société de Statistique de Paris" 一九三二年六月號。

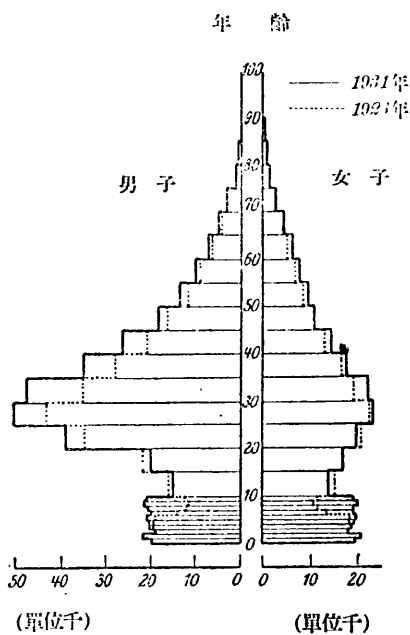
三、佛國將來の人口學的地位的豫測

若し、本篇の冒頭に行はれたる理論的確認を頼りとし、さうして、佛國が今次戦争に於て、復たもや夥しき人命損失を蒙るといふ前提より出發して、此の國の人口學的の將來が如何なる形態を示すかを問ふならば、次の如き、種々なる展望が生ずる。

(一) 有爲なる労働年齢に在る多数の男子の戦死は、先づ第一に、且つ最も多く、經濟的關係に於て甚だ不利なる効果を招來するに違無い。労働力の缺乏、随つて、外國人誘致の必要とは、著しき増大を見るであらう。このことは、前に述べたるが如く、佛國が現在既に、強度なる外力過剰の状態に在るが故に極めて不利である。さうして是以上外國人の『浸透』は、早晚必ず佛國民の靈的——精神的相貌を、著しく變化せしむるに違無い。種々なる職業及社會的身分の外國人への依存性が多ければ多いほど、此の國の政治的並に經濟的地位は、益々不安固、不確實と爲らなければならない。この事は就中、外國労働力の適時の來援——しかも決して確實に保證せられて居るとは限らない

來援に依存する農業について眞實である。併し乍ら、文化的關係に於ても亦、特に、益々多量に、有色人種がアフリカより誘致せらるゝ場合には、佛國の本質に適合せざる心的状態といふ意味に於ける外力過剰と變質との危険は極めて明白である。既に、南部佛蘭西が、日益しに『褐色』に染まり行くことは多年來確認せられて居る。佛國の文化的相貌は、他の因子に依つて制約せらるゝと同時に亦、人種的にも條件づけられて居る淘汰の成果であり、随つて、唯だ、同一種質の人間に依つてのみ保存せられ、發展せられ得るものである。

多数の外國人の永続的在留に依つて醸し出さるゝ外國血液の混入は、今日でも既に、相當であるに違無い。不幸にして、男子外國人と佛國婦人との雜婚、及、此の結婚より生じたる児童の統計が無い。併し乍ら、多数の雜婚並に内縁的關係が、夥しき出生を促したことは、佛國に定住せる外國人の性別と年齢構成とよりして之を窺ふことが出来る。



第二圖 佛國に於ける外國人

此の略圖は、男性外國人の大半が、民族籍より見て對應する相手を、佛國に於て見出だし得ず、隨つて佛國婦人と婚姻上、又は婚姻外の關係を結んで居ることを知らしむるものである。

(二) 斯くの如き戰爭の結果の效果に對比すれば、主として高齡に在る人間の期前の死亡、及、女子の過剩は特に取り立て、いふべきなどの重要性はない。平均死亡率は、勿論、既に現在に於て認めらるゝよりも一層強く出生率を凌駕し、隨つて、人口衰亡は、恐らく、ソヴィエーの計算に従つて豫想せられたよりも遙に急速に進行するであらう。

(三) 戰爭開始の後約九箇月の中に始まるであらう出生減退は、必ず再び、もう一度、即ち第三回目(第一回目は、一八七〇—七一年の普佛戰爭、第二回目は、一九一五—一八年の前次大戰、第三回目は、一九四〇—?)として、先づ一九四〇年の年次出生者、次に恐らくは、其以後(戰爭の繼續に應じて)の數年の年次出生者の大縮小を伴ふであらう。これが二五年乃至三〇年の間隔に於て、再び一箇の人口退歩を惹起するであらうが、それと同時に次の事を考慮に加へなければならぬ。即ち、一九一五—一九年の間に現はれた退歩の波は、尙ほ未だ第二回目となつて現はれて居ない、といふのは、此の波は、一九一五年の衰退年次出生者が、比較的大量に結婚適齡に達する一九四〇年以後に初めて現はるゝ筈なるが故である。父の數の減少に因つて生ずる此の出生杜絶は、現在に於ては、主として兩性の別居と今次戰爭状態の一般的なる精神的及經濟的效果に依つて惹起せらるゝであらう。女子の結婚豫想は、兩性の別居と戦死とに因る男性相手方の數の減少に依つて一層悪化するであらう。

四、佛國最近の人口對策的措置

本年(一九三九年)の夏に至り、佛國の議會は、險惡なる國際情勢に促がされて、遂に人口政策の預域に於ける決定的措置を採ることを餘儀無くせられた。『佛國ノ家族及出生ニ關スル大統領令』、*Decret relatif à la famille et à la natalité française* の標號の下に公布せられた、一九三九年七月二十九日律令は、通計二六七條、(一)家族手當、(二)家族保護、(三)財政規定、及、(四)雜則の四篇より成るものである。此の法律は、今日全然變化したる情勢に拘はらず、簡單に其の内容を紹介する價值がある。といふのは、斯かる法律は、何等かの生物學的弱點の最初の兆候が現はるゝと同時に逸早く制定せらるゝ場合にのみ、僅に人口状態を救ひ得るものであるといふことの一證據となるからである。

一九三九年七月二十九日法律の中、特に著しき措置は、多兒家族に對する物質的扶助の増加である。これは、佛國に於ても亦、原則としては、何等の新機軸でもない。それは、既に前次戰前に於て、多兒家族に對する金錢給與に依りて出生数を促進せんことを試みる必要を感じた最初の國であるからである。其の試の最も著しきものは、一九一三年のシェロン(*Chéron*)法である。同法は、戰後時代に至つて屢次補足せられた。併し乍ら、物質的獎勵に依つて出生数を増加せしめんとするあらゆる努力は、佛國に於てこれまで何等の效果を示さなかつた。一九三九年七月二十九日法律の第一篇第一章に於て、既に第一子に對してすら、それが婚姻成立後の最初の二箇年内に出生したる場合には其の出生地たる縣に従つて二、〇〇〇乃至三、〇〇〇フラン(一三五—一三〇ライヒスマルク)の子寶賞與を支給

すべきことを規定して居る。更に、凡ての賃銀労働者、少くとも二児を有する凡ての父は、學校又は徒弟教育を受け居る兒女が十四歳乃至十七歳に達するまでは、家族手当の請求権を有する。其の最低率は、次子に對して、同該縣の平均賃銀の一〇パーセント第三子に對して同二〇パーセント（従來は、前記賃銀の一五パーセント）第四子以上各子に對して同じく二〇パーセント（従來は一五パーセント）である。此の家族手当は、父の職業又は職業に於ける地位如何に拘はらず支給せられる。家庭使用人及在家労働者も含まれて居る。子の満一歳に達するまでは、月割額を一割にして支給せられ得る。

特別の一節（第二章第三節）に於て、自作農夫及農業労働者に支給せらるゝ手当が取扱はれて居る中に、斯種の手当に對する資金は、雇傭者（全額の三分の一）及國家（同三分の二）に依つて調達せらるべき旨の規定がある。此の外、他の一節（第四節）に於て、『獨立』（*independant*）の労働者、即ち、自ら労働者を雇傭せざる者に對する子寶手当の供與についても亦、國家が同様に、所要費用の三分の二を負擔することが規定せられて居る。之には、自由職業に屬する者も含まれる。官吏及國家使用人は、其の他の父に準ずる。第一篇第三章は『田園逃避防止及農地財産安固ヲ目的トスル農業家族特別規定』と題し、其の中に、婚姻、世帯貸附に關する諸種の規定が掲げられて居る。此の貸附は、農業労働者及自作農夫に對してのみ供與せられ、其の額は、五、〇〇〇フラン乃至二〇、〇〇〇フラン（三三三——一、三三三ライヒスマルク）の間を上下する。此の貸附金は、農業土地、家畜及家具の購入の爲めに使用することを得、且つ、三十歳以下にして既に五箇年間農業に従事し、結婚直後の十年間、農業労働に留まる義務を受諾する夫婦にのみ供與せらるべきものである。婚姻世帯貸附金は、婚姻成立後の第二年より始めて二十回の均一半年

賦を以て償還し、且つ四・二五パーセントの利息を附する。兒女の出生毎に償還額の低減が行はれる。即ち、第一子の場合に於ける〇・五〇パーセントの低減より始まりて選増し、第四子の場合に於ける五・パーセントに達し、第五子の出生あれば、其の當時に於て未償還の金額が免除せられる。貸附の費用は國家が之を負擔する。

特異且つ重要なものは、同章（第一篇第三章）第六十三條以下の規定である。即ち、自作農夫の子女にして、滿十八歳に達したる後直に父の業務を手傳ひ、しかも業務の収入及利息に關與せず、金錢的報酬を受けざりし者は、一定の給料を規定する労働契約の利益を享有する。給料の額は、無料の衣食住の外、男子又は女子の農業労働者の年給料の半額である。此の給料額は一〇箇年間蓄積せられ、父の死後、其の子女の『固有財産』（*Bien propre*）として確認せられる。但し、現實に此の金額を受領し得る者は彼等自身ではなく、其の兒女である。此の規定は結婚及産兒を奨励する趣旨に出づるものである。

次に、同法は、就中、墮胎に對する刑罰の強化に關する規定を含んで居る。胎兒除去に依りて妊娠の生命又は健康を保證する必要がある場合に提出せらるゝ醫師の診断書は、極めて厳密に検査せられなければならないとせられ、隨つてあらゆる産院及病院に對しては最も峻嚴なる監督が加へられる。

最後に、新しく且つ重要な意義を以て現はれたものは、人口政策的教育に關する規定である。これは、あらゆる學校に於て、統計上の限點の下に、人口移動の道德的及民族的結果を引用して授けらるゝものである。

此の法律を通觀するに、原則的に新しきものとして現はれて居るものは、第一、獨逸を模範とせる、但し、田園地域、隨つて農夫の婚姻に限られて居る婚姻世帯貸附金制度の施行であり、第二は、人口政策問題に關する義務教育である。此の措置は、思想及判斷の形成に對する影響に依りて出生数を増加せしめんとする試と見ることが出来る。併

し乍ら、本法の其の他の規定は、悉く經濟的、物質的性質のものである。過去に於ける佛國の經驗に徴するに、これは、單に、そのみを以てしては、産兒精神を永続的に引上ぐるに足らない。與へらるゝ物質的扶助は、通例として、永続的に有効でないことを特徴とする。最初の一兩年の間は、實際的に出産数を刺戟するが、併しやがて此の効力は次第に失はれて行くのである。

* * *

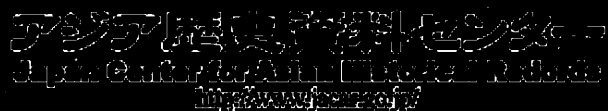
佛國の現在人口が、之に向つて進みつゝある大なる危機に關する本稿を結ぶに當つて、筆者は、尙ほ遙に重大なる一危機を示唆しなければならぬ。それは、長期に亙る西エウロツパの戦争が、凡ての西洋民族の世界地位の上に必定喚起すべき危機である。既に、一九一四——一八年の大戦後にも、あらゆる濃淡度の有色人の、西歐人に對する漸増的敵視の兆候が明瞭に現はれた。前大戦中に、出生減退と死亡率増進とに因りて發生した、そして植民的活動の爲めの適性と意思とを有する西歐人（佛國人及英國人）の缺乏の效果は、既に、世界の到る處に著しき「エウロツパ色排斥」の不斷の増加の中に之を見ることが出来る。それは單に、有色人種の敵抗性に於てのみならず、あらゆる海外諸國の駭々たる工業化に於ても現はれて居る。これが、第二次の西歐戦争の後には、果して如何なるであらうか？ 疑も無く、凡ての西歐敵視的傾向が、強度と持続性とを増すであらう。近々再び、北アフリカ人、黒人、印度人等が武装せられ、軍事的に訓練せられて、白人を敵として進み、白人を義務的に殺すであらうといふ事實其自體が既に、先づ第一に、英國人及佛國人に取つて、厄災的に作用するであらう。果してこれが、世界政策的竝に世界經濟的に觀て西洋の急速なる没落を、其の不可避なる、最早防止すること能はざる結果として齎らさないであらうか？ 吾人は、長期の西歐戦争に依つて、西洋が自己の政治的、及、文化的墓穴を掘ることの憂懼を禁することが出来ない。

合衆國の對中南米貿易に就て

目次

- はしがき
- 一 序言
- 二 對中南米貿易の重要性
- 三 今次歐洲戦前に於ける中南米の輸出貿易
- 四 中南米諸國の合衆國依存度
- 五 合衆國の對中南米輸入貿易
- 六 合衆國の輸入能力
- 七 中南米に於ける過剩物資
- 八 米洲防衛對策
- 九 結言

はしがき——本稿は米誌 Foreign Policy Reports の一九四〇年八月一日號に於ける Howard G. Trueblood : Economic Defense of the Americas (米洲經濟防衛) を全譯、改題したるものである。内容各項の小見出し多くは我々が見て適當と思はれる様に之を改變した。題して「合衆國の對中南米貿易に就て」とは曰ふも、その内容は主として米國の對中南米輸入貿易に關するものであり、就中、第五項に於ては稍、詳細なる説明が分類的になされてゐる。本稿によつても窺はれる如く、合衆國は、對英戰勝利後に於ける獨逸の中南米侵出の企圖を、極度に怖るゝもの如くである。しかしながら市場としての中南米は南洋地方と相並んで、我が國にとつても亦有力なる將來性を有するものであり、複雑なる國際情勢下にあつて、今後の中南米諸國の動向には經濟的、政治的に種々検討を要するものがあらう。本稿が、以て之等への關心の一助ともなる事を得ば幸ひである。



歐洲に於ける獨逸の迅速なる勝利により、「西半球は、世界の他の部分に於ける経済的、政治的發展の影響を被ることなし」との幻想が破壊せられ、米洲國際協力の目標は一年足らずして、歐洲戰亂に對する中立及び孤立の堅持から、西半球現實の防衛へと方向轉換をなした。ナチスの全體主義が米洲諸共和國の經濟組織及び政治理念に挑戦し來り、この挑戰に應ずるために、汎米主義の視野と概念とが著しく擴張されるに至つた。

合衆國は、米洲共和國聯合の盟主として、西半球の経済的、政治的防衛強化への努力の先導を取り、國務省は一九四〇年六月十七日、覺書を以て、獨、伊並に英、佛、蘭に對し「合衆國は西半球内の如何なる地域をも、米洲以外の一國より他國へ之を讓渡するを認めず、また讓渡せんとを試みを默認せず」との警告を發した。同じく十七、十八日の兩日、議會の兩院も亦同様の警告を含む決議を可決し、またウルグワイ駐劄の合衆國公使は、六月二十三日、合衆國巡洋艦クインシー號乗組士官招待の午餐席上、更に之を強調して「米洲以外の國より來つて、我々の政治的、経済的自由を危くするが如き一切の行動を壓服するために協力を必要とする場合、他の全米洲諸國政府と十分に協力をなすことは、合衆國政府公認の政策である」と述べてゐる。

この遠大なる汎米主義の表明は政治的、軍事的方面のみならず経済的方面に關する行動をも意味するものである。六月二十二日、ルーズヴェルト大統領は西半球の經濟防禦に關する浩瀚なる計畫を發表し、米洲諸共和國に於ける重要輸出品の共同販賣の有效なる制度を初めとし、その他貿易關係の根本的問題を處理するため、適當なる米洲國

際機構を設置する意圖を具體的に示した。大統領は更に「政府は多くの現存機關を通じて、日下一部の米洲共和國が直面してゐる直接の困難の處理に、迅速活潑に着手する意向を有する」と述べてゐる。七月二十二日、ハバナに於ける第二次米洲共和國外務大臣會議 (Second Consulting Meeting of Foreign Ministers of the American Republics) に於ける演説に於て、國務長官コーデル・ハルは經濟的方面における協力を關する計畫を左の如く概説してゐる。

- 一、「米洲財政經濟諮問委員會」の活動を強化擴充して貿易問題に關する協議繼續の機關とすること。
- 二、米洲諸共和國の經濟生活の維持に最も必要な物資に蓄積過剩を生じたる場合、必要に應じてその臨時的處理及秩序ある賣捌きをなすための施設を創設すること。
- 三、關係物資の生産國、消費國間の妥當なる通商上の條件の確保と云ふ見地から各種物資協定を進展せしむること。
- 四、米洲諸國民の生活標準向上のための方策を考慮すること。

一一 對中南米貿易の重要性

軍事的意義に於ては、合衆國の防衛は西半球全體の防衛を意味する。新大陸の如何なる部分にも、歐洲諸國の軍事的基地の設定を許容せず、とは合衆國に於て久しく以前より認めらるゝ所である。空軍の發達により、遠隔なる中南米の隨所の地點から、パナマ運河の如き交通線を破壊することが、敵國にとつて理論的に可能となつた。従つて合衆國の軍事的防衛のためには、中南米諸國の外交的協力が必要であり、この種の協力は、中南米の一國が若し強力なる敵國によつて支配されんか、その強化の不可能なることは明瞭である。しかも歐洲に於ける最近の事態はかゝる敵國

の支配達成には必ずしも軍事的征服の不必要なることを實證して居り、同様なる結果は、内部に於て秘かに政府を顛覆せんとする「第五部隊」戦術によつても、また政治的目的を有する経済的壓迫によつても之を達成することが出来るであらう。

現在では西半球によつての主要なる危険は、獨逸が一度び歐洲の支配を確立したる際に、中南米に向つて貿易上の進出を集中的に開始するや否やにある。この種の進出は経済的擾亂と云ふよりは、寧ろ政治的のそれの故に、合衆國にとつて恐るべきものである。ナチス支配下に置かれたる歐洲は中南米の莫大なる原料及び食糧品を必要とし、それと交換的に完成品の大量供給者としての地位に立つに至るであらう。また恐らく中南米諸政府の軍事的野心に對し魅力的條件を以つて多量の兵器販賣者となるであらう。正常なる状態にあつては、合衆國は中南米の輸出品の三分の一を引受けるに過ぎないし、一方、歐洲はその二分の一以上を輸入する以上、獨逸の取引上の地位は合衆國のそれより少なからず優勢であると云ふべきである。かゝる事情の下に於ては、獨逸の政治哲學と貿易方針とに嫌惡の情を生じても、中南米諸國が道義的理由からその多量なる過剰食糧品、原料賣付けの可能性を拋棄することは殆んど不可能であらう。たとへそれを欲して、どの國も單獨に賣付けを拒絶することは出来ないし、また單獨には獨逸の要求を拒絶すべき経済力も軍事力も有しない。而してこの要求たるや究極に於て獨逸の政治的支配を招致する所のものである。

かくの如き獨逸の支配は、合衆國の戦略的原料の補給によつて明瞭なる脅威となる。合衆國の國防によつて不可缺なる之等中南米の戦略的原料資源の多くは、中南米の輸出總額に關する限りは、大なる意義を有するものではないが、合衆國によつては、不可測なる將來の價値を有するものである。陸海軍々需品委員會 (Army and Navy Munitions

Board) は現在十四種目の戦略的原料を登録し、之に對して嚴格なる保存及配給統制の手段を必要としてゐる。次の如きものである。(一)アンチモン (二)クロム (三)椰子殻炭 (coconut shell car) (四)含鐵マンガン (ferro-Grade manganese) (五)マニラ麻 (六)水銀 (七)雲母 (八)ニッケル (九)水晶 (十)キニーネ (十一)護謨 (十二)生絲 (十三)錫 (十四)タングステン、である。

(譯註) 合衆國の戦略的原料に關してはその沿革、變遷に就き、既に、本誌第三卷第五號に於て概略を紹介した所であるが、その際、一九三九年一月七日陸海軍々需品委員會の公表せるものとして十七種目を挙げておいたが、本稿原資料脚註によれば、更に之が一九四〇年三月に至つて右の如く十四種目に改訂されたと報じてゐる。即ちさきの十七種目よりアルミニウム、光學ガラス、羊毛の三種目を減じた事になる。

中南米はアンチモン、マンガン、水銀、水晶、タングステンの重要生産國であり、その他、雲母、クロム、椰子殻炭も現在一定量の生産があり、更に今後の増産の可能性も存する。また、中南米の大部分はその氣候的條件がマニラ麻 (abaca)、キニーネ、護謨の栽培に適してゐる。しかし之は合衆國の需要を充足する程の供給をなすには長期の増産計畫の樹立を必要とする。

中南米の資源は更にまた合衆國の平時經濟にとつても不可缺なるものである。如何なる國と雖も、原料、食糧品、工業能力、運輸施設、資本、勞力等の各資源の保有に關して合衆國に勝るものは無い、にも拘らず、合衆國はその高度の一般生活標準に關する物資は、多く之を中南米に依存してゐる有様である。就中、アルミニウムの製造原料たるボーキサイト、バナナ、ブラジル・ナッツ (Brazil nuts)、カーナウ、蠟 (carnauba wax)、蓖麻種子 (castor bean)、チクル (chicle)、ユーヒー、亞麻仁 (flaxseed)、規那皮樹 (quebracho) は事實上中南米の獨占物であり、之等の多く

は他國に於ては十分に入手することの出来ないものである。

中南米諸國はまた、シザル麻類 (sisal and henequen)、砂糖、コ、ア、皮革類 (hides and skins)、マンガン、羊毛の重要供給國であり、平時の状態に於ても、之等物資の購入先を世界の他の部分に變更することは極端に困難であり、現下の情勢にあつては、恐らく殆んど不可能な事であらう。合衆國の對中南米輸入品として擧げらるゝ物資の多くは、他國にあつては奢侈品の分類に属するものであり、特にコーヒー、コ、ア、チクル、バナ、に於て然りである。然し、之等及びその他の物資も、西半球内に於て入手の容易と云ふ事實により、既に合衆國に於ける奢侈のカテゴリーから抹殺せられんとしつつある。

ヒットラーの閉鎖經濟 (closed economy) 創始の努力、及び戦後獨逸の植民地獲得の可能にも拘らず、歐洲全體としては、中南米の資源に依存することなしに濟ませると云ふことは極端に困難な事に屬する。一九三八年には、英本國はその輸入の一・一パーセントを、獨逸は一五・六パーセント、佛國は九・一パーセント、伊國は七・七パーセントを夫々中南米に仰いだ。この比率は輸入總額からみれば高いものではないけれども、歐洲の原料需要の大部分はこの中南米よりの購入によつて占められてゐる所である。この貿易における主要物資は、石油、コーヒー、穀類、肉、棉花、銅及錫であり、之等は歐洲に於ては何れも自足し得ざるものである。従つて西半球内に吸収せられた殘餘の中南米輸出品が、戦後獨逸のこの地域に對する政治的進出の原因となるものであらう。

三 今次歐洲戦前に於ける中南米の輸出貿易

米洲に於ける經濟衡計畫の有效なる進展のためには二大問題の解決が必要である。一は、合衆國の問題であり、その輸入需要の最大限を中南米より充足すると云ふことであり、二は、中南米の問題であり、經濟的、政治的に歐洲依存を強要せらるゝことなく、通例西半球内に於て賣捌けざる過剩物資に對する市場を發見することである。

この問題を分析するためには、戦前に於ける中南米輸出品貿易の基礎を簡單に吟味するを要する。一九三八年に於いて、二十箇國の中南米共和國の商品輸出は十八億二百三十萬弗に達し、その中三〇・二パーセントは合衆國向、一六・八パーセントは英本國向、一〇・五パーセントは獨逸向と夫々三大市場に輸出せられてゐる。對合衆國輸出は非價にすれば五億四千三百九十八萬九千九百九十九弗であり、合計六億一千七百四十萬弗が英、獨、佛、伊、日向で、殘額六億四千九百九十九萬一千九百九十九弗がその他諸國向輸出である。この殘額中の約二億弗は歐洲諸小國、主としてオスロー諸國向を表はすものであるが、この北歐諸國向輸出は近年に於ける中南米輸出の約一〇乃至一二パーセントに當る。合衆國を除く西半球諸國向輸出は約二億弗に達してゐる。但し之には精製、再輸出のためヴェネズエラより蘭領西印度へ輸出された石油を含まない。この石油輸出は二億一千五百六十萬七千七百九十九弗に達し、世界の他の部分への輸出は極めて僅少である。以上の計算は評價方法の不一致、その他の原因に基き、必然的に粗雑なる評價である。しかし大體、戦前三年間に於ける中南米輸出の約四〇パーセントは西半球に向けられ、西半球以外に輸出せられた六〇パーセントは、一九三六—三八年の平均年額、約十二億弗に達してゐる。但し之には合衆國の再輸出の分は含まれてゐない。

中南米二十箇國の貿易統計によれば、對合衆國輸出の一九三六—三八年の平均は六億三千六百七十萬弗であり之に對し、合衆國の資料によれば、その同期の對中南米輸入は六億六千三百十萬弗である。(但し純金、純銀の輸入を

合衆國の對中南米貿易に就て

含む) 兩者の各年毎の數字には可成りの開きがあるが三箇年の平均は見事に接近して居り、之によつて中南米の對合衆國輸出は實際は同期中年額六億五千萬弗附近であつたとの結論に達する。この總額には平均一億二千五十萬弗の金の輸出を含むが、之はアルゼンチンの準備金流出の場合とは別として、貨幣としての移動よりは寧ろ商品として移動せるものであり、中南米諸國中に之等貴金屬の重要産出國が存するに依るのである。更にこの總額には殆んど大半を精煉再輸出する銅の年平均二千八百七萬五千弗の輸入を含む。合衆國は油製品の大輸出國であるがまた二千二十八萬八千弗の石油を輸入してゐる。従つて合衆國の實際の中南米物資消費高は總計の示す所より可成り低額である。

合衆國の對中南米輸入物資は、重要性の順に従つて列ぶれば、コーヒー、砂糖、バナナ、亞麻仁、皮革類、羊毛、コ、ア、糖蜜 (molasses) 及び硝石類 (nitrates) であり、金、銀、石油、銅は別として、この九種目の物資は一九三六—三八年の合衆國輸入總額の七三パーセントを占めてゐる。中南米二十箇國の輸出機構は、大體二十種目の生産物と物資群とに依存して居り、之等は一九三八年にはその輸出總額の八八パーセントを占めてゐる。合衆國はこの中の半数即ちコーヒー、砂糖、金屬類 (銅、錫を除く)、亞麻仁 (linseed)、胡桃、蠟類、油等、硝石類、バナナ、「家具用木材 (cabinet wood)」、大型建築用木材 (timber) 及規那皮樹、コ、ア、及び「ヘネケンその他の纖維類」等に對する重要市場であつた。

中南米輸出の七〇パーセントを占むる十種目の主要物資のうちでは、合衆國は僅かに三種目即ちコーヒー、砂糖、「銅錫以外の金屬類」の主要市場をなすに過ぎず、石油、肉類、銅、羊毛、棉花、皮革類、小麥はその他の國を主要市場としてゐる。小麥の主要消費國はブラジルであるが、その他の場合はすべて歐洲諸國である。合衆國が中南米の主

要輸出品中、その最低半額の購入をなしたものは僅かに六種に過ぎない。即ちコーヒー五七パーセント、砂糖七二パーセント、胡桃、蠟、油類等五二パーセント、バナナ、七九パーセント、コ、ア六七パーセント、纖維類六二パーセントである。合衆國が多量に輸入してゐる之等の物資ですら尠ならず過剰を生じて居り、平常は之が西半球以外に賣捌かれてゐる事は明らかである。更に合衆國は一九三八年に於ける中南米の油類輸出の約五分の一、肉類の五パーセント、銅の三パーセント (再輸出を除く)、羊毛の八パーセント、棉花の二パーセント、皮革類の二四パーセント、小麥、玉蜀黍は皆無、その他の穀類の四パーセント、錫の二パーセントを僅かに買付けたのみである。

四 中南米諸國の合衆國依存度

中南米諸國の合衆國に依存する程度には國により大なる相違がある。一般的に云へば、中南米の輸出品市場としての合衆國への依存度は北より南に至るに従つて遞減する。カリブ海諸國は全體として一九三八年中、合衆國への輸出の四八パーセント以上を賣付けてゐるが、之はこの一群の國家を、決定的に合衆國の經濟圏内に置くものである。そのうち、次の七箇國はその六〇パーセント以上を合衆國に輸出してゐる。即ち(一)パナマの八九・二パーセント、(二)ホンデュラスの八六・五パーセント、(三)キューバの七六パーセント、(四)グアテマラの六九・四パーセント、(五)メキシコの六七・四パーセント、(六)ニカラグアの六七・三パーセント、(七)エル・サルバドルの六一・八パーセントである。パナマ運河の經濟的影響により、パナマは完全に合衆國に依存し、一方米人旅客の消費はキューバ、グアテマラ、メキシコにとつて極めて重要なものである。之等諸國の經濟は、甚しき困難なくして直接に合衆國の經濟にリ

ンクすることが出来るであらう。

その他のカリブ海諸國のうち、ドミニカ共和国、ハイチ、コスタリカ、コロンビアは、合衆國への依存度は之等よりは稍々軽く、その輸出の四四パーセントを吸収されてゐる。カリブ海諸國中、合衆國を主要輸出先としない唯一の國はヴェネズエラであり、一九三八年中の直接合衆國向け輸出は僅かに一三・二パーセントに過ぎない。しかし之とて間接には蘭領印度を通じて大量の貿易が行れてゐる。その上、ヴェネズエラは、大量の石油を輸出し、合衆國はその大部分に對する金融的支配によつて、少くとも理論的にはその輸出を左右する地位にある。

その他の中南米八箇國、即ちコロンビア、ヴェネズエラ以外の南米共和国には極めて困難なる貿易上の問題が横つてゐる。この八箇國によつて、一九三八年の中南米貿易總額の五八パーセントを占め、就中、合衆國對ブラジルの經濟關係が最重要である。ブラジルの輸出の三分の一以上を合衆國が吸収し、西海岸の諸國ボリビア、チリ、エクアドル、ペルーはその輸出總額の五分の一を合衆國に賣付けてゐる。東海岸に於ては一九三八年中、アルゼンチン輸出の八・五パーセント、ウルグワイの四・一パーセント、パラグワイの二・二パーセントを合衆國に賣つたのみである。

中南米の過剩物資の問題は大半、アルゼンチン、ブラジル、チリの三國より合衆國以外に賣付ける物資に關するものである。一九三八年に於けるこの三國の輸出合計は九億八千四百四十萬弗に達し、その中合衆國向は僅かに一億五千七百三十萬弗で、殘餘の七億五千五百萬弗は他國向である。之には西半球の他の市場向、殊にアルゼンチン小麥のブラジル向を含んでゐるが、例へば玉蜀黍、肉、棉花、銅、硝石類の大量過剩が西半球外に送られてゐる。

五 合衆國の對中南米輸入貿易

中南米の經濟問題は僅かにその一部が合衆國內新市場の開拓によつて解決され得るに過ぎない。合衆國と中南米とは直接に相互補充の關係にあるものでなく、現在の資本主義的配給機構下に於ては、共に互に使用しきれないと考へらるゝ程の多くの物資を産出する。多くの過剩物資現象は、各般の經濟統制措置を合衆國國民に課することにより、生活標準の向上により、迅速なる戰時機構の整備計畫により、一定時期後には除去せられ得るかも知れない。しかし、一方に於てまた重要な事は、可能ならば、合衆國內に於ける中南米物資の消費の増大を圖る努力をなすと云ふことである。之に較ぶれば合衆國物資の對中南米輸出を増加せしむる方の努力の重要性は遙かに稀薄である。之は中南米市場が合衆國の經濟上の地位に於ては殆んど重要な要素をなさず、既に合衆國は中南米諸國の全需要に應ずるだけの能力を現に有するからである。

普通に於ける合衆國の對中南米輸入品は之を四つに大分類することが出来る。

第一類は熱帯並に温帯産物であり、合衆國が殆んどその全部を中南米より購入するもの。

第二類は合衆國の輸入需要に關する限り、中南米が全く之を獨占してゐるわけではないが、その供給については中南米が世界の他の競争國をリードしてゐる物資を含む。

第三類は中南米より大略二五パーセント以上五〇パーセント未満の供給をなしてゐる産物を含む。

第四類は現在輸入してゐるもの然らざるものの兩者を包含してゐるが、合衆國市場のために將來増産をなし得る中

南米物資である。

次に掲ぐる表は中南米二十箇國の獨立共和國に對する合衆國輸入貿易に關し、官廳統計に基き、右の四大分類の相關的重要性を表示するものである。(歐洲諸國の植民地を含まず)

第一類	合衆國の對中南米輸入額 (一九三六—三八年平均、單位百万弗)		總額に對する 同百分率	對中南米輸入額合 計に對する百分率
	合衆國輸入總額	對中南米輸入額		
第一類	三〇二・〇	二八三・七	九四・〇	五三・一
第二類	一六九・八	一〇五・四	六二・一	一九・七
第三類	一六六・九	五八・三	三四・九	一〇・九
第四類	三四五・五	四・八	一・四	〇・九
其他	一、四七七・一	* 八二・五	五・六	一五・四
合計	二、四六一・二	五三四・七	二二・七	一〇〇・〇

* 印には一九三六及一九三七年の合衆國の變調に基く玉獨麥の平均輸入二、〇四一、〇〇〇弗を含み、更に、平均額六、八八三、〇〇〇弗の葉卷の芯 (cigarette filter) を含む。

第一類は最も重要な分類である。中南米が既に之等物資の供給に事實上の獨占を握つてゐる以上、他の供給源が中南米に取つて代はる餘地は比較的少ない。従つて之等の物資に對する合衆國市場の擴張には、すべて合衆國の國內消費の増加を俟たねばならない。合衆國の大規模國防準備は多くの場合殆んど自働的に消費の増大を招來するであらう。またこの第一類に於ける物資の輸入は全て——コーヒーは例外であらうが——それが再軍備計畫によつて招來されたものにせよ、然らざるものにせよ、經濟的回復に好影響を及ぼすであらう。

第一類 (一九三六—三八年平均、單位千弗)

品名	合衆國の輸入總額		對中南米輸入額	總額に對する 同百分率	他國より入 手せる殘額
	一九三六—三八年平均	單位千弗			
バナナ	二九、九七一	二九、九七一	一〇〇・〇	—	—
パイプ・ナッツ (Pipissu nuts)	二、一一五	二、一一五	一〇〇・〇	—	—
ブラジル・ナッツ (Brazil nuts)	二、七三七	二、七三七	一〇〇・〇	—	—
臘詰牛肉	六、六五二	八、六九三	九九・八	—	—
カーナツバ・蠟 (Carnuba wax)	四、三三八	四、三三一	九九・八	—	—
蓖麻種子 (Castor beans)	三、一〇四	二、九六九	九五・七	—	—
チルク (Castor oil)	二、三五七	二、三五七	一〇〇・〇	—	—
コーヒ	一四〇、七八七	一三五、二二〇	九六・〇	—	—
銅	三六、九三三	二八、〇七五	七六・〇	—	—
亞麻	二四、二四四	二二、七四三	九三・八	—	—
糖	一一、七八一	一〇、二八七	八七・三	—	—
蜜 (Molasses)	一〇、四九七	一〇、四六六	九九・七	—	—
硝石	二〇、八七一	二〇、二八八	九七・二	—	—
石油	三、五七三	三、五七三	一〇〇・〇	—	—
規那皮	三〇、九六〇	二八、七七二	九四・〇	—	—
合計	—	—	—	—	一八、一八九

第二類は、主としてキューバより、殆んどその全額を入手してゐる砂糖があるので、合衆國にとつて大切である。砂糖の殘額(他國より輸入せる部分)の五千六百六十一萬三千弗(ペルトリコ及ハワイよりの供給を除く)はフィリピン群島よりの輸入を表示する。必要若くは希望とあらば、中南米がフィリピンに取つて代ることの出来ることは殆んど疑問の餘地はない。第二類のその他の物資、即ち鐵礦及びシザル麻類 (Sisal and Henquen) も直ちに合衆國の



輸入需要を充たす程度に増産が可能であらう。鐵鑛は現在、主としてチリーの「ベスレーム銅會社」の所有地、及びキューバより輸出されてゐるが、しかしブラジル、ヴェネズエラも亦相當の鑛床を有する。シザル麻類の輸入は主としてメキシコの産であるが、今次歐洲戰の勃發當初六ヶ月の間に、量に於て一三六パーセントの増加を示したことは注目に値することである。

第二 二 類 (一九三六—三八年平均、單位千弗)

鐵鑛	シザル麻類 (Isal and henegon)	砂糖	合 計	合衆國の輸入總額	對中南米輸入額	總額に對する 同上百分率	他國より入 手せる殘額
五、四七〇	一一、七四四	一五一、五五六	一六九、七七〇	三、四四八	六、九六一	六三・〇	二、〇二二
				九四、九四三	六二・六	五四・六	五、七八三
				一〇五、三五二	六二・一	六二・一	五六、六一三
							六四、四一八

第三類に舉ぐる物資は、中南米商品中、合衆國に於ける國內消費の迅速なる増加可能性の最も多いものである。従つてこの中、若干の重要物資は特に分離説明の價值を有する。

第三 三 類 (一九三六—三八年平均、單位千弗)

結 縛 用 燃 絲	コ 棉 實 油	皮 革 類	マン ガ ン 類	合 計	合衆國の輸入總額	對中南米輸入額	總額に對する 同上百分率	他國より入 手せる殘額
三、八三八	五三、一六五	七、〇一四	五一、九〇二	八、六八〇	一、二四四	一五、八八七	三二・四	二、九五四
					一、二四四	二、三六三	四五・二	一九、二七八
					二、二二七	一九、三〇四	三三・七	四、六五一
						二、二二七	三三・二	三二、五九八
						八、六八〇	二五・七	六、四五三

棕 櫚 油	羊 毛	鉛	合 計	一九三六—三八年平均	三八年平均	單位千弗
一、二〇五	五七、四〇四	一、七〇一	一六六、九〇九	三八六	三三・〇	八一九
				一六、四五二	六・七	四〇、九五二
				四二二	二四・八	一、二七九
				五八、二八五	三四・九	一〇八、六二四

コ、ア——一九三六年—三八年の三年間に中南米は合衆國コ、ア需要の四五パーセントを供給し、その殘餘は主としてアフリカより供給せられた。中南米における生産高は合衆國平時の消費高に達せず、その全需要を直ちに西半球にて充足することは不可能である。従つて、合衆國が中南米の全生産を引受けるならば何等問題は起らぬであらう。また長期増産計畫に對する十分の理由ともなる。

皮革類——現在合衆國はその皮革輸入の三七パーセントを僅かに越す程度を中南米より輸入してゐるに過ぎないが、少數の特殊品を除けば、恐らくその全需要を中南米によつて充たすことが可能である。單に一九三八年のみを云へば、中南米皮革輸出の僅かに二四パーセントが合衆國向けとなつてゐるに過ぎない。

マンガン鑛——中南米のマンガン鑛は合衆國にとつて高度の戰略的重要性を有するものであり、その輸出増加も相當の見込みがある。主なる生産國たるブラジル、キューバの生産高を合せても、現在では合衆國の輸入要求に十分應ずることを得ないが、兩國生産は今後急激に増加せしむることが出來ると信じられてゐる。この兩國によつて合衆國の對中南米マンガン輸入の百分率が、一九一四年の總額に對する二五パーセントから、一九一八年には九二パーセントに上つたと云ふ例がある。

羊毛——中南米の羊毛に關しての合衆國の立場は皮革類の場合に於けると同様である。純粹に量的觀點から云へ

合衆國の對中南米貿易に就て



ば、中南米は、合衆國の全輸入を供給し得る。例へば一九三八年の中南米の輸出總額はその對合衆國輸出の十二倍に達してゐる。たゞ難點は合衆國の要求する各種品等を盡く中南米より供給し得ないことである。然し、從來海外に賣付けてゐたアルゼンチン羊毛の大量は合衆國內に於て消費が可能であらう。第一次大戦の結果として合衆國の對中南米羊毛輸入は、一九一四年には總額の二一パーセントであつたものが一九一八年には六六パーセントに増加してゐる。

第四類の物資は、更に之を三つに小分類することが出来る。第一は、現在大量入手の見込みはあるが、競争その他の理由により、普通には合衆國向輸出のないものである。このカテゴリーに屬するものとして積如樹の實 (Cashew nuts)、クビオカ (Cajouca)、コブラ、椰子油、錫及クングステンがある。

第二はマニラ麻 (abaca) 絹綿、護謄の如き新産物であり、一定年月後には大量生産の可能性を有する。

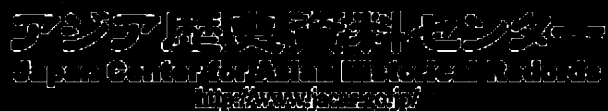
第三は現在少量の合衆國向輸出があり、夫々今後發展の可能性を有するものである。クローム鐵礦、長纖維棉花 (long staple cotton)、工業用ダイヤモンド、ブラチナ、除蟲菊 (Pyrethrum) 及びワニラ豆 (vanilla beans) 之に屬する。

第四類 (一九三六—三八年平均、單位千弗)			
	合衆國の輸入總額	對中南米輸入額	他國より輸入せる殘額
マニラ麻 (abaca)	五、五三四	—	五、五三四
積如樹の實 (cashew nuts)	三、七七八	六	三、七七二
綿羊、仔羊、山羊の腸	七、〇六五	七四三	六、三二二
總額に對する同率			
對中南米輸入額		一〇・五	

第一類 (一九三六—三八年平均、單位千弗)			
	合衆國の輸入總額	對中南米輸入額	他國より輸入せる殘額
クローム鐵礦	五、五三七	三〇六	五、二三一
コブラ	一一、五八〇	—	一一、五八〇
椰子油	一四、五〇六	—	一四、五〇六
棉花 (長纖維)	五、七三〇	六五	五、六六五
工業用ダイヤモンド	五、〇二八	五六〇	四、四六八
絹綿	二、八五三	七七	二、七七六
オセイン (ossein)	一、七〇九	—	一、七〇九
棕櫚油	一一、一九七	—	一一、一九七
ブラチナ	四、七五六	八一四	三、九四二
除蟲菊 (Pyrethrum)	一、八八〇	二二	一、八五八
護謄	一七八、五九六	一、四九九	一七七、〇九七
クビオカ	五、八〇四	一〇〇	五、七〇四
錫	七四、八六五	—	七四、八六五
タンゲステン	一、五三二	七〇	一、四六二
ワニラ豆 (vanilla beans)	二、五七二	五二三	二、〇九四
合計	三四五、五三二	四、七八五	三四〇、七三七

合衆國農務省及びその他の機關の指導による調査に従へば、合衆國が必要とし、しかも現在は極東或はアフリカより輸入してゐる熱帯産の林産物、農産物の大半は中南米に於てもその生産が可能であると指摘せられてゐる。

一九三六—三八年の間には合衆國は年額平均三百七十七萬八千弗の積如樹の實 (Cashew nuts) を輸入した。ブラジルはその大量生産國であるが、合衆國への輸出は殆んど閉却されてゐた。しかし近代工場組織の發展と適當なる機械の設備とによつて、ブラジルが之を合衆國に供給することも可能となるであらう。クビオカも亦、その原料た



るマンチオカ (manioc) の根がブラジルに於て大量に入手可能である以上、之と同様である。コブラ及椰子油は中南米の熱帯地方に於て供給し得る物であるけれども、實際は、半ば關稅特惠のためフィリピンの獨專物となつてゐる。棕櫚油は現在は蘭領印度から入手し得るが、この生産も亦可能であり、既に實及核 (nuts and kernels) は合衆國に輸出してゐる所である。コブラ、椰子油、棕櫚油は積如樹の實 (cashew nuts) やクビオカの場合と異なり、一朝にして合衆國の全需要を充足せしむることは不可能である。

ア、バ、カ (Manila) は現在試験的に中南米、主としてコスタ・リカにて培養中に過ぎない。従つてたとへ直ちに大規模計畫に着手したとしても、之が増産には多年の歳月を要するであらう。この外、更にセイバ (coba) の莢を原料とする綿綿、規那樹の樹皮から採るキニーネ、各種の菊科植物の乾花なる除蟲菊も増産の可能性を有する熱帯産物であり、ソニラ豆は従來は主として西半球外の佛領植民地より入手したものであるが、この増産も亦可能である。

クロム鐵礦——之は陸海軍々需品統制委員會の戰略的物資の一であり、多くの鋼合金の製造に不可欠のものであるが、その調達に極めて困難である。キューバは現在、中南米に於けるその唯一の生産國であり、近年の生産高は合衆國全需要から云へば僅かにその一小部分を供したに過ぎない。更にこのキューバの生産は耐火性用途には適するが、冶金學的用途には不適である。しかしコストを無視するならば製煉は可能である。ブラジルにもクロム鐵礦の廣大なる富藏があると云はれてゐるが、開發には限度がある。

ゴムは平時に於ても戦時に於けると同様、極めて重要な用途を有するものであるが故に、中南米に於けるその供給能力は、他のすべての戰略的物資より大なる關心を喚起してゐる所である。ゴムはコーヒー、砂糖と並んで合衆國

の三大輸入品の一であり、極く少部分を除いては殆んど全部中部東洋即ち英領馬來及蘭領印度より輸入してゐる。護謨樹は中南米原産のものであり、現在も尙ほ野生の護謨が少量は採取され、一九三八年には一萬五千噸を産した。恐らく最大限度約二萬五千噸の増産が可能としても合衆國の平時に於ける一年の消費約五十萬噸に比較すれば、瑣々たるものである。過去數年間、中南米に於て合衆國の民間事業家により若干、護謨の試験的栽培が行はれ、農務省は今後の調査のために一九四〇年度五十萬弗の經費を獲得した。遠からず實現する筈の現在の計畫によれば、七、八年後には、合衆國の生護謨需要の約一〇パーセントを中南米に於て生産し得る事になつてゐる。従つて現在のゴム貿易が萬一遮断せらるれば、合衆國は、古ゴム回收、代用品の使用及び市民消費の最少限の縮少によつて、その艱難に對處するの餘儀なきに至るであらう。

錫——錫も亦合衆國の戰略的資源の一であるが、殆んど中南米からは入手してゐない。一般の所信に反し、唯一の産錫國たるボリビアも、たとひ製煉所を合衆國內に設置したとしても合衆國の平常需要にすら應じ得る見込はない。ボリビアの生産は數年來、年々減少しており、専門家は約二萬五千噸、即ち、合衆國の平時輸入額の約三分の一の年産は短期間の生産であると云ふ中正なる評價をなしてゐる。若し西半球防衛と中南米の經濟的支持のために、錫製煉所を合衆國に設けコストに關する點を不問に附するならば、ボリビアの錫も恐らく合衆國の軍の全需要は充たすことが出来るであらう。民需は代用品使用によつて押へることが出来やう。

タングステン——之もまた合衆國にとつて將來相當の重要性を有するものである。一九三八年にはボリビアに於て二千五百三十噸の精礦 (concentrate) を生産したが之は一九三四—三八年間の合衆國平均年消費量約四千五百九十

順に匹敵せしめ得るものである。アルゼンチンも亦、相當量のタングステンを産出し、一九三七年は一千六十三噸を産してゐる。一方、チリ、ペルーも共に近年少量の産出がある。然し、ボリビア一國で一年四千噸を産出し得ると信ぜられ、之と合衆國の同量の産出とを合すれば合衆國の需要にとつては十分であらう。

第四類に於けるその他の物資は戦略的に見て何等大した價值を有するものではないが、その消費は何れも増大せしめ得るであらう。

綿羊、仔羊、山羊の腸類 (sheep and lamb, and goat casings) に對する合衆國の輸入需要に關しては、中南米より入手し得る正確な分量を決定する前に、先づ將來の供給力の完全なる精査が必要である。しかしこの貿易は恐らく迅速に擴張せしめる可能性があると思はれる。同様の事は工業用ダイヤモンドに就いても言ひ得る。之はブラジルが既にその重要生産國である。ペルーはその長纖維棉花の殆んど全收穫を現在、英國に賣付けてゐるが、恐らく之は合衆國への大量供給國たるエチプトと入れ替る事が出来るものである。合衆國はまた現在コロンビアに於けるプラチナ産出の事實上全部を吸収してゐるが、之も必要ならば増産の可能性がある。オセイン (ossein) はゼラチンの製造その他の目的に使用するものであり、之は殆んど全部を白耳義より輸入してゐる所であるが、アルゼンチンに於てその米國市場向の製造が可能である。即ちアルゼンチンに於ては必要原料たる骨類を有し之を處理する水鹽酸をも産するものである。

六 合衆國の輸入能力

中南米の資源と、合衆國の消費との双方を、各物資毎に徹底的に調査をするに非れば、近き將來に於ける合衆國の對中南米輸入の増大の豫想に關しては、極めて漠然たる一般論しか樹ち得ないであらう。今次戦争の初め六ヶ月間に於ける貿易統計の分析によつて若干の趨勢の打診は可能である。この期間中、即ち一九三九年九月乃至一九四〇年二月は二十箇國の中南米獨立共和國よりの米國輸入額は二億八千五百二十八萬弗で、前年同期の二億一千五百二十七萬三千弗に比し三二・五パーセントの増加である。一年を單位とすれば之は約一億四千萬弗の増加を意味する、しかし、一般的標準から云へば異常に低い。比較的には、箇々の少數の物資は相當、價格の上昇を示して居り、砂糖、羊毛、皮革類、銅（製煉及再輸出用）は輸入の全般的伸長に對し著しく貢獻し、一方、蓖麻種子 (castor bean)、カーナウバ蠟、ケブラチヨール・エキス及シザル麻類の如き小額産物も、著しき増加率を示してゐる。また他方面に於ては、中南米の主要産物たるコーヒー、ココア、バナナ、肉、石油の合衆國輸入額は僅少の増加を示したに過ぎず、亞麻の輸入の如きは前年に比し、四二・六パーセントの減少である。

同期間に於ける合衆國の對中南米輸出は一九三八年の同期の二億三千四百二十萬一千弗から、三億五千九百六十六萬五千弗に上つた。之は五三・六パーセントの増加である。即ち一年を單位とすれば、約二億五千萬弗の増加であり、之は中南米が合衆國物品に對して支拂ふものである。換言すれば戦争の初め六ヶ月間の米洲國際貿易の記録は中南米が今後海外より獲得出来ない需要に對する米國の供給能力を示すものであり、同時に、この事はまた合衆國が、中南米の失へる顧客に代りてその物資を受け得なかつた事を示す。

第一次世界戦のさなか、一九一八年における米國の對中南米輸入は一九一三年に比し、六億五千萬弗の増加を示し

た。即ち一三六パーセントの増加である。第一次大戦の最終年には、合衆國は中南米の輸出の約四七パーセントを吸収し、中南米からの輸入需要の三七パーセントを確保した。之に比すれば最近の平均は、夫々前者は三一パーセント及後者は二五パーセントを僅かに出づるに過ぎない。一九一三—一九一八年の合衆國の對中南米輸入價額の増加は大部分は高物價に原因してゐる。この期間中の中南米物價指數は一切利用は出来ないが、合衆國に於ては、その原料價格綜合指數——中南米の輸出商品の大半を之に含む——は一九一四年七月より一九一八年の十月までに一〇六・二パーセントの上昇を示した。

統制措置を缺如せんか、合衆國の必要とする中南米物資例へば皮革類及び各種の羊毛の價格は、恐らく一九一四—一八年の記録を直ちに再現する程釣り上げられるであらう。しかし、たとへ中南米が一部の物資に過高の利潤を獲得したとしても、他の重要物資の市場を發見することが出来なければ、經濟機構全體としては殆んど純益とはなり得ないであらう。合衆國の對中南米輸入の擴張、之は直ちに出来ることであるがこの事を考慮する際には物價水準の引上げよりも寧ろ最大限の消費の増加と云ふ事を強調せねばならない。現在の價格機構を基準とすれば——それは維持されるや否やはわからないが——合衆國は一九三六—三八年の水準以上、少くとも二億弗だけは中南米物資の消費を増加し得ると信するべき理由がある。固より粗雑な評價ではあるが實は之は第一類物資の二千五百萬弗、第二類の一千萬弗、第三類の一億弗、第四類の六千五百萬弗と云ふ夫々の増加の推定に基くものである。

第一類の場合に於ては、國內消費に變化がないとしても、そこには理論上一千八百七十七萬六千弗の餘裕がある。之は現在他國から獲得してゐるもので中南米から直ちに輸入し得るものを指す。今次戦争の影響及び國內の經濟的傾向のために之等の物資の多くは既にその消費の相當の増加を見てゐる。殊にカーナウバ蠟及びケブラチョーエキスに於て然りである。その輸入は何れも歐洲戦初めの六ヶ月の中に約六〇%の上昇を示した。蓖麻種子亦三八%の増加を記録した。第一類の極く一部を除いて大部分の物資の輸入は戦争六ヶ月間に一千三百四十八萬弗の増加を示した。この増加は年約二千七百萬弗であるが、第一類の輸入額を一九三六—三八年の水準より極く僅か高めたに過ぎない。この増加は物價の上昇と云ふよりも寧ろ多くは消費の増加を示すものである。尤も前者も幾分影響してゐることは明かである。物價騰貴の潜在的重大性は一ポンド一仙のコーヒー價格の變動が合衆國のコーヒー輸入年額に約二千萬弗の差異を來す事實によつて之を説明することが出来る。

第二類物資の輸入の一千萬弗の増加と云ふ評價は、恐らく第一類の場合より更に内輪である。それはシザル、ヘネキン類の合衆國への輸入を倍加し、且つ鐵鑛の全輸入先を中南米へ移轉させると云ふ前提に基くものである。しかし、之には現在の砂糖事情の變化は何等考慮に容れられてゐない。

すでに述べた如く、合衆國の消費擴張の可能性は第三類に擧げた中南米物資に最も著しい。一九三六—三八年の年平均に對し一億弗の増加は決定的な確信性を有するものである。これは羊毛、皮革類の全購入を中南米に移轉することを假定して居り、又、現在他國から入手してゐる第三類の他の一切の物資を中南米が供給し得ると豫定するものである。實際には、歐洲戦勃發後六ヶ月間に二倍以上の羊毛を購入し、價額は六百七十六萬六千弗から一千九百五十萬二千弗に増加し、殆んど一九三六—三八の年平均を超過すること一九パーセントに達した。中南米よりの皮革類輸入額は七〇パーセント以上増加した。ココアの輸入は量的には減少したが價額的には僅かに上昇した。

合衆國の對中南米貿易に就て

第四類の輸入の六千五百萬弗の増額見積りは議論の餘地がある。急速な實現性に関する限り、それは過大であらう。しかし、長期に亘つて大規模の奨励をなせば、之等中南米物資の合衆国内消費の將來の増加は、この數字の幾倍もに達するであらう。國內に製煉所を設置すれば合衆國は現在の物價では約二千五百萬弗に達する中南米の錫の全産額を吸収することが可能である。ペルーは現在合衆國がエチプトから入手してゐる長纖維棉花の需要の大部分を供給し得るであらう。ブラジルは合衆國が現在西半球外から購入する積如樹の實及タバオカの産出が可能であり、また恐らく工業用ダイヤモンドも相當の増産が可能であらう。中南米はまたタンクステン、ワニラ豆その他、多くの第四類物資の相當の供給も可能である。第三類の物資が急速なる貿易擴張の可能性を最も多く有するに反し、第四類は長期開發の可能性を最も多く有するものである。

七 中南米に於ける過剩物資

合衆國の輸入を世界の他の部分から中南米に急速に轉換しても尙ほ約十億弗の過剩物資が残るであらう。例へば小麦、玉蜀黍、棉花、石油、銅、肉、コーヒ、之等は殆んど合衆國々内市場では消化し得ないものである。中南米全輸出品に中央統制を必要とする意味は少數の主要過剩物資を吟味すれば、幾分正確に之を把握出来るであらう。價額の點に於て、肉は中南米の第二位の重要輸出品であるが、合衆國に於ては僅少なる市場しか有しない。一九三八年に於ける中南米の肉類輸出總額は一億二千四百萬弗であり、その中、合衆國への輸出は僅かに五パーセントで、主としてアルゼンチン、ブラジル、ウルグワイの罐詰コーンビーフである。大部分——七四%——は冷凍せる牛

肉及羊肉として英國に賣り付けてゐる。如何にしても新鮮なる牛肉をその主要生産國アルゼンチンから合衆國の輸入することは許されない。之は蹄及び口の病に關する衛生上の制限のためである。しかしながら、一九三八年の合衆國の肉生産は同年の中南米肉類輸出總額の十倍を越えたのである。

小麦及玉蜀黍の過剩生産はカルテル又は販賣委員會と云ふ如きものにとつて直接問題となるであらう。一九三八年の中南米小麦生産總額は四千五百六十五萬八千噸で、その内、七百四十一萬四千噸を輸出した。西半球の各地域における小麦の消費は、生活標準の高上につれて増加するであらうけれども、現在輸出すべき過剩物資が近き將來に於て、内部に吸収されるとの見込は殆んど立ち得ない。之は玉蜀黍についても全く同様であり、その西半球に於ける生産は、恐らく一九三八年には七千五百萬噸を超過し、輸出は六百三十八萬七千噸に達した。中南米に關する限り、この二物資の唯一の主要輸出國は唯アルゼンチンのみである。

米洲國際貿易の問題として、棉花も亦、重要な位置にあり、事實上、一九三八年の中南米からの輸出價額は七千六百五十萬弗に達し、それは小麦の六千四百四十萬弗及び玉蜀黍の五千九百三十萬弗と對比しうるものである。中南米の棉花輸出總額は——その七〇%はブラジル産であるが——三十八萬四千二百三十五噸であり、合衆國の生産及び輸出に比すれば、それは強い印象を與へる程の額ではない。しかし、どう考へても今後、西半球は相當の棉花過剩に直面すると思はれる。相當期間に亘り、之等三種の物資、即ち小麦、玉蜀黍、棉花の生産を制限し、現在西半球に不足せる作物をその代りに栽培することに努力すれば幾分は問題の解決に資するであらう。然し之には必ずや長期の歳月を必要とする。

、コヒーは中南米熱帯地方の最重要の産物である。而して合衆國が無期限に、コヒー生産に補助金交附を約し得ない事は明らかであるが、又他方、中南米のコヒー生産者が、一時的援助を必要としてゐる事も同様に明らかな事である。合衆國は中南米からそのコヒー需要の、極めて大部分を除けば殆んど全部を入手してゐる。しかし、現在の消費量が増すか否かは頗る疑はしい所である。合衆國は一九三八年に於ける中南米のコヒー輸出の五八パーセントを吸収したけれども、尙ほ約九千五百萬弗の過剩が中南米に残り、之は海外に賣捌かれた。加之、莫大なるコヒーが市場への出荷を差控へられた。多年に亘る生産制限の努力は功を奏しなかつた。しかし、現在のこの非常時下にあつては、恐らく従来より更に峻烈な手段がとられるであらう。

第二に重要な熱帯産物は砂糖であり。中南米の一九三八年の輸出額は一億一千五百七十萬四千弗に達し、殆んどすべてがキューバ産であるがその七二パーセントが米國に來る。合衆國の砂糖輸入は割當制限によつて統制され、従つて消費需要の實質的增加の見込は殆んどない。現在では米國砂糖需要の大部分はフィリッピン群島より輸入されてゐるが、若しこの貿易が競争によつて妨害される事になれば、そのために起つた不足の分は中南米供給者に之を求めざる事は疑ひない所であらう。

價格の點から云へば石油は中南米輸出品の首位に位してゐる。一九三八年中の輸出は三億一千七百三十六萬一千弗に達してゐる。大部分はこの貿易は米國資本によつて統制され、中南米生産の約二五%だけは米國に來るものである。然し、合衆國は石油の純然たる輸出國であり、この輸入は結局國內供給の不足と云ふより、寧ろ協同政策の考慮によつて支配されるものである。

中南米の銅輸出は一九三八年には一億六百七十五萬九千弗に達したが、この銅は少數の米國の會社によつて完全に支配されてゐる。合衆國は一九三八年の中南米銅輸出の三五%を輸入したが、その殆んど全部が製煉、再輸出されてゐる。中南米の銅は少數のキューバの分を除けば、事實上一ポンドにつき四仙の國內消費税のために少しも米國の消費に、はいつて來ることがない。この消費税は現在の國內銅價に對する障壁としての役割を有効に果してゐる。

銅及び石油は全然外國資本によつて生産されてゐるが故に、中南米にとつてその重要性は輸入統計が示す程重大ではない。しかし右の輸出額の僅かに一部分が原産國に返るのみとしても、之等の物資は中南米の經濟機構にとつては不可欠のものである。ある意味に於ては、銅、石油は——同様に米國資本によつて産出されるバナナですらそうであるが——他の多くの中南米産物より問題を提供する程度が少なく、之等の場合には米洲經濟防衛を企圖する中央統制の盤制は既に達成されてゐるのである。現在のこの統制は國際的機關と云ふより寧ろ民間會社の手中に存してゐるが、油、銅、バナナの各事業會社は極めて強力であるが故に、ナチスの政治的壓迫には十分に抗し得るであらう。

八 米洲防衛對策

目下樹立中の米洲防衛計畫の中にあつては、過剩産物の秩序よき處理のための機關の設置及其の運用が重要な地位を占めてゐる。かゝる機構の設置、之は恐らくカルテルの如きものであらうが、之は經濟防衛計畫の非常時的性格を代表する貴重なものである。しかしこの種の措置のみでは米洲の經濟的統合を最高度に發揮するには不十分である。合衆國の中南米に對する直接の經濟的支持を補ふべき長期計畫として、特に次の如き諸手段を掲げ得るであらう。

合衆國の對中南米貿易に就て

- 一、全米洲の經濟資源及び生産能力の發見——大體に於ては、西半球の各構成國はその貿易及資源を相互に知つてゐる。しかし、現在は更に正確、詳細なる知識が、北、中、南、各米の經濟機構を統合するための正確なる手段として要請される。
- 二、中南米に於ける一切の戰略的原料の開發——陸海軍々需品委員會は十四種目の戰略的物資を登録した。アンチモン、クローム、椰子殼炭、マンガン、マニラ麻、水銀、雲母、ニツケル、水晶、キニーネ、ゴム、生絲、錫、タングステン、之である。西半球全體としては之等物資中その半分即ちアンチモン、椰子殼炭、マンガン、水銀、ニツケル、水晶、タングステンは既に自給自足が可能であるか、又は近く可能となり得る。他の戰略的物資、殊にマニラ麻、キニーネ、ゴムは實質的に需要に應ずるに至るまでには長期の開發を要する。尙ほクローム、雲母、錫の如きその他の物資も夫々或る程度の入手は可能であるが尙ほ強度の開發を必要とする。
- 三、中南米に於いて既に着手せる非競争的農産物増産計畫の促進
中南米にて産出する合衆國向の戰略的物資以外に、更に第四類の産物を詳説した際に指摘した如く、多くの熱帯産の食糧品及原料の生産が可能である。——この方面に關する貴重なる豫備調査はすでに合衆國農務省、米洲經濟財政諮問委員會並にその他の合衆國及米洲國際諸機關によつてなされてゐる所である。
- 四、中南米における製造業の擴張
中南米は用語の通常の意味に於ては工業化と云ふ事は不可能であらうが、外部の世界への依存を減少すると云ふ點では經濟的に十分なる理由を有する。國內市場向の製造並に合衆國に非競争品を供給するための製造には十

分なる實現性がある。「米洲開發委員會」はこの分野に於ける特殊計畫の調査に従事してゐる。

- 五、全米洲共和國による米洲銀行會議の承認——適當なる資源と全諸米國民の積極的協力によつて支持されるならば米洲銀行は經濟防衛計畫に貴重なる機能を果たす事が出来るであらう。
- 六、米洲縱斷道路、及びその他必要なる戰略的並經濟的價值ある輸送路の完成。

九 結 言

之を要するに歐洲戰亂がナチスの勝利に歸した場合、西半球經濟政策の直接の目標は防衛政策にあり、而かもそれは獨逸の勢力に對する全米洲經濟の補強を意味する。之は必ずしも世界の他の國々との貿易中斷を企圖するにはあらずして、米洲各國家をして獨逸に經濟的服従を強いられることなく、寧ろ各國独自の立場に於てその貿易を可能ならしめんとするにある。

西半球は經濟的に自給自足せるものでなく、また一夜にして自給自足の域に達し得るものでもない。その製造能力は西半球内の一切の合理的なる需要に應ずるには十分であるが、しかし、特定の原料、殊にゴム、生絲、錫、麻が不足し、同時にまた小麥、玉蜀黍、棉花、コーヒー、肉、銅、石油の如き大多數の原料及食糧品が過剩である。之等の過剩物資を西半球の最少限の經濟的困亂と最大限の政治的利益とを以て處理する事が最も重要な問題である。

中南米諸國家の海外に於ける最近の發展の傾向並に先般閉會したハバナ會議におけるその對度は、既に之等の國家群が經濟的にも政治的にも十分に合衆國と協力せんとしてゐる事を暗示するものである。しかし、結合を堅固にせん

がためには、合衆國は戰捷獨逸以上のものを中南米に提供する立場に立たねばならない。問題は中南米が何を欲するかと云ふ事に非ずして、寧ろそれが經濟的壓迫の下に何を強ひらるゝかにある。獨逸はこの壓迫につとめると同時に、經濟的援助も亦準備してゐる様に組織が出来てゐるのである。無暗に高き汎米主義の理念は決して中南米諸國をして、合衆國の戦後の經濟的乃至戰略的活動圈内に止むるに十分なるものではない。彼等はそれが僅かに彼等に物質的利益を與ふる場合にのみその圈内に止まるであらう。合衆國はその政治的理念のために、中南米諸國に對し、財政的、經濟的犠牲を豫期する事は出来ない。

西半球經濟統合の目的は狹隘なる帝國主義ではない。しかし、民主主義的諸形式及小國の權利の多くは、全體主義の挑戰に應ずるための鬭争の餘波を被るかも知れない。同時に、米洲市場の保護の問題も、米洲防衛と云ふ直接の目的及び米洲に於ける生活標準の向上と云ふ最終の目的にとつては附隨的である。しかし、この最終の目的も、過去に於て民主主義的諸方法によつて作製し得たるものよりはるかに勝れたる汎米經濟協力計畫によつて、之を履行するにあらざれば、又、合衆國、中南米双方が、共通の目的に向つて、共に進んで犠牲を拂はんとするにあらざれば、竟にはこれも單なる空言に終るであらう。

(廣重茂)

情報

獨逸

戰時下の勞働奉仕團の活動

獨逸の作戦開始以來、西部戰線には、勞働奉仕團の大規模な参加がみられ、陸軍及び空軍のため活動する所があつた。其の戰時任務は、Volkswagen Bearbeiter 紙によれば、極めて多種多様であつたものの如くである。

勞働奉仕團の主たる任務は、戰團部隊、特に裝甲車部隊の補給及後續部隊の確保に在つた。この目的のために、勞働奉仕團の手により、ベンジン・石油・彈藥及び食糧の中央倉庫が設置され、この倉庫から各部隊に新設された各倉庫に分配される。勞働奉仕團は、更に、各所で、彈藥・燃料・糧食を鐵道貨車から引卸して貨物自動車に積換へる作業にも参加した。更に、勞働奉仕團員は、裝甲車部分品倉庫の補助員として活動し、又、裝甲車の試運転に協力し、汽車輸送されて来る裝甲車を運轉して守備隊に引渡す役割にも當つた。

勞働奉仕團の第二の主たる戰時任務は、道路建設である。特に、破壊された道路の修理及び重要輸送道路の建設である。鹵

獲品の蒐集・保存も亦、大部分、勞働奉仕團の手で行はれることとされた。遺棄された自動車を車庫に集めるとか、敵の遺棄した武器を掃除し、油を差し、風雨に對して保護する等の活動も行はれた。

更に、勞働奉仕團の活動として挙げられるべきものは、前線飛行場の基礎工事及び破壊された敵飛行場の修理及取片附けに参加し、又、戰場取片附作業も行ひ、特に、任務の終了せる野戰陣地を平坦にする等の活動も引受け、或は又、避難した人々の歸郷に助力し、獨逸休戰協定締結後、エルザス住民の歸郷にも協力してゐる。

前線への直接参加及びこれら戰時任務の遂行により、勞働奉仕團は、屢々生命の危険にさらされた。

以上は、一九四〇年五月乃至六月に於ける西部戰線での勞働奉仕團の活動に関する情報であるが、結局、一九三九年九月の波蘭戰線に於けると同様の優秀な戰時任務遂行を全うしたものといはれてゐる。

ド・ゴール政權の地位及其の英國政府との關係

ワシーの佛國正統政府と相絶ち、英國に在つて對獨抗戰を繼續せんことを標榜しつゝある、ド・ゴール將軍 (General de Gaulle) の政權が、現在の歐洲情勢に於て何等かの實際的勢力因子であるかは疑問としても、其の名が屢々外國電報を賑はす割合に、其の實情、並に、謂はゆる義勇軍に關する詳細は、從來吾國に於て殆んど識られて居ないやうに見える。それは、ド・ゴール政權が、最近に至るまで、其の英國政府との關係其ものをすら法文化する必要を見なかつたほどに小さき胚子の存在であり、隨つて之に關する詳細なる報道もあり得なかつたことよりして異とするに足らない。然るに、英吉利の新聞に從へば、近來「ド・ゴール將軍の事業が次第に成長するにつれ、其の英國政府との關係を一少くとも事務的方面だけでも一正式文書に依る協定の形式に於て規定すべき時期に達した。是に於て、去る八月七日、此の目的の爲め、三種の文書が英吉利政府に依つて公表された。即ち、首相チャーチルのド・ゴール將軍宛書翰、協定條文書及將軍の首相宛返書翰である。協定は、ド・ゴール麾下の軍隊に關する規定、義勇兵の身分、ド・ゴール政權の經費、及、發效の四部分より成るものであること、以下に紹介す

るが如くである。
一、英國首相よりド・ゴール將軍に宛てたる書翰
『八月七日、ダウニング街一〇に於て
……閣下が其の所在の如何を問はず苟も聯合國の大義を支援して閣下の麾下に集合する凡ての自由なる佛蘭西國民の總帥たることは、陛下の政府の承認するところ有之候處、閣下が此の資格に就て、佛國義勇軍の組織、使用及勤務條件に關し貴見を寄せられたるは、小官の感謝に堪へざることに有之候。仍りて茲に、若し幸にして御同意を得ば、閣下の兵力の組織、使用及勤務條件を規律するものとして貴我の間に協定せらるべき一書翰を拜呈して鈞鑒を仰ぐ次第に有之候。
『此の機會を利用して小官は、陛下の政府が、聯合軍制勝の曉、佛蘭西國の獨立と偉大との完全なる恢復を確保せんとする決意を有する者なることを聲明致し候……』
二、協定 書翰
一、ド・ゴール將軍は、義勇兵を以て編成せらるる佛蘭西國軍隊の徵募に従事す。此の軍隊は、陸海空軍の諸單位に就て、科學的及技術的部員を含み、共同の敵國に對して抗戰せんが爲めに組織使用せらるるものとす。
二、此の軍隊は、佛蘭西國に對して武器を執らんことを要求せらるること無かるべし。

二
(一) 此の軍隊は、能ふ限り、人員に關して、就中、軍紀、國體、進級及發務に關して、一箇の佛蘭西國軍隊たる性格を保持すべし。
(二) 此の軍隊は、其の裝備の爲めに必要なるべき限り、佛蘭西國の軍隊が、任意の區域より、聯合王國に於ける陛下の政府の統治下に在る地域、若しくは、英吉利國最高級司令部の統轄下に在る地域に、既に持参し、又は將來持参することあるべき資材(特に、兵器、航空機、車輛、彈藥、機械及消耗品)の所有及使用に關する優先權を有すべし。佛蘭西國軍隊の指揮權が、ド・ゴール將軍と英吉利國高級司令部との合意に依りて委任せられたる場合には、英吉利國高級司令部との間に於ける事前の合意無き限り、ド・ゴール將軍は、此等の軍隊の有する裝備、財産及資材の移轉、交換又は再配給を爲すべきことを命令せざるべし。

(三) 陛下の政府は、實行し得る限り速かに、佛蘭西國軍隊に、其の諸單位を裝備するに必要なべき追加裝備を、同型の英吉利國部隊と同一なる規模に於て供給すべし。
(以下、佛蘭西國軍隊に關するもの)
(四) 佛蘭西國軍隊に屬したる艦船は、左の如く之を配備す。
(a) 佛蘭西國軍隊は、配員し得る限り多數の艦船に配員して之を運用すべし。
(b) 前號に依り佛蘭西國軍隊に依りて配員運用せらるべき艦船の部署は、ド・ゴール將軍と英吉利國海軍省

佛 國

との間に於ける其の都度の協定に附せらるべき事項とす。
(c) 前號に依りて佛蘭西國軍隊に配備せられざりし艦船は、英吉利國海軍省の指揮の下に配員運用せられ得るものとす。
(d) 前號に掲ぐる艦船の中、或るものは、英吉利國の直接監督の下に、或るものは、爾餘の聯合國軍隊に依つて運用せられ得るものとす。
(e) 英吉利國の監督の下に運用せらるる艦船は、可能な場合、佛蘭西國の將校及兵員を以て其の定員の一部分に充つべし。
(f) 前記の凡ての艦船は、依然として佛蘭西國の所有に屬するものとす。
(五) 佛蘭西國の商船及其の乗員の向後の使用は、ド・ゴール將軍の軍隊に依る軍事行動の目的に供せらるる限り、陛下のド・ゴール將軍と英吉利國の諸關係省との間に於ける取極に附せらるべき事項とす。殘餘の商船の使用及商船乗員の雇用に關しては、英吉利國管轄省とド・ゴール將軍との間に當時接觸を保つべし。
(六) 佛蘭西國軍隊の最高指揮の任に在るド・ゴール將軍は、茲に、英吉利國高級司令部の一般指揮を承認することを宣言す。必要あるときは、ド・ゴール將軍は、英吉利國高級司令部と協定の上、其の部下の軍隊の任意の部分、前記第一條末尾に記載したる事項を留保して、適當なる階級の一名又は數名の將校



の直接指揮に委任すべし。

義勇兵の身分

佛蘭西國義勇兵の身分は、左の如く之を定む。

- (一) 義勇兵は、戦争繼續中、共同の敵國に對する交戦の目的の爲め兵籍に編入せらるべし。
- (二) 義勇兵は、追つてド・ゴール將軍と英吉利國諸關係省との間に協定せらるべき標準に従つて給料を受くべし。此の給料率の適用せらるべき期間は、ド・ゴール將軍と英吉利國政府との取極を俟つて定めらるべき事項とす。
- (三) 義勇兵及其の家族は、義勇兵の傷病又は死亡に因り、ド・ゴール將軍と英吉利國諸關係省との間に追つて成立すべき協定を標準として年金及其他の手當を支給せらるべし。
- (四) ド・ゴール將軍は、其の軍隊の編成の爲めに必要な諸種の行政當局を含む一箇の非軍事的機關を設置する権限を與へられ、同機關の職員の数及俸給は、英吉利國大藏省との協議を経て決定せらるべし。
- (五) 將軍は、亦戦争作業の爲め技術及科學部員を募集する権限を與へらるべし。同部員の数、報酬及使用の方法は、陛下の政府の諸關係省との協議を経て決定せらるべし。
- (六) 聯合王國に於ける陛下の政府は、平和締結に際し、佛蘭西國義勇兵をして先に共同の敵國に對する戦争に参加したる結果として喪失したることあるべき、國籍を含む一切の權利を恢復せしめんが爲め最善の努力を竭くすべし。陛下の政府は、斯種の義勇兵が英吉利國籍を取得せんと欲する場合には欣んで

特別の便宜を與へ、一切の必要な権能を行使すべし。

經費

- (一) 本協定の規定に基く佛蘭西國軍隊の建設及維持の爲めに必要な一切の經費は、取り敢へず聯合王國に於ける陛下の政府の適當なる諸省之を支辨すべし。陛下の政府は、任意に其の必要とする檢閲及監査を爲す権限を有するものとす。
- (二) 所要の金額は之を立替金と看做し、特別に記録せらるべし。協定に依りて設定せらるべきことあるべき一切のクレヂツトを含む此等の立替金の終局的決済は、後日の取極を俟つべき事項とす。

本協定は、一九四〇年七月一日を以て效力を發生したるものと看做す。

三、ド・ゴール將軍の返報

八月七日、カルトン・ガードン街四に於て陛下小官の指揮の下に建設せられつゝある佛蘭西國義勇軍の組織、使用及勤務條件に關して、覺書御添附を受け欣快此事に有候。

其の所在の如何を問はず、苟も聯合國の大義を支援して小官の陛下に集合する、凡ての自由なる佛蘭西國民の總帥たる資格を聯合王國に於ける陛下の政府より承認せられたる小官は、此の資格に於て茲に本覺書を受諾することを陛下に通告致し候。本覺書は、此等の問題に關し貴我の間に締結せられたる協定を成すものと認めらるべく候。小官は、陛下の政府が此の機會を利用して、聯合軍制勝の曉、佛蘭西國の獨立と偉大との完全なる

る恢復を確保せんとする決意を有せらるる旨を聲明せられたるは、小官の感誦に堪へざるところに有之候。

小官の側よりしては、目下建設の途上に在る佛蘭西國軍隊が共同の敵國(獨逸、伊太利、又は其の他の任意の敵性外國)に對

英 國

戦時下の工場照明

工場照明の問題に關し、勞働及び國民役務省の全管委員會 Departmental Committee on Lighting in Factories より、實際専門家の證言を基礎として、同大臣に提出せる報告の要領左の如し。

主要問題

本報告の特に重きを置けるは、(一)燈火管制状態に附隨する照明問題及び(二)軍需品増産の要求に應じて現出せる夜業者の増加に附隨する問題であつた。

概言する形、現時多くの工場作業には二つの特色を認める。即ち(第一)作業の強化及びこれに伴ふ従業員の緊張、及び(第二)夜業及び定時間外作業の増加に伴ふ、充分なる太陽光線を受くる工場に於てすらなほ、燈光を以て作業する時間を増加せることである。本委員會は、人工照明下に長時間の作業を持續するも、これによりて保健又は安全上に有害なる結果を召來することにつき、未だ精細なる確證を爲し得るに至らざる

し、佛蘭西國の領土、佛蘭西國の委任統治領土の防衛、並に、英吉利國の領土及交通、並委任統治領土の防衛を含む凡ての作戦に欣然参加する者なることを閣下に確言致候。』

(一九四一年八月八日、『タイムズ』紙)

も、「かかる状態は決して放置すべきにあらず、従業員の爲め且つ生産増加の爲め、本委員會が以前の報告に於て勸告せるよりも高き照明程度を維持することの必要を認める」ことには同意し得る。

照明の光度、方法、眩光、陰影

「普通の作業を容易に爲し得しめ、従業員に合理的の安樂を與ふべき良好なる照明の一般的最小規程」として提示すべきは、人工照明に於ては、床面上三フットに於て、最小限度六フット燭光のそれである。(註。六フット燭光の照明は、作業面上六フット六インチ、即ち床面上九フット六インチの高さに於て、相互に九フット六インチ以上の間隔を置かざる基準分散放射 Standard dispersive radiator を有する新らしき一〇ワットのコイル・コイル・ランプによりて略々與へられる。大工場に於て頭上にクレインその他の障礙物があつて、全床面積に普ねくこの照明を有せしむることが殆んど不可能なるなどの場合には、部分的にこの規程より脱逸せしめ得ることもある。

照明の方法。その他の問題
叙上の六フット燭光の照明を得べき種々の方法は報告の二の
附録に示してある。

種々の作業、即ち高度の正確を要する精密作業（五フット燭光以上を要する）より、特別の作業を行なはず、普通の観察を爲し得しむるを以て足れりとするもの（二乃至四フット燭光を以て足る）に亘りて、各々幾何の照明度を設備すべきかの問題をも、なほ一つの附録に於て取扱つてある。

その他この報告の取扱へる問題左の如し。
燭光の反射傘の不適當、光源配置の不良、光澤面よりの眩暈。

天然光線の問題。

作業室の四壁、仕切及び天井に淡色の塗裝を施すことの利益（充分なる光度のみならず、多くの工場に通有なる陰氣、幽鬱を避くる爲）。

陰影の防止。

不良なる光源。

立法問題

委員中には工場照明を立法制度の下に置くべしとの勧告を力説するものもあつたが、委員ではこれにつき左の如く指摘してある。

イ、提案されたる如き規準照明を施行することは、極めて多數の工場に影響する。

ロ、照明機器の現在ストックは普通の需要に對しては充分に

潤澤であるが、軍需工業に關係せる諸工場に於ても、現在状態に於て相當に満足し得るものとせば、提案の規準を直ちに要望せざるを可と認める。

ハ、時間外作業又は晝夜作業を行なふもの、ことにその中で天然光の不十分なるものにまづ注意を向くべきである。

ニ、新設備又は設備改良より最良の成果を擧げんが爲めには、専門家の勧告及び監督を受けしめることが必要である（勞働省報一九四〇年八月號）。

失業者動員計畫

マンチェスター市には目下失業者が約四千人あるが、同市の職業紹介所は苟くも供用し得る勞働力を悉く交戦努力に集中せんとする勞働者の努力に協力せしむべき役員團（パチル）を設け、その發動の第一日に於て、二つの職業紹介所に午前午後、各二十名づゝの失業者を出頭せしめ、一名ごとに個人的面接を以て、その以前の部類別の職業に又は他の職業に、然らざれば何等かの形の國防の職務に参加し得ざるやを調査し、何れも不適當の節は戰時中一時機械工業に従事せしむべき訓練を施すの見込なきやを考察せしむることとした。この役員團は三名一組で、一名は代表的の雇傭者、一名は勞働組合の役員、一名は勞働省の吏員、雇傭者と勞働組合役員とは無給奉仕してある。なほ今後上記の二組の外に四五組を急設し、成績によつて翌八月末までに豫定の組數を配備することとなつてゐる。（マンチェスター、ガーヂヤン紙一九四〇年七月二十三日號）

資料・統計

『戦争と平和の爲の計畫』

——英週刊タイムズ誌の「見解」——

大規模の軍事行動が小康状態にある間と雖も、宣傳戰は決して眠つて居ない。ナチの宣傳は懷疑的な世界に對して、獨逸の目的が社會革命的性質を有することを印象づくと絶えず努力して居る。英吉利は戰時當日より、好戰的にして暴虐なるナチ國家は我等の敵であることを明にして來た。今次の戦争の本質的性質は社會秩序と社會目的の衝突にある。我英國自身を秩序あるものとするのでなければ、吾人は歐洲全體を一の秩序あるものとは爲し得ないことは蔽ふべくもない眞實となつて居る。『計畫』と言ふ今はやりの標語には驚くべき何ものも、又自由と同一しない何ものも存しない。自由人とは前方を見ることを拒む人ではなくして、自由を確實なものとする爲に組織する人のことである。而して論議は計畫するや否に存するのではなくして、如何なる方面を計畫すべきかに存する。茲では四圍の情態は我等の選擇を制限するであらう。吾人の生活と思索の方法の多くを既に過半してしまつたところの戦争經濟の要求は凡て、或も方止めの聲が發せられる瞬間から、停止されることにはならぬであらう。全國民の生活水準は徹底的に檢討すべき必要

資料・統計

の最中に立たされて居る。と言ふのは如何に我英國の資源が減少しても、その生活水準をより低め得ぬのみならず、絶對的に引上げなければならぬ若干の人々が存するからである。このことが目的を規定するであらう。過去に於て經濟機構を置き組織に押し返さんとして態度を試みたがそれは失敗に歸した、と言ふのは「不十分なる消費」「under-consumption」と「咽當の中に於ける窮乏」"poverty in the midst of plenty"と言ふ不平等を我々自身の上に持ち來らす生産を單に組織化し、刺戟するだけで十分と考へたからである。消費者は餘りにも長い間經濟家と政治家の犠牲として遇されて來た。平和克復の際最も必要とされるであらうところのものは計畫されたる消費である。過去十年間に亘りて繁榮の標準に關する科學的研究調査が積極的に進められて來た。一般に認められ居る繁榮の標準を全人口に適用することは、長期に亘る社會的計畫目標の必要にして且基本的なる出發點を爲すものである。而してその目標とする到達點は、全社會の資源に對する第一の要求として、適度なる標準の住居、被服その他快適なる生活手段を凡ての人々に對して廣く享受せしむることなければならぬ。

この點に關して、社會政策と、國際政策とは相互に密着せる關係にある。我々英國自身自身の國民生活の再組織は、ヒットラ

即ちその一つは鋼の生産が国内の全需要を充たすやうにするこ
と、他はこの鋼生産が、フランス及び合衆国よりの屑鉄輸入と
云ふ不確かな基礎から解放せらるべきであり、而して、若し伊
太利領土内に充分の原料がなければ、善隣諸國より得られ得べ
きものを原料として、燐鐵工業の基礎を獲得しなければなら
ないと云ふことである。

ムツロリーニは最近、年四百萬噸の鋼生産を將來の目的とす
る旨表明した。細目に亘つて完成された計畫は、既に實行に移
されて、一九四一年までに實現されることになつてゐるが、こ
れによれば、生鋼二、五〇〇、〇〇〇噸、鑄鐵一〇〇、〇〇〇噸
の年産だけは豫定されてゐる。この量は、近年評定された程度
の平時全需要に從應してゐるものである。製鋼工業は既に従
來、最も良く能力を發揮した時に於て——即ち一九二九年及一
九三八年に於て——約二、三〇〇、〇〇〇噸の生鋼を生産し、一
九三九年には約二、四〇〇、〇〇〇噸を得たのであつて、従つて
當座の計畫では、製鋼能力の著しき増強を望んでは居ない。と
云つても然し、このことは、我々の見る如く、切要なる機構改
造の必要を排除するものではない。當座計畫の核心とも言ふべ
きものは、鋼生産能力の増進である。国内の屑鐵産額は百萬噸
と算せられてゐる。屑鐵はまた善隣地中海諸國からの輸入によ
つて得られるらしいが、これは僅かに製鋼事業以外の經營に於
ける僅少の屑鐵需要に應ずるだけに過ぎない。かくて年々一、
六〇〇、〇〇〇噸に上る製鋼及び鐵鑄造に於ける鉄鐵の需要が
自國生産によつて充たされるべきものとして残るのである。こ

のことは、鐵アウタルキー計畫獨立の時既に於ては、燐鐵能
力の倍増を前提とするものである。ところが、伊太利に石炭が
少く、水力が豊富であると云ふことから、一般に鉄鐵生産を放
棄して、單に全然電力のみを使つてやる製鋼事業及び壓延材製
造事業を建設し、それらの設立場所は、水流の供給及び屑鐵の供
給に便なる地を選び、相當廣く各地に散在せると云ふ結論に
まで到達したのである。然し鐵加工製造工業の基礎は、綜合經濟
の競争力を考慮して、結合經濟のあらゆる長所——鐵と鋼とを
一氣に加工すること、製造作業を複合して湯出ガスを利用する
こと、副産物化學——を總動員することによつてのみ、成し遂げ
得られるのである。この關係に於て、冶金及製鋼と直接に結合
せるコークス製造事業の完備が特に必要とされるのである。一
九二九年に伊太利のコークス製造は八〇萬噸で、當時比較的少
かつた冶金需要の満く半を満たしたのであつた。その後、そ
の能力は既に増加されて居るのであるが、今や、燐鐵能力の
擴充と並行して、更に、三三〇萬噸に達する増加が行はれな
ければならない。重工業經營の統合に際しては、結局、從來獨立
經營に處して來た多くのシーメンス・マルチン燐鐵爐や壓延工
場が、若しそれらを残して置く緊切なる必要がない限り、併た
に統合された複合事業に移されなければならない。

新アウタルキー計畫の實施前に伊太利には、三十九の壓延鋼
事業、十の鑄鋼事業、及び若干の特殊鋼事業、及び幾百の小さ
な鑄鐵事業があつた。これに、反し、冶金事業はたゞ五つに過
ぎなかつた。即ち「Iri」會社は、エルバ島、その對岸のピオン

ビーノ、ナポリ附近のバニョーリ、トリエステ附近のセルヴォ
ラにそれぞれ三つのコークス燐鐵爐を有し、「Comin」會社はア
オスタ附近にコークス燐鐵爐及び電氣燐鐵爐をそれぞれ二つづ
つ有してゐる。當時探掘されてゐた若干の鐵鑛山、即ちエルバ
島のそれ、及びアオスタ附近の「コニエ谷」のそれは、同じくこ
れらのコンツェルンによつて經營されてゐた。然し鐵含有量の
點から言へば、国内産の黃鐵鑛の精鑛（鐵分六〇パーセント）
及び外國産鐵鑛の買入の方が重要であつた。冶金事業に於て、
コークス製造と、製鋼事業の一部とは確かにコンツェルンの範
疇を以てゐるが、經營技術的には結合されてゐない。少から
ざる製鋼事業が、例へば、ファイアード、ダルミーネ、テルニ、
アンサルド、モンテカティニ、ブレダー、フアルカの如き、加
工工業の諸コンツェルンに屬してゐる。

「Comin」の株式資本は全然國家の所有である。かの一九二
八年の比較的高度のリラ貨安定のデフレーション的効果と、そ
れに接踵して續いた世界經濟危機との結果として生じた長期の
重苦しい不況の時に於て、株式市場に對する國家の支援行爲に
より、イルヴァ、ダルミーネ、テルニ、アンサルド、及び種々
の獨立せる純製鋼事業に對しても國家團圓が生ずるに至つた。
これらに——其他の國家支援も同様——其後、今より數年前、
國家の資本指導機關再組織の際「Iri (Istituto Ricostruzione
Industriale) (工業再建機關) の手に總括された。鐵のアウタ
ルキー計畫實施の目的を以て、「Iri」は一九三七年に、この重工
業的團圓を、自己の重工業金融會社「Fin-Sider」に注入した。

この際「Ansaldo」經營からは、單にジェノヴァの製鋼事業及び
壓延事業が、「Fin-Sider」に参加し、而もそれらは、「Iri」の
同種類の隣接せる設備と共に、新會社「SIAC」(Societa' Iar-
liana Acciaierie di Cornigliano) (伊太利「Cornigliano」
製鋼會社) に合併された。この際引換られた經營の對價は二億
二千五百萬リラから六千五百萬リラに縮減されたのであるが、
これらは、計畫された新建設に於てはたゞ部分的にのみ利用さ
れ得るに過ぎないのである。一九三八年には遂に、伊太利の全
鐵鑛山は、「Fin-Sider」の手に歸した。「Ferruzzi」に總括
され、斯くて、それまで「Iri」に貸貸されてゐたエルバの
國有鐵鑛山や、今再探掘されてゐるサルデーニヤのヌラブラト
一鐵鑛山——それの鐵含有量はナポリ附近のイルヴァ工場に精鍊
されることとなつてゐる——のみならず、また、アオスタ附近
の「Comin」がネサイト鐵鑛山や、ブレニヤ及びベルガモの
高アルプス地方の新開發鐵鑛山も、一掃に總括されたのである。
(最近發見されたアルパニヤの赤鐵鑛山は別である) この採
掘のために金屬コンツェルン「AMMI (Azienda Mineraria
Metallica Italiana) (伊太利金屬鑛業コンツェルン)——その株
式資本は、國家、社會保險及び一般保險の半官的中央機關、及び
ナポリ銀行の所有である——は最近、子會社「Ferruzzi」を
設立した。「Ferruzzi」は同時にまた鐵鑛の輸入を專ら取扱
つてゐるが、これは勿論、「Iri」及び「SIAC」が引受ける
ものである。最後に伊太利本土及び全領土の試掘權は、「Fin-
Sider」の新設子會社「Rimador」(Societa' Ricerche Minerarie)

「Ferraris」に與へられた。

これが、國家的重工業關與のコンツェルンの建設である。今や、各部門々々に課せられた使命は、大いなる足とりを以て、既にその實現に向はせられた。Ferraris は伊太利本土、アルバニア、伊領領民地に、最新式の探査方法を以て、従來行はれたよりも遙かに根本的に、鐵鑛を探求してある。Ferraris はこれについて、獨逸專家の協力を確保した。試掘會社の使用に供されてゐる國家の補助金は、確かにこの労働部門の組織的差別の主要基礎である。一九三七年に初めて百萬噸を超えた本國の鐵鑛産額は、一九四一年迄には、特にサルデーニヤに於けるヌルラの鑛含有鐵鑛の探掘によつて、約五五〇、〇〇〇噸の鐵を含む一、六〇〇、〇〇〇噸の鐵鑛産額に増加するはずである。これと並んで、二五〇、〇〇〇噸の鐵を含む黄鐵鑛産額の年産は従來の儘に約五五〇、〇〇〇噸と見積られてゐる。然し豫定の鐵鑛年産額一、六〇〇、〇〇〇噸を得るためには、なほ七〇〇、〇〇〇噸の鐵分を含む一、四〇〇、〇〇〇噸の鐵鑛が輸入されなければならないであらう。これは鐵鑛の輸入が、従來よりも年に百萬噸増加することとなる。この増加量は、戰時に於てアルバニアの諸鑛山より得られ得るものと信ぜられてゐる。このアルバニアに於て最近發見された埋藏量は左程大ではないが、推定量一五、〇〇〇、〇〇〇噸、全く地上作業で採掘されるのである。

然し、重工業事業の擴充は龐大な資本を要求するものである。次の三つの完全に統合された複合事業は根本的に新たに造られ

たものであり、乃至は、殆ど全く新たに創設されたものである。先づその第一は、ナポリ附近の「Enea」事業であるが、これはサルデーニヤ鑛からトーマス鋼を生産することとなつてゐる。これは伊太利に於ける最初のもので、これまでは實際的にはただシーメンス・マルチン鋼と電氣煉鋼とを生産してゐたのである。この事業群は今年中にも、準備を完了するであらう。第二は、ピオンビノに於ける「Enea」工場であるが、ここでは現在の鑛鑪爐さへも新設備によつて取換へられ、更にコークス製造及び製鋼等が加はつてゐる。この經營は一九四一年の始めに、完全に始められることとなつてゐる。第三には、全然新たに創設されたものとして、チエノーヴァ・コルニリアーノに於ける「SAC」の統合事業があるが、この建設は一九四一年の末に完成を見るであらう。これら三つの事業はいづれも一日に千噸の鉄鑛量を基礎としてゐるのである。これを總計すれば一年に約百萬噸の量となる。斯くてその残りの冶金事業の分は六〇萬噸となるわけであるが、然うだとすれば、これに依つて既に、そこに於ても、大いなる擴張建設が、即ち少くとも純鐵鑛設備の擴張建設が進行中であることが判るわけである。このことは、殊に「Enea」のトリエステの事業、アオスタの「Enea」事業についても言はれるのである。更に又、一九三九年の伊太利重工業の生産成果が確かに前年のそれよりも幾らか減退したことは、補充建物及び經營移動が多かつたことから説明がつけられるであらう。

「Enea」は資本金九億リラを以て設立された。然るに

その株式は、國家保證債よりも、一般大衆に於て遙かに大なる投資が行はれるはずであつたらしいが、「Enea」の株式の全部が「IRI」によつて引受けられ、「IRI」はこのために九億リラの債券——所謂「Riferimento」を發行した。この證券の有効期間中にその額面價值の半分と「Enea」株とを交換する債券所有主の權利は、株組金部の三分の一だけ行使された。斯くて一九三九年の末には、なほこの株の七億五千萬リラが「IRI」の手に、一億五千萬リラが公衆の手にあつた。「Enea」は今九億リラの資本を以て元の重工業國有株を引受けただけでなく、「アウタルキー」計畫實現に即時必要となつたそのコンツェルン諸會社の大増資をも可能ならしめた。「Enea」の保證のもとに最重要コンツェルン諸會社はその資本を次の通りに増加した。即ち、「Enea」は五億三千六百萬リラより六億七千萬リラへ、「Ferraris」は四億三千萬リラより六億四千五百萬リラへ、「Palmire」は六千萬リラより九千九百萬リラへ、「SAC」は六千五百萬リラより二億リラへ（差當り三〇パーセント拂込）増資したのである。この群は——斯くて二十の小さなコンツェルン企業は全然このうちに數へられない——一九三九年三月三十一日の決算日に於て、株式資本總額十六億五千萬リラを明示したが、そのうち「Enea」の持分は、九億四千八百萬リラであつた（斯くて既にそれ自身の株式資本以上に外つてゐる）。一九三九年十二月三十一日の臨時總會に於て初めてなされた報告によれば、各々に對する「Enea」の持分は、「Enea」に對して株式資本の六一・八パーセント、「Ferraris」に對して五〇・

資料・統計

三パーセント、「Palmire」に對して五〇・七パーセント、「SAC」に對しては今のところなほ一〇〇パーセントとなつてゐる。然しそれと同時に、「Enea」は、そのコンツェルン諸會社に既に一九三九年三月三十一日迄に總額八億五千萬リラに上る供給者信用、銀行信用、保證信用を斡旋した。これらの信用の大部分については、整理が望まれてゐる。又、更に既に進行を見つつある諸施設も、未だなほ多大の信用を必要としてゐる。

斯くて、一九三九年十二月に「Enea」の株式資本を十八億に増資することに決定された。これにより重工業主體會社は、全體として、モンテカチーニを凌ぐ、伊太利最大の株式會社となつた。伊太利資本市場に於ける情勢の變化は、今回、株式を公開市場に於ても賣ることを可能ならしめた。新A株は優先株として與へられたが、これに對して舊B株は十倍の投票權を得たのであつて、かくて、「IRI」は、舊株七億五千萬リラを所有し、その多數性は決して侵され得ない所である。「Enea」株に於ける半額交換の權利を未だ行使してゐない六億リラの「IRI-Ferraris」債券の所有者は、今や「IRI」の現有株中の舊株と最早や交換が出来なくなり、たゞ新株のみと交換出来るのである。それに當てる爲め、新株三億リラの額は、この爲に用意されてゐる。新發行の殘部は——個人舊株主の先買權を留保して——一般公衆に賣出された。そしてその結果は、十二月中に於ては、申込なき新株を引受けるべき「IRI」の負ふた義務は、あと單に約一億リラの殘高に對してのみ行使されるれば良いだけ

にたつてゐた。これが處分された時は、Finisterre 群の資本基礎は、鐵算計書の一九四一年度分の遂行を負擔するには、餘分に充分である。然るに重工業に對する國家の權能は、常に Finisterre、Cogne 及び AMM に對する資本的關與だけにとどまらぬ。組合の原料供給機關に關して、國家の權能は、獨立せる多數の製鐵、鑄造の全部に亘つてゐるのである。生命的重要なる重工業の原料供給が未だなほ大いに廢鐵輸入に依存して居り、これが一方に於て伊太利の外國爲替缺乏に依り、他方に餘米の輸出に依つて、危險に陥つたこの際、このことは必要不可欠のものである。從來既に二つの廢鐵カールがあつた。一つは「Ansaldo」(Consorzio Approvigionamenti Materie Prime Siderurgiche) (鐵原料供給組合)——製鐵事業の需要に應ずるものであり、他は「Comitond」(Consorzio Approvigionamenti Materie Prime per Fonderie) (鑄物原料供給組合)——鑄造事業の需要に應ずるものである。これらのカールは一九三九年に組合機關に變更された。すべての關係事業は洩れなくこの組合機關に屬せねばならず。又一方この組合機關はその方針を直接に國家機關から即ちこの場合は、軍需工業委員から受けるのである。先づ最初の番に當つたのが活動範圍の廣大な「Campidori」である。これは「Ente Istituzione Rotundi」(Industria Siderurgica) 廣鐵製造所に變更された。軍需委員の執行機關として「Finitone」は、製鐵事業の需要に對して、専ら、内外の廢鐵及鐵鐵の調達を司らなければならぬのである。又何處か

に現有する二キントナル以上の廢鐵量はいづれも申告を要するものと宣告されてゐる。
 扱てこれらの指導機關は、就中、完全統一の複合へ改組されんとしてゐる重工業諸事業に對し、困難な改組期に於て出来る限り高度の業務を確保するために、配置されてゐる。純製鐵事業に對して、伊太利鋼産額が二百萬にしか達しなかつた一九三六—三七年の程度の生産を繼續するに足るだけの原料が配給される一方、今統合の途中にある諸企業——即ち「Ilva」及び「Iva」——は、その暫設備が開業を見るまで、現在の設備に於て加工し得るだけの廢鐵を必要とするであらう。斯くてこれに當てられるものは十萬噸の廢鐵、即ちその製鐵事業原料需要の一〇パーセントに過ぎないのである。

資料 II Der Wirtschaftsjahr 1939 Nr. 1

伊太利化學工業とモンテカティ
 ニ・コンツェルン

一九一八年の世界戦争終結直後早くも Montecatini, Soc. Generale per l'Industria Mineraria ed Agricola, S.A. (Milano) に、現代的化學製造法の國民經濟に對して有する重大なる意義を認識した。この會社が既に其當時自らの主要任務と認めるところは、益々大になつて行くその所有原料を、それから得られる精製生産品が上等の原料及び製作材料として伊太利經濟に提供されることが出来、且消費者の外國原料並びに外國製品への依存性が益々減少されることが出来るやうに、精製

することであつた。この政策を終始一貫遵奉して來たこの會社は、過去二十年の間に一つのコンツェルンを打ち建てた。このコンツェルンは今日その國民經濟的業績の點に於て伊太利經濟諸事業中第一に立つものである。而して又伊太利の經濟的獨立達成のために特別の成果を以つて盡したすべての私的企業のうち、第一番に擧げらるべきものである。數多の製鐵分工場を設立により、將又他の數多の化學商社の合併により、モンテカティニは次第にこの活動領域を伸長して行き、現在に於てはそれは伊太利化學經濟に於て、遙かに他を凌ぐ高い地位を占めてゐるのである。現在では全部で二百以上の製造所がこのコンツェルンに屬してゐる。如何なる速度で膨脹が行はれたかは、次のことで略々推量することが出来る。即ちモンテカティニ株式會社はそれ自身で數多の工場を經營してゐるばかりでなく、又ほかに數多の他の大きな化學商社に對する持株會社を營んでゐるのであつて、その廣汎な膨脹計畫の財務のためには、再三再四相當な額の株式増資を行はなければならなかつたのである。斯くてこの株式資本は目下、十三億リラと云ふ伊太利の状態にとつては余りの大額に達した。これは現在の通貨關係に於ては獨貨の一億七千萬ライヒスマルクに當つてゐる。然るに十年前の株式資本は漸く五億リラ、十五年前には高々三億リラに過ぎなかつたのである。

最初この會社の生産計畫は大體に於て、主に黃鐵礦、大理石の如き僅かの鑛産品及び、肥料並びにそれに要する硫酸等に限られてゐた。歲月を経る間に新しい製造部門が次々に加へられて、

資料・統計

遂に、四年前行はれた伊太利アウタルキー計畫の告知は、既に幾年來の趨勢であつた化學方面への重點移行に強く拍車をかけたのであつた。又特に注意しなければならぬことは、近年大いに生産の發展を見た部門、及び特にこのコンツェルンが新たに始めた活動諸領域は化學製品關係のものであつて、これら化學製品は殆ど例外なく大きな國防經濟的意義を有してゐると云ふことである。モンテカティニ・コンツェルンは斯くて、國防經濟方面に於ける伊太利の自給達成のために行はるべきであつた乃至なほ行はるべき事業の大部分を引受けたのである。斯くてこのコンツェルンの生産計畫は今や、極めて多岐に亘る各種化學製品を包括してゐる。伊太利國民の食料確保のために益々大量に使用されることの、而して又伊太利「小麦戰爭」の大成果達成にとつて不可欠であつたところの磷酸肥料及び蜜素肥料と共に、このコンツェルンは主として種々様々の化學製品、染料、中間生成物、工業用及び軍事用燃料、醫藥、近頃は更に、大量に動力燃料を製造してゐる。斯くの如くそれは盡く、伊太利の經濟的裝備にとつて決定的意義ある製品に關するものばかりである。このコンツェルンの鑛業部門に於ける發展も同様であつた。ここでは近年鉛及び亜鉛の生産並びにアルミニウム及びマグネシウムの生産に特に重點が置かれてゐた。このコンツェルンは更に人造原料及び人造纖維、鑛物性染料及びラック、膠及びジェラチン、毒蟲驅除藥、コークス製品及びターナル製品、油脂、カドミウム及び其他の數多の製品の製造を大いに發展せしめた。又更にこのコンツェルンに屬して

あらゆるものに多くの大電機工場、鋳造坑山、重晶石坑山、ボーキサイト坑山、螢石坑山、明礬坑山及び銅坑山、鑛鐵工場、黄鉄坑山、被覆工場其他がある。

昨年(一九三九年)の生産発展に關してはモンテカテイニ株式會社は、最近の營業報告に於て、詳細な數字は公表しなかつた。然しこのコンツェルンの生産額が競争勃發以來著しく増加したことは、その従業員及び職員の数によつて明かである。その人員は一九三七年には六一〇〇〇人、一九三八年には六七四〇〇人、一九三九年には六五〇〇〇人、そして一九四〇年初期には七二五〇〇人で、前年の状態より約一〇%だけ多くなつてゐる。このうち六八四〇〇人はモンテカテイニ株式會社自身の經營に於て働いて居り、四一〇〇〇人は、モンテカテイニに關係した事業に於いて働いてゐる。一九三九年に於ける營業の退行は、第一に、競争勃發前に於ける鑛業生産の減少の結果であつた。然しながら一九三九年九月以來、この方面に於ても、モンテカテイニの他の殆ど總ての生産部門と同じく、活潑な躍進が現はれた。昨年の貸銀給與總額は五億九千五百(前年は四億二千八百)リラを算した。然しこの際考へに入れて置かねばならないことは、貸銀給與料が一九三六年以來、化學事業に於て六四・五%、鑛業に於て七〇・八%、冶金事業に於て六七・三%上昇したことである。それに應じて又、モンテカテイニ製品の價格も大きな騰貴を示した。このコンツェルンの製造工場は、化學方面の各部門に於て次のやうな配分となつてゐる。數から言つて第一番に在るのは、過燐酸鹽及びその他の燐酸肥料の製造であつて

これには六十以上の工場がある。硫酸は六十二の工場で製造され、又このコンツェルンは八つの窒素肥料工場を有してゐる。モンテカテイニ會社自身(子會社を除く)によつて製造される各種肥料のうちには、鑛物性過燐酸鹽、沈澱燐酸鹽、窒素含有過燐酸鹽、骨粉、石灰窒素、有機肥料及び諸種の特種肥料がある。

モンテカテイニによつて製造される重化學品は、より大きな群を成してゐる。既に述べた六十二の硫酸工場ほかに、このコンツェルンは、苛性曹達、クロール及びクロール生産品の製造所三、炭化カルシウム製造所二、硫酸銅工場八、硫酸の精製加工工場十二、硫酸炭素工場二、アルコール及びエーテル製造所一、醋酸及び醋酸人絹工場二、合成樹脂工場一、及び其他の重化學品製造事業五十以上を有してゐる。更にこのコンツェルンは、顔色染料、表面色染料及びラックの製造工場六と、人造樹脂及び其他の人造原料の工場四、人絹工場一、タール染料及中間生成物の工場四、製薬工場二、燐酸工場十、害蟲驅除剤の工場五、膠、ヂェラチン及び脂肪の生産工場八、脂肪油の生産工場一を有してゐる。

株式資本は二年前以前より、十三億リラとなつてゐる。一九三九年度の營業報告によれば、昨年に於ける會社の純益は、一九三八年の二五、〇〇〇〇〇〇リラに對し、四二、二八〇、〇〇〇〇リラに達した。税金(一九三八年の五〇、二〇〇、〇〇〇〇リラに對し、一九三九年は五三、七〇〇、〇〇〇〇リラ)減價償却(一九三八年の六五、〇〇〇、〇〇〇〇リラに對し、一九三九年は七

五、〇〇〇、〇〇〇リラ)及びその他の費用を控除すれば一五九、五〇〇、〇〇〇リラ(一九三八年は一四六、三〇〇、〇〇〇リラ)の純益となり、これには前年度からの繰越金二二、一〇〇、〇〇〇〇〇(その前年は二一、〇〇〇、〇〇〇)が加はるわけである。配當は前年と同様一〇%に定められた。貸借對照表に於ては、工場、鑛山、特許權その他の固定財産が十一億四千二百六十萬(前年、九億三千四百四十萬)リラ、流動財産は十二億五千二百萬(前年、十七億五千二百萬)リラとなつてゐる。前者はそれ以上分類されてゐない。後者に含まれてゐるのは、持分十二億八百萬(前年十億三千七百萬)リラ、そのうち株式十億四千九百萬(前年八億五千萬)リラ、債券二億五千九百萬(前年一億七千四百萬)リラで、更に原料及びストック一億三千四百九十萬(前年九千九百萬)リラ、金庫及び銀行其他三億九千八百四十萬(前年二億四千五百九十萬)リラ、借方四億八千四百四十萬(前年一億六千三十萬)リラである。貸借對照總計は三十六億となつてゐる。

モンテカテイニ會社の數多の特許會社のうち特記すべきものは、化學方面及び動力燃料生産に従ふ次の諸事業である。
A.C.N.A. (Aziende Colori Nazionali Alfini) (株式資本一億リラ)(タール染料)
Ammonia e Derivati, Soc. Generale per i Prodotti Azotati Sincetici (株式資本三億リラ)(窒素肥料)
A.N.I.C. (Azienda Nazionale Idrocarburi e Combustibili, An.) (株式資本七億五千萬リラ)(動力燃料)

資料・統計

Cokialia S.A. (株式資本一億リラ)(コークス)
Dynamite Nobel S.A. (株式資本一億リラ)(爆薬)
Duco S.A. (株式資本一億萬リラ)(ニトロセルロース及びセルロースラック)
Farmaceutici Italia S.A. (株式資本二千五百萬リラ)(醫藥)
Marengo S.A. per la Lavorazione dei Prodotti del Rame (株式資本一千六百萬リラ)(硫酸銅及び其他の重化學品)
Soc. Electrochimica del Tevere, An. (株式資本二千萬リラ)(電氣化學製品及びアセチレン誘導體)
Soc. Generale di Esplosivi e Munizioni, An. (株式資本二千五百萬リラ)(爆薬及び彈藥)
Soc. Italiana del Litopone, An. (株式資本一千萬リラ)(リトポン)
Soc. Rhodiacea Italiana, An. (株式資本五千五百萬リラ)(人造絹絲)
Titanium S.A. (株式資本一億リラ)(チタン染料)
Unione Agricoltori per la Fabbricazione dei Concimi Chimici (株式資本三百七十萬リラ)(肥料)
以下述べるものは、Montecatini コンツェルンの主なる活動領域の展望及び、伊太利供給状態に對するその意義を示さんとするものである。
重化學品

数多の重化学品に對する伊太利の需要は、主としてモンテカ
ネーニ・コンツェルンの諸經營によつて供給されて居るが、
このコンツェルンにまた、種々の製品に於て、輸出に對しても
大きな役割を演じてゐる。重化学品の發展が如何に活潑であ
つたかは、重化学品の輸入が十年前には獨佔にしては約二
千九百萬ライヒスマルクであつたが、一九三八年には六百四十
萬ライヒスマルクに低下し得られた、と云ふことによつて見て
も、明かである。伊太利の重化学工業は、その輸出金額が一
九二九年の四千五百萬ライヒスマルクより一九三八年の二千百
萬ライヒスマルクに減退したと言ひながら、世界市場に於て
相當な役割を演じてゐる。輸出に現はれた減退は、即ち先づ第
一に、酒石酸及枸橼酸の價格下落に歸せらるべきものである。
重化学品に對する伊太利の需要は斯くて現在、少數の例外を除
いて、殆ど完全に國內製品によつて充たされ得るのである。
子會社を除くモンテカネーニ株式會社の重化学工場が生
産計畫には特に次の製品が含まれてゐる。

各濃度の硫酸(發煙硫酸を含む)、蓄電池用稀硫酸、鹽酸、硝
酸、炭酸、弗化水素酸、靱性硫酸ナトリウム、グラウバー鹽、酸
性硫酸ナトリウム、重硫酸ナトリウム、酸性重硫酸ナトリウム
の溶液及結晶體、液狀及固狀のナトリウム水硝子及びカリ水硝子、
酸化アンモニウム、炭化カルシウム、沈澱炭酸カルシウム、沈
澱炭酸カルシウム、鹽化バリウム、沈澱炭酸バリウム、工業酸化
マグネシウム、鹽化マグネシウム、炭酸マグネシウム、結晶及
び溶融硫酸マグネシウム、亞砒酸、各種形狀の砒酸カルシウム

及び砒酸鉛、砒酸ナトリウム、砒酸水銀、弗化ナトリウム、弗
化バリウム、弗化マグネシウム、砒化亜鉛、砒化アルミニウ
ム、人造氷晶石、硫酸クロム、クロム明礬、硫化鐵、綠礬、
硫酸銅、酸鹽化銅、鹽化アンモニウム、亞鉛、硝酸鉛、あらゆる
形狀及び純度の硫黃、二硫化炭素、フオルムアルデヒド等。
昨年の伊太利重化学市場の發展に關して、モンテカネー
ニ會社の年次報告に示されてゐるところによれば、戰爭勃發以
來需要が甚だしく高まつたために、需要が満たされ得ないこと
間々あつたと云ふことである。それ故この會社は、種々生産設
置を擴張した。このコンツェルンの昨年の工業化学品總販賣高
は前年の三倍三千萬リラに對し四億二千萬リラであつた。然し
ここに考へに入れねばならないことは、昨年數多のものの物價
の騰貴を見たことである。

硫酸及び發煙硫酸の生産は、その設備が著しく擴張された
ため、大いに上昇した。生産の増加を示したものは更にクロ
ム酸鹽、二硫化炭素等がある。一九三八—一九三九年に於ける
葡萄栽培に對する硫酸銅の供給は前年と同程度であつた。然し
ながら必要量の銅の調達に困難を來した。スピネッタ・マレ
ンゴに於ける釀造工場は良好な結果を得、特に質の點に於て然
りであつた。

は、新たな化学製品の數々をその製造計畫の中に加へ入れた。
この *Appella* 會社は既に一八八六年に設立され、最後には三
千三百萬リラの株式資本を有してゐたもので、以前より伊太利
酒石酸工業に指導的役割を演じてゐたものである。その諸施設
はミラノ及びバルレッタ(バリ)に在る。酒石酸及び酒石英と
とともに、この會社はまた、其他の多くの重化学品並びに香料
及び其他の精製化学品を製造した。この會社の主要製品として
なは次のものが挙げられる。

吐酒石、セーニエツト鹽、酒石酸カリウム、酒石酸アンモ
ニウム及び其他の酒石酸鹽、硫酸、鹽酸、燐酸、硫酸ナトリウム、
酸性重硫酸ナトリウム、チオ硫酸ナトリウム、重硫酸鹽、ヒド
ロ亜硫酸鹽、スルフォクシル鹽、燐酸ナトリウム、苛性カリ、
鹽化カリウム、異性重硫酸カリウム、燐酸カルシウム、マグ
ネシヤ、硫酸マグネシウム、クロム明礬、酸化亜鉛、鹽化亞
鉛、硫酸亞鉛、クロム酸亞鉛、バルミチン酸カルシウム、バル
ミチン酸アルミニウム及び其他のバルミチン酸鹽及びステア
リン酸鹽、二硫化炭素、クロトルエン、キノリン、キドロキノ
ン、キサントカリウム、活性炭、燐酸アンモニウム及び特別肥
料並びに合成香料、そのうちベンズアルデヒド、ベンジルアル
コール、醗酸ベンジル、安息香ベンジル、鹽化ベンジル、鹽化
ベンジリデン、ベンジリデンアセトン。

伊太利、英吉利、佛蘭西が加つてゐた國際酒石酸カルテルは
解消し、そのためこのコンツェルンは輸出振興が有るとなつた。
伊太利市場に於ける諸外國の買需のために、酒石の缺乏が出來

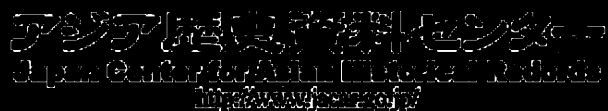
資料・統計

し、その結果價格が甚だしく騰貴するに至つた。

同じく又、昨年 *Martano S.A. Italiana per la Lavorazione dei Prodotti del Rame (Milano)* もモンテカネーニ
合併した。一九〇六年に創立されたこの會社は株式資本六百
萬リラで、スピネッタ・マレノ(アレツサンドリア)の諸工場に
農業用及び工業用の化学製品を製造してゐる。その主要製品に
硫酸銅がある。このほか次のような重化学品が製造されてゐる。
五〇及び六〇パーセントの硫酸、鹽酸、弗化水素酸、無水硫酸
ナトリウム及びグラウバー鹽、酸性硫酸ナトリウム、珪弗化ナ
トリウム及び珪弗化バリウム、クロム酸、酸化クロム、水
酸化クロム、重クロム酸カリウム、重クロム酸ナトリウム、
アンモニア明礬及びカリクロム明礬、クロム酸鉛、酸化カドミ
ウム、其他のクロム染料及びカドミウム染料。

本工場の其他の製品としては、過燐酸、合成樟腦、ベルリン
膏及びラック溶液がある。

更にこのコンツェルンは、*FAOD* の獲得により、過酸化水
素及び其他の過酸化物をその勢力圏に包含した。*FAOD (Fabbrica Acqua Ossigenata e Derivati S.A. Milano)* は一
九二五年に設立され、百五十萬リラの株式資本を有して居るも
ので、そのミラノの工場に於て、あらゆる濃度の過酸化水素のほ
かに、なほ過酸化マグネシウム、過酸化亜鉛、過酸化カリウム、
過酸化アンモニウム、及び過燐酸ナトリウムが製造されてゐる。
更に又、注目すべき事業を行つてゐるものに、子會社 *Franchina del Tose S.A. (Milano)* がある。一九二六年に



設立されたこの会社は、現在株式資本二千萬リラを有して居り特に伊太利に於ける脂肪局合成化学を發展せしむる任を擔ひてゐるものである。その諸工場はヴィラドワッラ(ノヴァーラ)にあつて、主として電氣化學製品の生産、特に、炭化カルシウム及び、アセトアルデヒド、醋酸、無水醋酸、醋酸ナトリウム、醋酸鉛、アセトン、醋酸アドロノール、醋酸シクロヘキサノール、クロロフォルムの如きアセチレン誘導體の生産を行つてゐる。近時この会社はその製造計畫の大擴張を計畫した。即ち同じくモンテカテイーニ株式會社の子會社である Rodinassa と協同して、アメリカのデュボン・コンツェルンから獲得したナイロンと人造樹脂との特許の使用を引受けたのである。このため新たに二つの工場の建設が着手された。ノヴァーラにある一つの工場は酸類及び人造樹脂を、ヴェルバニアにある第二の工場は人造纖維を製造することとなつてゐる。セルローズは後者の工場に於ては原料として除外されてゐるので、その人造纖維製造のためには専ら國內原料を使用するであらう。

肥料

食糧の確保は、最初から、ファシズム自給計畫の重要目標の一つであつた。ここでも化學は最大限に動員されてゐる。必要な肥料及び害蟲驅除劑の製造によつて、化學は、收穫の増加に對し、即ち先づ第一にヘクタール當り平均收穫の増加に對し、大いに貢獻した。伊太利の肥料供給は、總じてモンテカテイーニ・コンツェルンの支配下にある自國生産によつて既に幾年來確保されてゐる。年輸入需要は、最近十年間に於ては、獨資にし

て年に百萬ライヒスマルク以下であつた。それに反し、窒素に於ては供給不足が存続し、従つてこの方面に於ては當分の間相當大なる輸入が必要であつた。然しながら、一九三七年に現はれた輸入増加(獨資にして二千八十萬ライヒスマルクで、これは大部分、天候状態及びそれに伴つた電力供給不足に歸因するものであつた)を除くならば、窒素の方面に於ても、外國依存の減少が現はれてゐる。一九三八年にはその輸入額は、一九二九年の二千七百八十萬ライヒスマルクに對し、僅かの九百三十萬ライヒスマルクに過ぎなかつた。この數字に生産の數字を比較して見るならば、伊太利工業の業績が、なほ一層明瞭に現はれて来る。即ち一九二九年に、伊太利に於ては窒素肥料二十三萬噸の生産が行はれたに對し、一九三八年には既に五十七萬噸の生産が行はれたのである。つまり僅か十年間に約二倍半に増加したわけである。

現在、伊太利諸工場の磷酸肥料及び窒素肥料製造力に、一九四〇年度アウタルキ；計畫目標に關つてゐる。斯くて農業及び工業の全需要が満たされ得るのである。農業の消費は昨年増加した。過磷酸石灰は、一九三八—三九農業年度に於て、前年度の百四十萬噸に對し、百六十六萬噸が使用せられた。この一九三九—四〇肥料年度に於ては消費は更に増加した。窒素肥料の消費は一九三八—三九年度に於て前年の状態を一一%凌駕した。肥料の価格は一九四〇年初頭迄不動の儘保持された。一九四〇年三三に初めて、監督官廳により價格引上が許された。これがとても工業側からは不充分と見られてゐる。合成窒素の

價格引上は二%であつた。

モンテカテイーニ・コンツェルンの窒素事業は主として Anitmonia e Perfrate, Soc. Generale per i Prodotti Anitmonici S.A. (Milano) によつて代表されてゐる。この會社は一九二四年に設立されたもので、株式資本は三億リラである。その工場はマス(ベルルーノ)、ノヴァーラ、メラノ・シニエーゴ(ボルツァーノ)、クロトーネ及びサン・ジュゼツペ・デ・カイロ(サヴォーナ)に在る。而して次のやうなものが製造されてゐる。

合成アンモニア水及び無水合成アンモニア、あらゆる濃度の硝酸、合成曹達硝石、硝酸ナトリウム、硝酸アンモニウム、石灰硝石、硫酸アンモニウム、工業尿素及び純粋尿素、その他、硫酸、炭酸、メタノール、防凍劑。

サン・ジュゼツペ・デ・カイロの工場の擴張は昨年完了した。今年初頭に於ては窒素工場はその能力を十分に發揮することが出来なかつた。それと云ふのは、コンツェルン會社コキタリアのコークス製造所が石炭の不足のために瓦斯を十分に供給出来なかつたからである。それに反して、メタノール及び尿素の生産は今年大いに發展を見た。マスに於ては更に硫酸工場が擴張された。

モンテカテイーニ株式會社自身によつて經營されてゐるドモドツラ(ノヴァーラ)の石灰窒素工場は昨年、電力供給良好のためその生産を増大した。

このコンツェルンでは更に、窒素事業の擴張が企てられてゐる。

る。アウタルキ計畫のために、アブアニア新工場地帯が造られることとなつてゐる。この新しい工場集會社の建設の主要關係者はモンテカテイーニ會社であつて、この會社はその場所、或は直接に或はその子會社によつて、數々の新しい重要工場を計畫してゐるのである。この新化學都市の中核をなしてゐるのは、新設會社 (Societa' Anitmonia) のコークス製造大工場であるが、この會社の創設には、モンテカテイーニと共に他の一つの電氣コンツェルンが關與したのである。この會社のコークス製造所は、年に二十萬噸のコークスと、そこに生ずる副産物とを生産することとなつてゐる。コークス爐瓦斯は Anitmonia e Perfrate S.A. によつて、合成窒素化合物に製せられるであらう。

この工場の窒素生産能力は二萬噸となる見込である。窒素工場を含めたコークス製造所の總売上高は約七十萬噸と見積られてゐる。又この「化學都市」には既に、更に別のモンテカテイーニの石灰窒素工場が建設中であるが、これは石灰窒素六萬噸の生産力を有してゐる。このほか更にモンテカテイーニ・コンツェルンは此處に新たに硫酸工場、マグネシウム工場及び他の化學工場を設立しようとしてゐる。

他の子會社 Unione degli Agricoltori per la Tabacchicoltura del Comitat' Ciminet, (Montebelluna) は昨年モンテカテイーニに合併されたものである。この會社は一九〇七年に創立され、株式資本二百七十萬リラで、モンテベルルーナに一つの農業用化學製品製造工場を有してゐる。その主要生産物は硫酸、過磷酸石灰及び硫酸銅である。

染料

伊太利の染料工業に於ても亦、モンテカティニー・コ
ンツェルンは卓越せる地位を占めてゐるが、この部門に於ても
モンテカティニーは国内生産の増進に大いに貢献した。一九二九
年の七、五〇〇噸より一九三八年の二〇、七〇〇噸に増加したタ
ール染料生産数量を見るとき、最近十年間に純正染料の部分が
著しく増加したことを特に注意しなければならぬ。この工業
部内の増進増大は、更に又、一九二九年の七、四〇〇噸より一九
三八年の二二、一〇〇噸に上昇した中間生成物によつても示さ
れてゐる。外国産染料及び中間生成物への依存はこれにより近
年著しく減少されることが出来た。即ち一九二九年になほ獨貨
にして千八百三十萬ライヒスマルクであつた輸入需要が、一九
三八年には四百四十萬ライヒスマルクに減少され得たのであ
る。かくてその輸入は、伊太利消費の一〇%以下に當つてゐる。
この方面に於けるモンテカティニーの事業開闢は主に、一九
三一年に創立された A.C.N.A. (Arrendo Colori Nazionali
Atini, Sa, Milano) によつて代表されてゐる。その株式資本
は現在一億リラである。この会社はチエザノ・マデルノ (ミ
ラノ) 及びチエンジヨ (サヴォナ) に二つの工場を有してゐて、
主にタール染料及び中間生成物の製造を行つてゐる。この会社
はなほこのほかに和硫酸促進劑及び其他のゴム工業用化学品並び
に、數多の重化学品を製造してゐる。この会社の製品は次の群
に分類される。
酸性染料、鹽基性染料、直接染料、油溶性染料、羊毛染料、皮

革染料、人絹染料、醃酸染料、建築染料、アリザリン染料、ト
リフニルメタン染料、ソラニール染料其他、並びにインヂゴ、
インヂゴイド、ナフトール、ニグロリン、インヂリン其他。
ゴム用の和硫酸促進劑及び防酸劑、チオカルバニリド、チフェ
ニルグワニヂン、メルカルプトベンツチアゾル、チチオカルバ
ルミン酸誘導體、チエーラム化合物其他。
タール染料製造用、就中硫酸チメチル、クロル酢酸、サリチ
ル酸、アントラニル酸、其他の有機酸、無水フタル酸、スル
フォン酸、ニトロベンゾール、ヂクロルベンゾール、ニトロクロ
ルベンゾール、其他のベンゾール誘導體、アニリン、ヂメチルア
ニリン、ニトロアニリン、アセトアニリド、ベンズアルデヒド、
鹽化ベンジル、ベンジヂン、アニジヂン、フェネチヂン、フェ
ニレンヂアミン、レゾルシン、ヂニトロトルオール、トリニト
ロトルオール、其他のトルオール誘導體、並びにキシオール誘
導體、ナフタリン誘導體、アントラセン誘導體、其他。
各種化学品、そのうち、あらゆる濃度の硫酸 (發煙硫酸を含
む)、合成鹽酸、液體炭酸、安息香酸、蟻酸、マレイン酸、金屬
ナトリウム、苛性曹達、苛性加里、次亜鹽素酸ナトリウム、ク
ロール石炭、重亜硫酸曹達、硫化ナトリウム、過酸化ナトリ
ウム、鹽化アンモニウム、無水鹽化アルミニウム、酸化鐵、純
ベンゾール、フォルムアルデヒド、トリクロルエチレン、テト
ラクロルエタン、ヘキサクロルエタン、ヘキサメロレントラ
ミン等。

モンテカティニーの最近の報告によれば、A.C.N.A. につれ

爆薬

には獨逸の I.G. 染料工業株式會社も關與してゐる——は満足
すべき成果を擧げてゐる。耐光染料の製造に於て新しい成功が
收められて居り、又羊毛染料の製造に於ても同様であつて、その
輸入は現在全然停止され得るまでに至つてゐる。モンテカティ
ニーの報告の中には、これに關して、會社が、伊太利タール染料
製造を外國と比較し得る状態にまで持つて行くために、實に高
價な財政的犠牲を拂はねばならなかつたことが、特に強調され
てゐる。然しながら、これによつて、伊太利をタール染料生産に
於て全然外國から獨立せしめる可能性が得られたわけである。
この發展を支援するために、政府が伊太利に於て製造され得る
一切の製品を輸入から除外することが、必要とされてゐる。昨
年は又更に、鹽色染料、スタンブ・インキ、染色補助製品の製
造も良好な發展を見た。又アントラキノン製造のために、一つ
の新工場が營業を開始された。
チエンジヨの工場に於ては、石炭酸及び蟻酸製造のための新
しい大設備が昨年營業を開始することが出来た。伊太利工業の
能力はここに於て三倍になつたわけで、従つて國內の全需要が
充たされ得るばかりか、更になほ製品の一部は輸出に供され
得るのである。
A.C.N.A. は其他に、人造樹脂及びその完成品製造のための
新施設を建築中であるが、これは一九四〇年の夏中に完成を見
ることとなつてゐる。又更に人造原料方面に於ける一層の研究
が續けられてゐる。これに關する研究勞作はすべて、マデルノ
及びチエンジヨの實驗室で行はれたのである。

資料・統計

伊太利の爆薬工業は、近年、モンテカティニー、コンツェルン
の力により、上昇線を描いて發展した。輸入需要は最近十年間に
實際上無くなつてしまひ、反對に輸出は、獨貨にして一九二九年
の三百四十萬ライヒスマルクから一九三八年の六百五十萬ライ
ヒスマルクに増加した。ここでも根本目標は、外國原料に依存
せざる新しい製造法の發展に置かれた。詳細な生産數量の不明
な、リリに在る大きな國營彈藥工場のことを除けば、モンテカテ
イーニ・コンツェルンが、その四つの子會社によつて伊太利爆
薬工業の大部分を支配してゐることは認め得られる。この四つ
の子會社とは、前に述べた A.C.N.A., Dynamite Nobel S.A.,
Soc. Generale di Esplosivi e Munizioni 及び Duco S.A.
である。このうち A.C.N.A. は軍用及び鑛山用の爆薬を製造してゐ
る。爆薬製造の主力は、一八八〇年に創立された資本金一億リ
ラの Dynamite Nobel S.A. (Milano) である。この会社は、ブ
アルロイア・アヴィリアーナ (トリノ)、アルレマンディ・アヴィ
リアーナ (トリノ)、カルミニャーノ・シーニャ (フィレンツェ)、
ブツシ (ベスカラ)、ヴェルジャヤテ (ヴァレーゼ) の五箇所に
工場を有してゐる。その生産計畫は、軍用及び鑛山用爆薬、狩
獵用火藥、綿火藥並びに、爆薬、ラック、人造原料製造用の硝
酸纖維素を包含して居り、更にその工場に於ては數多の重化学
品 (一部は自家需要のために) が製造されてゐる。そのうち次
の如きものがあげられる。
濃硫酸、アンモニア、普通硝酸及濃硝酸、硝酸アンモニウム、

水素及び酸素、苛性曹達、液體酸素、次亜硝酸ナトリウム、クロル石灰、鹽酸カリウム、鹽酸ナトリウム、合成鹽酸、鹽化カルシウム、鹽化亜鉛、一鹽化硫黄、五鹽化アンチモン、フオスゲン、四鹽化砒素、トリクロルエチレン、テトラクロルエタン。

ブツシに在る工場は、一九三七年に *Dinamite Nobel* に合併接収された元の *Soc. Nazionale Chimica* の所有であつたものである。

主として爆薬及び導火管の製造に當つてゐる *Soc. Generale di Esplosivi e Munizioni* (Milano) は一九三二年に設立され現在株式資本千五百萬リラである。この會社は、ボチエダ・ヴィラフランカ・ルニジャ・ナマツサ・カルラーラ、パルレローネ・アウルラ(マツサ・カルラーラ)、オルベテロ(ダロツセーロ)、タイノ(ダアラレーゼ)の四箇所に工場を經營し、次の如きものを製造してゐる。大砲用爆薬及其他軍用爆薬、鑛山用爆薬、硝酸鉛、アジ化ナトリウム、アジ化鉛、アジ化銀、雷酸水銀、鑛山用雷管、手榴彈及び其他の彈丸、電氣雷管及導火索等。

更に又、株式資本を二百五十萬リラから一千萬リラに増資してから餘り長くない *Duco S.A.* による重要軍需品製造は昨年大いに進展を見た。この會社の事業所はアヴィリアーナ(トリノ)にあつて、主にニトロセルロース製品及びセルロースワックを製造してゐる。ワックの賣上總額は昨年二千萬リラで、従前の状態を遙かに凌駕するものであつた。昨年は又ニトロセルロース製品及び軍需工業用新製品の製造は大いに伸展せしめ

られた。ここでもまた國産品による外國原料の驅逐が關心の中心となつた。

昨年の爆薬工業發展に關し、モンテカティニーは、*Dinamite Nobel S.A.* が殆どその全部の施設を擴充した旨を發表した。爆薬工四號の成績が良好であつたため、國內の他の箇所にもその製造のための新工場があちこちに設立されて居り、又は設立せられんとしてゐる。斯くて *Dinamite Nobel* の生産額は前年を遙かに凌駕した。更に又、國內に原料を仰ぎ得る新しい爆薬工場の設立は、特に重きを置かれたところであつた。最近擴張を見たブツシのアルカリ雷管工場は、昨年充分なる電力を供給され、現在伊太利最大の苛性曹達及びクロール製造工場となつてゐる。又テトラエチル鉛に於ても良好な結果が得られて居り、そのために會社は新工場の建設を行ふに至つた。

又 *Soc. Generale di Esplosivi e Munizioni* も、一九三九年にその諸工場を擴張した。この會社は近くその資本を増額しようとしてゐる。

醫 藥

伊太利製藥工業の發展はフアンズム經濟指導が既に幾年來大いに重きを置いて來たところである。この方面に於て得られたる成果が左程明瞭に現はれて居ないとは云へ——一九三八年に於ても、獨貨にしては約千四百萬ライヒスマークの醫藥、即ち一九二九年と殆ど同額の醫藥が輸入された——伊太利國民への醫藥供給が最近十年間に良好になつたことは、指摘されねばならない。即ち國內生産の全體的増加が自國民に利益したのである。

ある。これと一致して、輸入の割合も、全消費から見ても、減少した。外國製品によつて充たされる消費分は現在一五%以下に在るものと推測される。

伊太利に於て以前から特に不満に感ぜられてゐたのは、外國産合成醫藥の依存性である。モンテカティニーは、出來るだけこの缺陷を除くことを自己の目標とし、この目的のために、一九三四年に、或る佛蘭西の會社の關與のもとに *Farmaceutici Italia S.A. (Farmitalia)* (Milano) なる會社を設立した。この會社は現在二千五百萬リラの株式資本を有し、セツティモ・トリネーゼ(トリノ)とミラノとの二箇所にその醫藥製造所があり、次のやうなものが製造されてゐる。

多種の醫藥化學製品、ヨード化合物、プロム化合物、マグネシウム化合物、水銀化合物、砒化合物、金化合物、固状及び液状炭酸、鹽化エチル、麻酔用エーテル、グリセロ燐酸、サリチル酸及び、アセトアニリド、アセチルサリチル酸、アセトフェネチデン、ヘキサメチレンテトラミン、合成グワヤコール、フェノールフタレイン、バルビツル酸誘導體、フェニルアルシン誘導體、アルゼノベンゾール、アドレナリン、デアセチルタニン等の如き數多の合成醫藥、又キニン鹽、カフェイン、スバルテイン、スコボラミン等の如きアルカロイド、並びに最後に種種のワクチン。

昨年この會社は伊太利の消費の大部分を充たすことが出来、そのため大量に消費される若干の醫藥品は輸入されなくとも良かつた。そのほか昨年は、新しい熱帯病醫藥 *Farma*

資料・統計

Enge が伊領東アフリカに於て効驗を實驗されたが、これは從來多量に輸入されてゐた外國品に代るべきものである。

鑛油及び天然製品

伊太利國內には從來擧げに足るべき石油田は發見されて居らず、瀝質頁岩及びアスファルト岩よりの動力燃料製造も大いなる發展の可能性を有して居ない有様で、伊太利の燃料供給は『企業』第三卷第四號一〇六頁以下参照) 確かにすべてのアツタルキー問題中最も困難なる問題をなしてゐる。然しながら、これに關係するすべての部所の總動員により、昨年はここにも根本的變革が招來せしめられた。然し鑛油は三百九十萬噸(一九三八年)で、伊太利に對する海外からの全輸入の約五分の一をなし、斯くてその最重要部分をなしてゐる。然しながら戰爭が勃發してからはこの情勢が全く變つてゐる。即ち私的の自動車交通は既に停止され、それと同時に又商船の大部分も休航を見る筈で、そのために補充需要は年に二百五十萬噸に削減される見込である。さて然し伊太利は封鎖を受けた場合に備へて近年多大な動力燃焼ストックを蓄積した。又更に、伊太利が最近アルバニアの石油探掘に大努力を行つたことにより、一九三八年以來情勢は大いに變化した。ルーマニアと協同して、アルバニアは既に一九三九年の前半に於て伊太利の石油輸入の四分の一を提供した。而して將來アルバニアからの供給はなほ増大される見込である。

動力燃料問題は同時にまた技術的方面からも、對策が講ぜられた。パリ及びブリツォルノにある ANIC(Azienda Nazionale

Indregonazione (Combustibili) による二大水素添加工場の設立により、所有原料の合理的加工及びベンジンを生産増加達成の前提条件が作られたのである。必要の場合には、この二大工場は国内産精炭の加工にも轉換されること出来る。モンテカチーニ株式會社により一九三七年に國家の方針に従つて設立されたこの「I.N.A.」の株式資本は、最近行はれた増資以來七億五千萬元となつて居り、そのうち六億二千五百萬元が目下發行されてゐる。劣質なアルバニア石油を主として加工してゐるこの二工場のベンジンを産額は、最初の計畫數量二十四萬噸に對し、近き將來に四十萬噸に達するであらう。そのほか「I.N.A.」はリッポルノの工場に於て、年になほ六萬噸の潤滑油と一萬四千噸のパラフィンを得ようと欲してゐる。この工場の建設は遅れはしたが、一九四〇年中には完成される筈である。既に昨年以來、この二つの工場は約五十萬噸の原料を加工した。モンテカチーニの發表によれば「I.N.A.」は航空機用ベンジンの全需要量を提供することが出来た。工場の収益性がなほ良好となつたので、資本の利息は政府との取極めによつて六%より八%に上げられ、従つて、引受けられた預當保證に基く國家の補助は著しく低減することが出来たわけである。

これら二つの新工場を持つことにより、「I.N.A.」は、伊太利の鑛油工業に於て、遙かに他を凌ぐ最も重要な事業である。このほかに重なる會社が二つある。それはAGIP (Azienda Generale Italiana Petroli) (株式資本五億リラ) と ALPA (Azienda Italiana) で、そのうち後者は伊太利國營鐵道の所有である。

特に「I.N.A.」會社がモンテカチーニと共に關與してゐる「Cobaltina」株式會社は、伊太利のコークス製造事業中、決定的役割を演じてゐる。その株式資本は一億リラで、その製造工場はサン、ジュゼッペ・デイ・カイロ・ブラーニョ(サヴォーナ)に在り、コークス製品、タール蒸溜製品、其他輕油、ベンゾール、トルオール、中油、重油、粗生ナフタリン、ピッチ、並びに硫酸アルミニウムの生産を行つてゐる。一九三九年秋の競争勃發に際して、コークス製造事業の石炭供給には大なる困難が生じた。然し獨逸から石炭の供給を受けることにより、状態が再び改善されたために、この會社は昨年、工場が未だ完成してゐなかつた一九三八年に於ける以上の石炭量を得たのであつた。第四のコークス爐の完成後、工場の石炭處理能力は年百萬噸である。「Cobaltina」株式會社の新設コークス製造工場については既に前に肥料の章に於て述べて置いた。

輕金屬

伊太利アルミニウム工業が自國內に有する廣大なる原料基礎は、アルミニウムに伊太利アウタルキ政策に於ける非常に高い地位を保證した。近年この金屬には不足金屬の代理たるべき使命が益々大きく課せられて來たために、伊太利のアルミニウム消費は一九三三年以來約五倍となつた。一九三八年には伊太利のアルミニウム生産高は二五、八〇〇噸に達し、本年は四〇、〇〇〇噸になる筈で、以後二箇年は年に一萬噸づつ増して六〇、〇〇〇噸になる見込であつて、將來場合によつては、なほ年産十萬噸にまで増加されることである。原料として、伊太利

の精鍊工場は國內産ボーキサイトを_usingしてゐるが、その産額は一九二九年に一九二、八〇〇噸、一九三七年に三八六、五〇〇噸、一九三八年に三六〇、八〇〇噸であつた。一九三九年の産額は前年と殆ど變りはなかつた。モンテカチーニの最近の營業報告は、設定目標の達成に多大の投資が必要であることを指示してゐる。一年に六萬噸のアルミニウムを生産するだけでも、二十億キロワット時の電力が必要とされるであらうし、それに対して特別な投資が準備されなければならないであらう。

伊太利アルミニウム工業に於ても、その原動力をなすものは大體、國內生産の大部分を占めてゐるモンテカチーニ・コンツェルンである。アルミニウム及び輕合金の製造に於けるモンテカチーニの關與は、次の三つの會社に集括されてゐる。

I.N.A. (Industria Nazionale Alluminio, An.)

L.I.L. (Lavorazione Leghe Leggere S.A.)

Metallurgia Lombarda Piemontese S.A.

I.N.A. は資本二億四千萬元で、ボルツァーノ、モリ(トレント)及びポルト・マルゲラ(ヴェネチア)に工場を經營してゐる。ポルト・マルゲラの施設に於ては鑛土が生産され、この鑛土はボルツァーノの工場に於てアルミニウムに、モリの工場に於て金屬アルミニウム、アルミニウム合金及びアルミニウム青銅に製造されるのである。今年の夏の會社はボルツァーノに新アルミニウム工場を開業するとする。資本二千四百萬元を有する「I.N.A.」の工場は同じくポルト・マルゲラ(ヴェネチア)に於て、アルミニウム輕合金(半製品)の製造にあつた。

資料・統計

つづいて Metallurgia Lombarda Piemontese は百五十萬リラの基礎資本を有し、ピエティムレラ(ノヴァーラ)の工場に於てアルミニウム及びアルミニウム合金の製造並びに、アルミニウム乃至輕化アルミニウムからの鑛産製品、冷し鑛物、鑛製品、壓型製品、箱類、家庭日用品、管及び其他の品の製造にあつてゐる。

アルミニウムの販路擴張助成のために、モンテカチーニ・コンツェルンは、半製品及び合金の製造を増加した。I.L.I. は現在、この目的のために、フェララーの工業地帯に年産能力八千噸の工場を設立しつづいてゐる。即ちこれは、ヴェネチアの工業地帯にある同會社の、既に營業を行つてゐる工場と同じ年産能力である。この新施設のための準備額は六千萬リラである。

アルミニウムの使用領域擴張を目的として更に、モンテカチーニ・コンツェルンと共に伊太利アルミニウム生産の大部分を支配してゐる Sava (Soc. Alluminio Veneto An.) と協力して、輕金屬研究所が創立された。これは創業基金一千萬元、年經費五百萬元である。

監督官廳により一九四〇年度には、アルミニウム價格を一九三七年の状態より九%引上げることが許された。モンテカチーニの見解によれば、それでもこの價格引上げは、生産費昂騰に比較して不十分であるとのことである。

アルミニウム工業の發展と關聯して、モンテカチーニ・コンツェルンは更にヴェネチアの工業地帯に人造水晶の製造所を設立し、そのほか、他の箇所に硬質ピッチ生産所(Cobaltina)

のA.による)及び石油コークス製鐵所(リッポルノのANTICによる)を設立しつゝある。

又更にこのコンツェルンは、ボーキサイトからの酸化ヴァナヂウム生産の問題に意を用ひ、この目的のために、国内需要の約三分の一を売たし得る工場を設立した。そのほか、鑛土工業の殘滓は鐵を得る原料として見込をつけられてゐる。INAは日下、殘滓中に含まれた赤い酸化鐵から電氣爐で鐵を得るために、方法を完成中である。この新方法により、年十萬噸の鐵鐵輸入を無用となし得られる見込である。

伊太利に於て漸く緒についたばかりのマグネシウム製造にもまた、モンテカティニー・コンツェルンは意を用ひた。モンテカティニーはこのために、海水から鹽化マグネシウムをとり出してそれを電氣分解的方法で金屬マグネシウムにする独自の方法を發展せしめた。アプアニアの新工業地帯に設立されることとなつてゐる工場は、最初一千二百噸の生産能力を與へられ、これは他日三千噸にまで高められることとなつてゐる。モンテカティニーのほかにもなほ、マグネシウム生産の發展にたづなはつてゐる會社がある。一九三八年に伊太利に於て初めて七十三噸の製造が行はれた。原料状態は極めて恵まれてゐるので、マグネシウムは將來、自給工場原料として、各種の方面に極めて多く用ひられるに至るであらう。

資料 = Die Chemische Industrie Jahrg. 63 Nr. 24.

附錄 内外總動員關係記事月報

(1) 列國總動員關係記事月報 (歐文資料)

新聞雜誌略號表

Aero	Aeroplane	BMT	Bulletin du Ministère du Travail
AJPH	American Journal of Public Health	BSG	Bulletin de la Statistique Générale
AM	American Machinist	BSIC	Bulletin de Statistique et de Legislation Comparée
Ann	Annalist	BTJ	Board of Trade Journal
Annals	Annals of American Academy of Political & Social Science	CEJ	Chinese Economic Journal
AR	Asiatic Review	CFO	Commercial & Financial Chronicle
Armo	Army Ordnance	CH	Current History
AS	Agricultural Situation	Chemi	Chemische Industrie
ASt	Agricultural Statistics	CR	Contemporary Review
Auto	Automotive Industries	Darb	Deutsches Arbeitsrecht
AV	Aviation	DAZ	Deutsche Allgemeine Zeitung
Bank	Banker	DBZ	Deutsche Bergwerks-Zeitung
BB	Berliner Börsenzeitung	DIP	Deutsche Landwirtschaftliche Presse
BL	Berichte über Landwirtschaft	DR	Deutsches Recht

列國總動員關係記事月報

DV	Deutscher Volkswirt	IEC	Industrial & Engineering Chemistry
DV's	Deutsche Volkswirtschaft	III	Industrial Labour Information
DW	Deutsche Wehr	IIR	Industrial Labour Review
Eco	Economist	JFE	Journal of Farm Economics
EIB	Edison Electric Institute Bulletin	JNS	Jahrbücher für Nationalökonomie und Statistik
EJ	Economic Journal	JOF	Journal Officiel de la République Française, Edition des Lois et Décrets
Elect	Electrician	JRUS	Journal of the Royal United Service
EMJ	Engineering & Mining Journal	KR	Kartell-Rundschau
Engi	Engineering	LCE	London & Cambridge Economic Service
EN	L'Europe Nouvelle	LR	Labour Review
Ew	Elektrizitätswirtschaft	LT	Times (daily)
FA	Foreign Affairs	LTw	Times (weekly)
FES	Far Eastern Survey	Mac	Machinery
FPR	Foreign Policy Reports	MBS	Monthly Bulletin of Statistics
FT	Financial Times	MG	Manchester Guardian
FZ	Frankfurter Zeitung	MIG	Ministry of Labour Gazette
Geo	Geopolitik	MILR	Monthly Labour Review
Giorn	Giornale Economisti	MIMI	Metal & Mineral Markets
Giorn	Il Giornale d'Italia	Mois	Le Mois
GU	Gazeta ufficiale del regno	Monat	Monatliche Nachrichten über den auswärtigen Handel Deutschlands
HIK	Halbjahrsberichte zur Wirtschaftslage (Institut für Konjunkturforschung)	MSFC	Monthly Summary of Foreign Commerce
IA	Iron Age	NT	New York Times
IOTR	Iron & Coal Trade Review		

OR	Ostasiatische Rundschau	St	Statist
PA	Pacific Affairs	Stahl	Stahl und Eisen
PHR	Public Health Reports	StIK	Statistik des In- und Auslands (Institut für Konjunkturforschung)
Pop	Le Populaire	Temps	Le Temps
PT	Petroleum Times	Tin	Tin
RABI	Reichsarbeitsblatt	Tin	Textile Mercury
Rbahn	Reichsbahn	USN	United States News
RDM	Revue des Deux Mondes	USPD	Monthly Catalogue of U. S. Public Documents
REP	Revue d'Economie Politique	VB	Völkischer Beobachter
RGBI	Reichsgesetzblatt	VIK	Vierteljahrshft zur Konjunkturforschung (Institut für Konjunkturforschung)
RGE	Revue Générale de l'Électricité	VP	Der Vierjahresplan
RIC	Review of International Co-operation	WA	Weltwirtschaftliches Archiv
RPP	Revue Politique et Parlementaire	Wd	Wirtschaftsdienst
SCB	Revue Politique et Parlementaire	WIK	Wochenbericht (Institut für Konjunkturforschung)
SCDF	Statistique Mensuelle du Commerce Extérieur de la France	WM	Wehrtechnische Monatshefte
Schmo	Schmolters Jahrbuch für Gesetzgebung, Verwaltung u. Volkswirtschaft im Deutschen Reich	WS	Wirtschaft und Statistik
SOIK	Sonderheft (Institut für Konjunkturforschung)	ZAg	Zeitschrift für Agrar- und Wasserrecht
SP	Soziale Praxis		

記事分類表 (英文新聞雑誌の部)

I 政治及行政	(86)	XIX 教化一般	(123)
II 國際政治及外交	(90)	XX 情報及宣傳	(124)
III 法 制	(92)	XXI 發展及防衛	(125)
IV 國 際	(92)	XXII 食 糧	(126)
V 船舶及一般	(97)	XXIII A.H. 保衛、補給及民衆團體	(128)
VI 經濟一般	(98)	XXIV 資源調查及統計	(129)
VII 財 政	(100)	XXV 英 德	(129)
VIII 金 幣	(103)		
IX 物 價	(104)		
		XVII 社會及勞動	(120)
		XVIII 科 學	(122)

題 名	記 述 者	誌 名	卷 號	發 行 年 月 日	題 名	記 述 者	誌 名	卷 號	發 行 年 月 日
I 政治及行政									
A 英 國									
Sending children to dominions		LT		'40. 6. 5	Prime minister's call to the nation		LTW		'40. 7. 17
Cutting home consumption—new restrictions ranging from pianolas to dardboards		MG		'40. 6. 7	"War-Zone" courts—editorial		MG		'40. 7. 17
Drastic reconstruction of civilian supplies		MG		'40. 6. 7	"Home front" casualties		MG		'40. 7. 19
Cutting home consumption by half—cotton goods to a quarter		MG		'40. 6. 7	Ex-Borstal boy's conscience—a social worker		MG		'40. 7. 20
Safe homes for children—dominion offer		LTW		'40. 6. 26	Surplus garden produce for hospitals		MG		'40. 7. 24
Sending children overseas—shipping limitation		MG		'40. 6. 28	Economies in the kitchen—small savings—editorial		MG		'40. 7. 24
					Budget day—the silent column's passing—alms concessions		MG		'40. 7. 24
					The war zone courts—sentences review		MG		'40. 7. 25

Rationing—demand for ending luxuries		MG		'40. 7. 25	The Refugees need—II—plight of free frenchmen		LT		'40. 8. 9
The review of internees—information for Home Office		MG		'40. 7. 25	The New offer to India leaders		LT		'40. 8. 10
Refugees—editorial		MG		'40. 7. 26	British policy in India—partes and new offer		LT		'40. 8. 12
National salvage campaign launched—Minister of Supply's slogan		MG		'40. 7. 29	Constitution of India		LTW		'40. 8. 14
Cutting consumption and planning production—a security index		MG		'40. 7. 29	Prevention of waste—bottled rabbits and poultry		LT		'40. 8. 16
Beaverbrook put in the War Cabinet		NT		'40. 8. 3	Children for Canada—a likeable sample		LT		'40. 8. 19
Dynamic Democracy		Eco		'40. 8. 3	Public appointments—advertisement in the first roge		LT		'40. 8. 19
The refugees' need—desire to help in the War		LT		'40. 8. 5					
Women Police—plea for compulsory appointment		LT		'40. 8. 6	B 米 國				
Not a bank holiday—London at work and play		LT		'40. 8. 6	Nazism in the Americas		LTA		'40. 7. 1
Public appointments—advertisement in page 1—for Clerk to the Justices		LT		'40. 8. 9	The Democratic "platform"—foreign policy		MG		'40. 7. 17
Viceroy's statement on India's future partnership"		NT		'40. 8. 9	Mr. Roosevelt—editorial		MG		'40. 7. 19
					Roosevelt to stand for third term		MG		'40. 7. 19
					Roosevelt on acceptance—choice before world		MG		'40. 7. 20
					Americans to send ships?—for young refugees		MG		'40. 7. 27
					Draft registration is cut to 21-31 as Senators hear Stimson warning		NT		'40. 8. 1

E 伊 太 利							
Fascists and Italians	LTW	40. 7.10	British yield Somaliland to Italy	NT	40. 8.20		
A socialist under Mussolini—persecution on the milder Italian model	MG	40. 7.30	Chimrehill hopes to buy destroyers	NT	40. 8.21		
Kriegsmarine and Polish Italians	FZ	SS.419/20 40. 8.18	Text of Prime minister Chimrehill's speech on war's progress and U. S. defense plans	NT	40. 8.21		
F 其他諸國			B 米 國				
Proceedings of the East India association, the United provinces, and the new constitution	AR	40. 7.	Pan-American conference—A limited cartel?	MG	40. 7.22		
Non-Belligerent Spain—II	Eco	40. 8. 3	Pershing would let Britain have 50 old U. S. destroyers to guard our own liberty	NT	40. 8. 5		
The Cost of the Spanish Civil War	Eco	40. 8.10	The conquest of the world	USN	40. 8. 9		
Emergency steps decreed in Greece	NT	40. 8.28	Shall U. S. ships defend Britain?	USN	40. 8.16		
Canada's New Cabinet	Eco	40. 8.24	U. S. is negotiating for British bases, plan with Canada	NT	40. 8.17		
Humanian council approves cessation	NT	40. 8.31	Joint Board to act	NT	40. 8.19		
II 國際政治及外交			Text of the United States note to Germany	NT	40. 8.19		
A 英 國			Text of ambassador Balthus's speech warning America is in danger	NT	40. 8.18		
Terms of surrender—editorial	LTW	40. 6.26	Bullitt asks haste in destroyer sale	NT	40. 8.18		
The Harina Roast—editorial	MG	40. 7.19	U. S. expects Reich not to molest ship	NT	40. 8.19		
British offer as navy bases for destroyers	NT	40. 8.16					

Refugee ship held in 'grave danger' in U. S. aid to Canada by naval patrol scuttled in capital	NT	40. 8.20	Norway under German "Protection"	Eco	40. 8. 8		
Refugee ship safe, Nazi envoy thinks	NT	40. 8.21	The Balkans as Lebensraum—Ribbentrop's plan	LT	40. 8. 6		
Roosevelt puts past with Canada first in defense	NT	40. 8.21	A defense of King Leopold—King Leopold defends his conduct	LT	40. 8. 7		
La Guardia in U. S. session of Canada Defense Board: army, navy, air men named	NT	40. 8.23	Germany in Belgium—King Leopold's attitude	LT	40. 8.20		
Propose to cancel British war debt for 18 navy bases	NT	40. 8.24	Scientific looking Holland under German Control—I	Eco	40. 8.24		
Joint Canadian—United States Defense Pact concluded by President Roosevelt and Prime Minister Mackenzie King	CFC	151.3922 40. 8.24	D 佛 國				
Great Britain offer to lease naval bases in Western Hemisphere to United States	CFC	151.3922 40. 8.24	Joan of Arc's emblem for free Frenchmen	LT	40. 8. 6		
Canadian—United States Joint Defense Board holds meetings in Ottawa	CFC	151.3923 40. 8.31	French forces of volunteers—text of agreement	LT	40. 8. 8		
			French force in Britain—agreement signed	LT	40.8. 8		
			E 伊 太 利				
			Italy hints Greece must yield Epirus	NT	40. 8.15		
			Italian charges against Greece on Albanians found groundless	NT	40. 8.23		
			Italy's changing interests in the Far East	FES	9. 18 40. 8.28		
C 獨 逸			F 其他諸國				
Hitler's "New Europe" Axis aims in the Balkans	LTW	40. 7.17	Canada's War Contribution	St	40. 5.25		
	LTW	40. 7.31					

Proposal for trusteeship of European colonies in this hemisphere approved at Pan-American Conference at Havana							
Die liberische Entscheidung	DAZ	'40. 8. 10	The New Europe	LTW	'40. 7. 30		
Molotov's Speech	Eco	'40. 8. 10	The Mediterranean—editorial	MG	'40. 7. 17		
Greece rejects Italian demands	NT	'40. 8. 14	Europe's future—editorial	MG	'40. 7. 22		
Bulgarian border of 1912 restored	NT	'40. 8. 22	Mourou Doctrines	Fco	'40. 8. 3		
Greece to resist; Metaxas asserts; British back ally	NT	'40. 8. 24	Washington's Plane in Ibero-America	DAZ	'40. 8. 4		
Turkey and Greece	Eco	'40. 8. 24	Hitler-Mussolini parley reported to discuss Soviet role in Balkans	NT	'40. 8. 29		
Rumania fights reds and Hungarians	St	'40. 8. 24	III 法 制				
Canadian coast defence is first big task of Lohr board starting an air tour to-day	NT	'40. 8. 28	A 英 國				
Axis forces Rumanians to yield half Transylvania to Hungary	NT	'40. 8. 31	"Marital Law" bill to be amended—postponed	MG	'40. 7. 17		
Text of Axis award on Transylvania	NT	'40. 8. 31	"War Zone" counts—more amendment put down	MG	'40. 7. 19		
G 世界一般			Limitation of Supplies order, 1940	BTJ	'40. 7. 25		
The Mediterranean position—safety of British fleet	MG	'40. 6. 28	An offer to India—editorial	LT	'40. 8. 9		
			Constitution of India—Government declarations of policy	LT	'40. 8. 9		
			Government by legations	Eco	'40. 8. 10		
			B 獨 逸				
			Verordnung über Russ Das feindliche Vernehmen	DAZ	'40. 8. 3		
				DR	10	'40. 8. 3	

Durchführungsbestimmungen zum Wohnungsgemeinnützigkeitsgesetz	DAZ	'40. 8. 10	Britain's defence measures—parliamentary	MG	'40. 7. 17		
Anmeldung deutscher Vermögen im feindlichen Auslande	DAZ	'40. 8. 13	The C. O. s—editorial	MG	'40. 7. 19		
Veränderungen in Reichsbank und Reichswirtschaftsministerium	DAZ	'40. 8. 13	Labour for arms drive—cabinet members' appeal	MG	'40. 7. 30		
IV 國 防			Revised internment policy—editorial	MG	'40. 7. 24		
A 英 國			Civilian war casualties—allowance and pensions	MG	'40. 7. 25		
Functions of local defence volunteers—as a line of outpost	MG	'40. 6. 5	Aircraft industry "doing better every day"—new record output	MG	'40. 7. 25		
Tanks outrun petrol supplies	MG	'40. 6. 7	Shorter hours in arms works—parliamentary article	MG	'40. 7. 28		
Measures to finance war productions—arrangement with banks	MG	'40. 6. 7	Training the Home Guard—defects to be remedied	MG	'40. 7. 30		
Leap in arms production—argument on design	MG	'40. 6. 28	Munitions relief shifts—shorter-week plan	MG	'40. 7. 30		
Supply—editorial	MG	'40. 6. 28	Military training—facilities for local drilling	LT	'40. 8. 1		
Mr. Bevin's first day on Treasury bench—training schemes	MG	'40. 6. 28	Ausschilde Blockadeverordnungen	DAZ	'40. 8. 1		
The defence of Britain—editorial	LTW	'40. 7. 3	Ministry of Supply—parliamentary article	LT	'40. 8. 2		
Entering the air force—applicant's tactics	MG	'40. 7. 17	War production—Regional Industry Board	LT	'40. 8. 2		
			The Australian soldier—a comparison of two Imperial forces	LT	'40. 8. 2		

報	日	頁	日	頁	
The Singapore base	LT	'40. 8. 3	Defence against invasion	LT	'40. 8. 17
Pre-Service training— advertisement by Gordonston School	LT	'40. 8. 6	—Home guard and the army	Eco	'40. 8. 17
Some suggestions by readers—matches, letters, and shelters	LT	'40. 8. 8	Foreign Armies in Britain	Eco	'40. 8. 17
"Revolutionized defence?"	The First of Admiral.	'40. 8. 8	Withdrawals in the Far East	Eco	'40. 8. 17
Supply Minister's message—appeal to workers	LT	'40. 8. 9	Progress of arms supply—planning for a world offensive	LT	'40. 8. 19
Training for munition—parliamentary	LT	'40. 8. 9	India and arsenal—expanding war effort	LT	'40. 8. 19
Oppington Urban District Councils advertisement in page 1—for the appointment of Air Raid Prevention Officer	LT	'40. 8. 10	The treatment of parachutists—another German note	LT	'40. 8. 20
For prisoners in Germany—what and how to send	LT	'40. 8. 10	Joint defence of America—cooperations of Canada	LT	'40. 8. 20
British arms for allied troops—a practical display	LT	'40. 8. 12	The organizations of defence—editorial	LT	'40. 8. 20
Making new tanks from old—Ministry of Supply's work	LT	'40. 8. 12	B * Pq		
Need for an army of millions—100 divisions	LT	'40. 8. 13	American arms output—Ambassadors, appeals	MG	'40. 6. 7
Priority in war production—control under separate minister proposed	LT	'40. 8. 16	Army training of Americans—a new plan	MG	'40. 7. 24
			'Planes from United States—Makers' view	MG	'40. 7. 27
			House votes	NT	'40. 8. 1
			\$4,963,161,957 Bill for nation's rearmament drive	LA	'40. 8. 1
			Tool engineer's poll shows lack of skilled men		

Defending America	LA	'40. 8. 1	Army for offense demanded by Drumm	NT	'40. 8. 8	
Kanderson reports "substantial progress" on defense plans	LA	'40. 8. 1	U. S. armaments production—British advice on tanks	LT	'40. 8. 9	
How New draft bill would affect citizens	USN	'40. 8. 2	Senate committee approves compulsory military training bill for men between 21 and 31	CFC 151.3920	'40. 8. 10	
Outstanding als Program	WD	25. 31	'40. 8. 2	Conscription in America—"Paralyzing barriers"	LT	'40. 8. 10
President Roosevelt asks Congress for power to call national guard into training service	CFC 151.3919	'40. 8. 3	U. S. rearmament progresses—tanks for Britain	LT	'40. 8. 12	
President signs bill appropriating \$25,000,000 to expand TVA facilities for national defense	CFC 151.3919	'40. 8. 3	U. S. rearmament programme—the Vinson-Trammell act	LT	'40. 8. 12	
National advisory defence commission announces clearance of contracts amounting \$1,728,195,830 in light weeks	CFC 151.3919	'40. 8. 3	U. S. and sale of warships—legality defended by lawyers	LT	'40. 8. 12	
Defence needs of U. S.—watch of Russia and Japan	LT	'40. 8. 3	President visits Newport and New London	NT	'40. 8. 13	
U. S. rearmament—restoring influence of politics	LT	'40. 8. 5	Senator Norris says draft changes our basis, leads to dictator	NT	'40. 8. 13	
Troops fill up—state "War area" arms shortage stir General Drumm	NT	'40. 8. 6	Army plans upset by delay in draft; Wheeler hits Bill	NT	'40. 8. 14	
Arsenals ordered to work 3 shifts	NT	'40. 8. 8	Senate lifts pay in army to \$30 to aid enlisting	NT	'40. 8. 15	
			Guard. Bill voted by House, 342 to 33	NT	'40. 8. 16	
			Senate debates compulsory military training bill	CFC 151.3921	'40. 8. 17	



National Defense Advisory commission says industry has been cooperating in defense orders	OFC 151.3921	'40. 8.17		6,747 war planes ordered for U. S.	NT	'40. 8.27
Freiwirtschaftslehre oder Wehrpflicht in USA	DAZ	'40. 8.18		Willkie demands chief for Defense Board; Chides Roosevelt for failure to name one	NT	'40. 8.27
U. S. survey of Hitler conquests reveals 6th column spearhead	NT	'40. 8.20		Draft bill upheld in first test vote in Senate, 54 to 29	NT	'40. 8.28
Army of 4,000,000 top defense need	NT	'40. 8.21		Coordinate to conquer	IA 146.	9 '40. 8.29
Gen. Drinn affirms conscription need	NT	'40. 8.23		Text of the selective service bill as passed by the Senate yesterday	NT	'40. 8.29
Bases "vital need" of American navy	NT	'40. 8.23		Text of national guard resolution	NT	'40. 8.29
House approves final guard bill	NT	'40. 8.23		Guard bill is sent to the President	NT	'40. 8.29
Why army is asking for 1,500,000 men	USN	'40. 8.23		Millions in orders for planes engines	NT	'40. 8.31
America's Re-armament Programme	Eco	'40. 8.24		The navy expands its aircraft and base facilities	AV	39. 8 '40. 8.
America's military strength	ST	'40. 8.24		Army speeds up training in the air corps	AV	39. 8 '40. 8.
More to speed conscription vote falls on refusal to limit talk	NT	'40. 8.24				
Army, navy, spun fair as camp site, ending clash here	NT	'40. 8.26		Zweimal Zeit als Waffe	DV	14. 44 '40. 8. 2
President starts on camp for 400,000 using emergency fund to install utilities	NT	'40. 8.26		"La partie est en danger"—how France awoke	MG	'40. 8. 5

Reynaud on Paris raid & the offensive	MG	'40. 8. 7		A war diary	LTW	'40. 8.14
Ein Kriegsrat und seine Auswirkung	DAZ	'40. 8. 1		Objection to war	Eco	'40. 8.17
Warum die Maginotlinie zusammenbrach	DAZ	'40. 8. 3		The Commonwealth at war	Eco	'40. 8.17
The French West India fleet—proposed agreement to disarm	LT	'40. 8.16		Priority for munitions	Eco	'40. 8.24
Exercise by free French army—Air raid during mock attack	LT	'40. 8.19		Defence of the Americas	LTW	'40. 7.31
V 總動員一般				A war problem for the United States	ST	'40. 8.10
A 英 國				C 獨 逸		
A war diary	LTW	'40. 6.19		Technische Nothilfe im Kriege	DBZ	187 '40. 8.13
A war diary	LTW	'40. 6.26		D 佛 國		
National Joint Advisory Council	MIG	'40. 6.		The economic organization of war-time control	RIC	'40. 5.
A war diary	LTW	'40. 7. 3		The economic organization of war-time control (continued)	RIC	'40. 6.
A war diary	LTW	'40. 7. 7		The French fleet—editorial	LTW	'40. 7.10
Britain's growing manpower	LTW	'40. 7.10		French fleet denied to Germany	LTW	'40. 7.10
A war diary	LTW	'40. 7.10		The seizure of the French fleet	LTW	'40. 7.10
A war diary	LTW	'40. 7.31		F 其他諸國		
Planning for war and peace—editorial	LT	'40. 8. 5		swiss war economy	St	'40. 6. 1
Taxation and manpower—parliamentary article	LT	'40. 8. 5		India's war effort	AR	'40. 7.
The war effort	Eco	'40. 8.10		The economic organization of war-time control	RIC	'40. 7.
Mobilizing resources—editorial	LT	'40. 8.12				

Palestine at war Canada's war effort	Eco St	40. 8.17 40. 8.24	War economy — the Third stage	Bank	40. 9.
VI 經濟一般			B 米 國		
Mobilizing our economic resources for war —II—co-ordination of economics and finance	Adolf Loewe MG	40. 6.22	House passes bill for regulation of investment trusts Resolutions approved by national foreign trade convention at San Francisco	CFC 151.3919	40. 8. 3
A 英 國			U. S. A.—War reserves— policy	DV	14. 45 40. 8. 9
Limitation of the Home Trade in Consumer Goods—the limitation of Supplies (Insecticides, Order 1940)	BTJ	40. 6.6	Quo vadis — America? Holstifstrategische Betrachtungen	Wd	25. 32 40. 8. 9
Emergency Powers (Defense)—Controlled Undertakings and Control of Employment	MIG	40. 6.	Amerika liquidiert seine Auslandsanlagen	DAZ	40. 8.10
Industrial Records, information and inspection	MIG	40. 6.	Final declaration of national foreign trade council adopted at convention held in San Francisco	CFC 151.3920	40. 8.10
Tobacco control	BTI	40. 7. 4	Strengthening of economic ties between United States and Canada looked for by institute of international finance regardless of outcome of war.		
Control of Matches	BTI	40. 7. 4	Durch Rüstung zum „boom“	Wd	25. 34 40. 8.28
Timber control	BTI	40. 7. 4	War factors held bullish to trade	NT	40. 8.28
Full foreign exchange control—bank deposit	MG	40. 7.18	First war victims; our cotton and wheat	USN	40. 8.30
Timber control	BTI	40. 7.25			
Prices and wages, trade and employment	A. L. Bowley LOE	40. 7.			
Economic war—Dr. policy reviewed	LT	40. 8. 8			
Policies and prices	St	40. 8.17			

Senate passed Forty Military Training Bill	CFC 151.3423	40. 8.31	Zusammenfassung aller Staatsbetriebe im (international)vernehmliche	DAZ	40. 8.15	
Wehrwirtschaft in den Vereinigten Staaten?	DVs	9. 22 40. 8.	(Gemeinschaftswerke- und Wähler Funk—Zu seinem 50 Geburtstag Wirtschaftsbezeichnung von Kleinen her German Economics Das Jßess an neuen Start	Dr. M. Pohle SP	49. 13 40. 8.15	
C 獨 逸			Gerechte Schluivorteilung	Dr. Huss	DV	14. 47 40. 8.23
Nennanbau der europäischen Wirtschaft	VB	209 40. 7.27	Die Zweite Kleiderkarte	Fz. Reinhardt DV	14. 46 40. 8.16	
Die Verteilung des Rohertrages der Unternehmungen	Dr. E. Nolting SP	49. 15 40. 8. 1	Die neue Reichskleiderkarte	Dr. A. Strömmer DV	14. 46 40. 8.16	
„Es gibt keine Kriegsgewinne“	FZ	84. 395 40. 8. 5	Die neue Reichskleiderkarte	Se	40. 8.17	
Kundenlisten unter Strafschutz	DAZ	40. 8. 6	Die neue Reichskleiderkarte	DAZ	40. 8.21	
Leistungsgewinn	FZ	84.396/7 40. 8. 6	Belackte Wirtschaft im Proktorat	DV	14. 47 40. 8.23	
Es gibt keine Kriegsgewinne	J. Warner 講演 VB	58. 214 40. 8. 6	Welche wirtschaftsstatischen Erhebungen sind genehmigungsfrei?	FZ	58. 238 40. 8.25	
Volkswirtschaft und Girostramm	VB	221 40. 8. 8		DBZ	41. 108 40. 8.25	
Deutsche Versicherung im Intrapagenschaft	DAZ	40. 8. 9		FZ	84.437/8 40. 8.28	
Verbrauchsförderung	DAZ	40. 8. 9		DV	14. 48 48. 8.30	
Gedanken zu einer Umstellung auf Friedenswirtschaft	W. Huppert DV	14. 45 40. 8. 9		DV	14. 48 48. 8.30	
Das wirtschaftliche Erfolgs-System	DAZ	40. 8.13	D 佛 國			
Organische Kriegswirtschaft	FZ	84.409/10 40. 8.13	British banks in France —parliamentary	MG	40. 7.17	
Kapital und Arbeit in der gelenkten Wirtschaft	SP	49. 16 40. 8.13	Planung ohne Dogmen— Italien und die Ernährung Funks	DAZ	40. 8.16	

Italian economics	St	'40. 8.24	
F 其他諸國			
The economics of the Low Countries	St	'40. 5.18	
Australia at war	St	'40. 6. 1	
Island's war-time Economic problems	St	'40. 6. 1	
Economic consequences of war on India	St	'40. 6. 8	
The war and Eire's economy	Eco	'40. 8. 3	
Das blockierte Dinnantensyndikat in Niederlande und Belgien	DAZ	'40. 8. 3	
Deutscher Einfluss im holländischen Versicherungsgeschäft	DAZ	'40. 8. 4	
Hongkong in two wars	Eco	'40. 8.10	
Norwegen stellt sich wirtschaftlich um	DAZ	'40. 8.11	
Textilbewirtschaftung in Schweden	DAZ	'40. 8.14	
Die belgische Wirtschaft zwischen Krieg und Frieden	Dr.F.Mariaux DV	14. 46 '40. 8.16	
Japans Wirtschaft unter den Einwirkungen des europäischen Krieg	A Balk DVs	9. 28 '40. 8.	
Schweizerische Wirtschaftspolitik, gestern und heute	DVs	9. 22 '40. 8.	
G 世界一覽			
Europe's changing economic structure: Three major long-run problems	ANN	56.1487 '40. 8. 1	
Ein Deutscher begründete die Volkswirtschaftslehre	DAZ	'40. 8. 8	
Geordnete Nationalwirtschaft	Hennemann DAZ	'40. 8.11	
Berlin und Rom garantieren die wirtschaftliche Neuordnung Europas	DAZ	'40. 8.13	
Four new orbits of world power	USN	'40. 8.16	
Europäische Energien	DAZ	'40. 8.18	
VII 財政			
A 英國			
Devidend Limitation Bill abandoned — parliamentary article	MG	'40. 6. 5	
The second budget—editorial	MG	'40. 7.18	
The third war budget—parliamentary article	MG	'40. 7.24	
Interim-comment on budget—editorial	MG	'40. 7.24	
Another £ 289,000,000 from taxation	MG	'40. 7.24	
A first approach to real war finance	MG	'40. 7.24	

Defence (finance) Regulations	BTJ	'40. 7.26	
Canadian budget resolutions	BTJ	'40. 7.25	
Income tax deductions—employers to pay monthly	MG	'40. 7.26	
An interim budget	St	'40. 7.27	
The budget and depreciated sterling	St	'40. 7.27	
'Co-operative societies and war taxation in Great Britain	RIC	'40. 7.	
A message to leaders of business and finance—advertisement by the National Savings Committee, London	LT	'40. 8. 2	
(Goods liable to purchase tax—two different rates	LT	'40. 8. 2	
Finance and war—editorial	LT	'40. 8. 2	
Purchase tax—list of articles affected	LT	'40. 8. 2	
War savings crusade—national need first	LT	'40. 8. 3	
Policies and national finance	St	'40. 8. 3	
Paying for the war—parliamentary article	LT	'40. 8. 5	
Purchase tax on books	LT	'40. 8. 6	
M. T. s	LT	'40. 8. 6	
Purchase tax "danger"—Federation of Br. Industries appeal	LT	'40. 8. 6	
Taxation and loan—uncertain demands	LT	'40. 8. 6	
Purchase tax schedule—amendment to be moved	LT	'40. 8. 8	
Banks' gilt-edged purchases—of Treasury Bond	LT	'40. 8.10	
Taxing excess incomes—determination of pay	LT	'40. 8.12	
Newspapers and books—exemption from tax	LT	'40. 8.14	
The purchase tax—editorial	LT	'40. 8.16	
Englands Steuersystem im Kriege	W.Hofmann Wd	25. 33 '40. 8.16	
War bonds and E. P. T. safeguarding municipal credit	Eco	'40. 8.17	
Eco	Eco	'40. 8.24	
B 米 國			
The tax bill we face	USN	'40. 8. 2	
Hearings on excess profits proposals to be brought under way next week	OFC	151.3919 '40. 8. 3	
Loans to Americans by U. S. proposed	NT	'40. 8. 7	
Excess profits taxation: the British legislation; domestic consideration	ANN	56.1438 '40. 8. 8	

U. S. may use funds of France on date	NT	'40. 8. 9	The poor and the rich to heavily taxed; middle class should pay more	ANN 55.1441	'40. 8. 29
Difficulties in connection with excess-profits tax retained out by United States Chamber of Commerce	CFC 151.3920	'40. 8. 10	Tax confusion, profit limit holds up rearming military men testily	IA 146. 9	'40. 8. 29
Arms delays cited, Defense chiefs testify uncertainty of levies balks production	NT	'40. 8. 10	2.50 % federal drop in income taxes	NT	'40. 8. 31
\$ 384,222,746 asked in capital budget for city next year	NT	'40. 8. 12	Excess Profits Tax Bill passed by House	CFC 151.3923	'40. 8. 31
Profit tax splits industry groups	NT	'40. 8. 14	C 類 題		
Excess-profits tax as framed in bill	NT	'40. 8. 15	Die Finanzkraft des Reiches	VB 58. 286	'40. 8. 23
Loans to Latin America as anti-Nazi weapon	USN	'40. 8. 16	Aufhebung der Mehrreinkommensteuer	FZ 84.480/1	'40. 8. 24
A new tax on business	USN	'40. 8. 16	Gesicherte Kriegsinzahlung	FZ 84.480/1	'40. 8. 24
Senate and House committees conclude joint hearings on excess profits tax bill	CFC 151.3921	'40. 8. 17	Deutsche Steuerkraftunvernindert ansteigend	DEZ 41. 197	'40. 8. 24
Excess profits tax bill as an aid to defense	USN	'40. 8. 23	D 其他諸國		
Agreement made on profit tax bill by House framers	NT	'40. 8. 27	The State budget of the U. S. S. R.	A. Baykov	'40. 7.
Excess profits taxes Tax bill in House	NT	'40. 8. 28	Krieg stellt Schweden vor Finanzprobleme	DAZ	'40. 8. 6
	NT	'40. 8. 29	Der Spanische Finanzminister gibt Rechenschaft	DAZ	'40. 8. 9
	NT	'40. 8. 29	Australia's taxation proposals	Eco	'40. 8. 10
	NT	'40. 8. 29	Finanzierungsfragen in Letland	DAZ	'40. 8. 13

Spaniens Finanzlage	DAZ	'40. 8. 22	Life Assurance and the National Effort	Leo T. Little	Bank	'40. 7.
Australian War Finance	DAZ	'40. 9.	Foreign exchange in July	LTU	'40. 8. 8	
VIII 金融			Wasting Assets and R. P. T.	Eco	'40. 8. 10	
A 英 國			Are Voluntary Savings Sufficient?	Eco	'40. 8. 10	
Stock Exchange—The New Emergency Measure	St	'40. 5. 25	Arbitrary Mobilisation of Dollar Stocks	Eco	'40. 8. 10	
The Money Market—Emergency Powers: The Financial Aspect	St	'40. 5. 25	Slump in Hire Purchase Finance	Eco	'40. 8. 17	
War Finance—The Next Phase: Banking Position	St	'40. 6. 1	The Banking Half-Year Exchange Control at Last?	Bank	'40. 8.	
Foreign Exchange in May—Movement of the Principal Currents	BTJ	'40. 6. 6	War-time Control of Interest Rates	Bank	'40. 8.	
Trade and Foreign Exchange	St	'40. 6. 8	Foreign exchanges in August	BTJ	'40. 9. 5	
Exchange Control—New Measure	BTJ	'40. 6. 13	Some Legal Problems of Wartime Banking	Bank	'40. 9.	
War Risk Insurance Act, 1939	BTJ	'40. 7. 11	Monetary Missions and the War Effort	Bank	'40. 9.	
Foreign securities shipped to Canada	MG	'40. 7. 19	Exchange Regulations up to Date—The Defence (Finance) Regulations	Bank	'40. 9.	
The New Exchange Regulation	St	'40. 7. 20	B 米 國			
Foreign Banking and the War	Paul Einzig	'40. 7.	Vereichnungen in der Grossordnung der Amerikanischen Bank	DAZ	'40. 8. 10	
The Bottleneck in Import Finance	W. W. Syrett	'40. 7.	C 類 題			
Finance & Banking in the Second Quarter of 1940	F. W. Paish	'40. 7.	Analisestock-Verkauf und Dividentenpolitik	DV 14. 48	'40. 8. 30	

Die Einheitsbewertung nicht roborierter Wertpapiere
Die Verrechnungs-Zentrale
Industrie-Emissionen
Zwei Vizepräsidenten der Reichsbank
Wie weit sinkt der Zins? Reichskreditkassenschlechte als Trippengeld
24 Milliarden Sparanlegen Ende Juni 1940
Auf dem Wege zum neuen Zinssivven
Verstärkter Kapitalumsatz der Industrie
Zinssenkung gegen Zinsstabilität
Preisangleichung im neuen Währungsraum
Goldstandard und Reichswährung
Inflation as a Means of Nazi Exploitation

FZ 84387/8 '40. 8. 1
DAZ '40. 8. 4
VB 58. 219 '40. 8. 6
DAZ '40. 8. 10
FZ 84.406/7 '40. 8. 11
DV 14. 46 '40. 8. 16
DV 14. 46 '40. 8. 16
DAZ '40. 8. 16
FZ 84.434/5 '40. 8. 21
Dr.E. Nolting DV 14. 47 '40. 8. 23
Dr.A. Hachen DV 14. 48 '40. 8. 30
Dr.Ch. Lorenz DVs 9. 24 '40. 8.
Paul Einzig Bank '40. 9.

F 其他諸國
Auch Schweden empfindet Clearingzentrale
Das holländische Kredit- und Währungssystem nach der Besetzung
IX 物 價
A 英 國
Prices of Goods Orders
Cost of living—up by 60/10
The cost of living—in diagram
Wholesale price in July
The limitation of price control
Donald Tyerman
B 米 國
Position of wheat studies by market
C 挪 逸
Unternehmer-Initiative soll nicht gehemmt werden
Die Aktivierung der Gemeinkosten
Speitenerversicherung und Preisstop
Neue Preisregelung für Strohh
Neufestsetzung der Weizenmehlpreise

DAZ '40. 8. 2
DBZ 41. 197 '40. 8. 24
MLG '40. 6.
MG '40. 7. 17
MG '40. 7. 26
BTJ '40. 8. 15
Bank '40. 8.
NT '40. 8. 12
DAZ '40. 8. 4
DAZ '40. 8. 9
DAZ '40. 8. 10
DAZ '40. 8. 10
DAZ '40. 8. 15

D 佛 國
Die ostentropischen Kapitalanlagen des Schmeider-Konzerns
Die Zukunft der Bank von Frankreich

WD 25. 32 '40. 8. 9
DAZ '40. 8. 16

Welche Kosten hat das Gaststättengewerbe?
Das Preisstättungswortbot in der Kriegswirtschaft
F 其他諸國
Stabiler Preisstandard in Norwegen
X 產業一般
A 英 國
Registration of Luxury Goods Manufacturers, Etc., and Piece-Goods Exporters
Britain dovetails output with ours
Control of War Industries
B 米 國
American industry and the war
Production aspects of the national defence program
Industry's problem with conscription
U.S. opens inquiry "Botleneck" is seen in 10 production field vital to defense
Shifting our factories to production for war

DAZ '40. 8. 21
DR 10. 35 '40. 8. 31
DAZ '40. 8. 18
BTJ '40. 6. 27
NT '40. 8. 8
Eco. '40. 8. 17
St '40. 7. 6
Auto 88. 3 '40. 8. 1
USN '40. 8. 9
NT '40. 8. 9
USN '40. 8. 9

Index plan revised by Reserve Board
Food company earnings held back by rising costs and lost foreign markets
To a manufacturer seeking a safe spot for a war materials plants
C 獨 逸
Geordnete Lederwirtschaft im Generalgouvernement
XI 農林、畜産及水産業
A 英 國
Progress in Empire cotton growing
Timber Control Board
Agricultural workers and military service
Farming camps for boys—an encouraging experiment
Keen demand for sheep—loss of grazing
The substantial increase in Australian wool productions
C 挪 逸
Schnelle Vernehrung des Nutzviehbestandes im Generalgouvernement

NT '40. 8. 12
ANN 56.1439 '40. 8. 15
ANN 56.1440 '40. 8. 22
DAZ '40. 8. 21
TM '40. 5. 31
St '40. 6. 22
MG '40. 7. 24
RT '40. 8. 19
LT '40. 8. 19
TM '40. 8. 23
DAZ '40. 8. 1

Wästen sollen fruchtbar werden	DAZ	40. 8. 3	Auch in Frankreich Ernteschlacht	DAZ	40. 8. 22
Deutschlands hindliche Bodenutzung	DAZ	40. 8. 6	G 世界一般		
Neue Mittel zur landwirtschaftlichen Entschädigung	DAZ	40. 8. 6	Was erntet Europa im Herbst?	DAZ	40. 8. 8
Vorbereitung im Generalgouvernement	DAZ	40. 8. 8	XII 續 業		
Generalgouvernement Krakau; Anbau im Agrarsektor	Wd Z.	32 40. 8. 9	A 英 國		
Bedarfsdeckungsscheine für Ackererschlepper	DAZ	40. 8. 11	Base metals for the War (inuding the collieries—Minner's concern	St	40. 6. 8
Messe im Generalgouvernement	DAZ	40. 8. 15	The Diamond Industry	MG	40. 7. 18
Die Zukunft des deutschen Bauern im Osten Deutschlands Agrarpolitik ermöglicht Zusammenarbeit der Bauernländer	YB	231 40. 8. 18	B 米 國	Eco	40. 8. 10
Mittlere Getreideernte im Generalgouvernement	DAZ	40. 8. 18	American gold phenomena	Eco	40. 8. 3
Nutzweineinfuhr aus Holland und Dänemark	DAZ	40. 8. 18	Oil well	ANI	40. 8. 7
Der Beginn einer neuen Äraepoche	DAZ	40. 8. 21	Protecting our tin supplies; Bolivian resources and American snellens	ANN	56.1438 40. 8. 8
D 佛 國			Policy of surcease mine a conservative one	ENI	141. 8 40. 8.
Frankreichs Volkskraft und Agrarpolitik	WdZ	41. 189 40. 8. 15	Operating the small mine	ENI	141. 8 40. 8.
			C 錫 鐵		
			Germany's aluminium supplies	ICR	141.377 40.7.19
			F 其他 諸 國		
			Steel plant loan sought by Brazil	NT	40. 8. 7

XIII 工 業

A 英 國					
Electricity and food	Elect	40. 5. 10	Incorporated Municipal Elect. Assn. Councils report	Elect	40. 6. 7
Emergency sub-station trial equipment	Elect	40. 5. 10	An extending control of raw material supplies—top's quality	TM	40. 6. 14
National physical laboratory—work in 1889	Elect	40. 5. 10	Restriction on the home trade	TM	40. 6. 14
The war and trade—editorial	TM	40. 5. 17	Wool goods for Allies—editorial	TM	40. 6. 14
Plastic materials—new moulding, etc.	Elect	40. 5. 17	Can the industry do more?	Elect	40. 6. 14
New dress materials	TM	40. 5. 24	Professional status for lighting engineers	Elect	40. 6. 14
Canadian water-power	Elect	40. 5. 24	Restricted use of copper	Elect	40. 6. 14
Labour saving and agriculture	Elect	40. 5. 24	The cotton trade's war effort	TM	40. 6. 21
The national register analysis of reported faults	Elect	40. 5. 31	New wool trade problem—editorial	TM	40. 6. 21
Electricity in the Magist not line	Elect	40. 5. 31	The great war effort—editorial	TM	40. 6. 21
Speeding up the output of wool goods for the Government	TM	40. 5. 31	Plastic materials—the war effort calls for increased production	Elect	40. 6. 21
The raw cotton positions—editorial	TM	40. 5. 31	Plastics instead of copper—editorial	Elect	40. 6. 21
Cotton industry and the war—editorial	TM	40. 6. 7	Electricity and mining	Elect	40. 6. 21
Machinery activity somewhere near the peak of the war period	TM	40. 6. 7	Inc. Man. Elect. Assn. annual meeting—editorial and report	Elect	40. 6. 28
Air condition of factories—editorial	Elect	40. 6. 7	Cotton control and exports—editorial	TM	40. 6. 28



"New spirit" in industry—Supply Ministry's work	MG	'40. 6.28	Egypt's cotton problem—trade notes	MG	'40. 7.17
Light must help to "let to lie"—dilation of labour and accident prevention	Elect	'40. 7. 5	Waste material—traders and derelict collections	MG	'40. 7.18
The civilian wool ration—editorial	TM	'40. 7. 5	Hours and output—editorial	MG	'40. 7.18
Out out the red tape—editorial	Elect	'40. 7. 5	Cotton and rayon goods—cancelling of contracts	MG	'40. 7.18
Electricity and the country side—artificial rain installation	Elect	'40. 7.10	New cars cannot be bought—reserved for exports	MG	'40. 7.19
A slowing down in the civilian demand for wool goods	TM	'40. 7.12	Artificial lighting in industry—eyestrain and fatigue	Elect	'40. 7.19
The electrical contracting—editorial	Elect	'40. 7.12	Cotton operatives determined—editorial	TM	'40. 7.19
Australia's wool cheque—editorial	TM	'40. 7.12	Officialdom must "go to it"—editorial	Elect	'40. 7.19
Export markets (for Br. electrical apparatus) IX—Omit	Elect	'40. 7.12	Anti-shatter fabric and glass substitutes	TM	'40. 7.19
Reerifying plant in wartime—whether glass or steel	Elect	'40. 7.12	Textiles in the war	MG	'40. 7.19
Plastic mouldings—existing press and machines	Elect	'40. 7.12	Fewer fins—luxury packing to go	NG	'40. 7.23
Back to holidays and normal working week	MG	'40. 7.17	Collection of salvage—position in North-west	MG	'40. 7.23
1.5 tons—Manchester's gifts of aluminium	MG	'40. 7.17	British dyestuffs—boycotting independent of foreign sources	MG	'40. 7.24
			Timber control	BTT	'40. 7.25
			Cotton piece-goods for Eire	BTV	'40. 7.25

Civilian demand for wool goods—editorial	TM	'40. 7.26	Officialdom takes a hint—editorial	Elect	'40. 8. 9
Colour and size standardization—in the lingerie industry	TM	'40. 7.26	Civilian wool allocations—editorial	TM	'40. 8. 9
The raw cotton position—editorial	TM	'40. 7.26	Make known our achievements—editorial	TM	'40. 8. 9
Is there no hold-up of scrap supplies?—the U.S. oil embargo	MG	'40. 7.26	Future of British shipping	St	'40. 8.10
Broadcasting as an aid to production	Elect	'40. 7.28	First industrial registration—survey for comb-out	LT	'40. 8.10
Export markets (for electrical apparatus) X—Uruguay	Elect	'40. 7.26	Control of aluminium—conditions for granting licenses	LT	'40. 8.10
Paper, bones and scrap metal—salvage collections	Minister of Supply	'40. 7.27	Registration of engineers—no immediate transfer suggested	LT	'40. 8.12
Standstill order for cotton labour—cardroom workers' protest	MG	'40. 7.29	A register of skill—editorial	LT	'40. 8.12
Home supplies of machinery and plant	BTV	'40. 8. 1	War materials from bones—how housewife can help	LT	'40. 8.13
Unmanufactured tobacco	BTV	'40. 8. 1	British standard specifications	BTV	'40. 8.15
Wise move in cotton—editorial	TM	'40. 8. 2	Export markets (for Br. electrical apparatus) XI—Malaya	Elect	'40. 8.16
£16,000 a year from garage	LT	'40. 8. 3	War and the business man—editorial	Elect	'40. 8.16
Timber control	BTV	'40. 8. 8	Registration of engineers—doubtful points made clear	LT	'40. 8.16
Matches control	BTV	'40. 8. 8	Spare machine tools—appeal for voluntary offer	LT	'40. 8.16
New British standards	BTV	'40. 8. 8			

"Scrap for victory"—where the old iron goes	LT	'40. 8.16	Americas Stahlindustrie als Grossvertrieber	DAZ	'40. 8. 1
Industrial man-power—Registration order	LT	'40. 8.17	United States scrap industry	ICR 1413779	'40. 8. 2
Curialment of activity creates a difficult problem	TM	'40. 8.18	Willkie suggests industrial plants be decentralized	NT	'40. 8. 6
Preserving the countryside—Council for the Preservation of Rural England	LT	'40. 8.20	Bookings of Steel hold to high level	NT	'40. 8.12
Control of plastics	BTU	'40. 8.22	Schiffsanboom in USA	DAZ	'40. 8.15
Timber control	BTU	'40. 8.22	Mass production methods needed in aircraft plants for 50,000 plane goal	Ann 56.1439	'40. 8.15
Paper control	BTU	'40. 8.22	More trained men	Auto 88.	4'40. 8.15
Br. standard specifications	BTU	'40. 8.22	U. S. buy more rubber—another purchase agreement	LT	'40. 8.20
Programme of export rayon group	TM	'40. 8.23	Alaska: a land of opportunity	USN	'40. 8.30
Electrical manufacturing in Australia	Elect	'40. 8.23	Mobilizing sub-contracting facilities	AV 39.	8'40. 8.
Women's war work—a new organization	Elect	'40. 8.23	Oberschlesien—das Industrieviertel der Zukunft	VB	53. 184'40. 7. 2
Timber control and transport subsidy	BTU	'40. 9. 5	Power storage in the Ruhr	Elect	'40. 7.26
B 米 國	MG	'40. 6.28	Werstoffe und Chemie	DAZ	'40. 8. 1
Ford's refusal—American government's position	MG	'40. 7.22	Die Sinne der Reichsindustrieminister	DV 14.	44'40. 8. 2
U. S. plans to make rubber from oil	Auto 88.	'40. 8. 1	Finanzierung der Kautschuk-Industrie	DAZ	'40. 8. 3
Japan hit by Italy's entry into war and U. S. rearmament					

Planung in der Zellwollindustrie	VB	217'40. 8. 4	Rumana iron firm falls to Germans	NT	'40. 8. 1
Die Autoindustrie kehren und morgen	DAZ	'40. 8. 7	Anstalt industrial production	St	'40. 8.17
Neufestsetzung der Britenvereinbarung	DAZ	'40. 8.14	G 世界一般		
Industrie-Grossraum Oberschlesien	DAZ	'40. 8.14	Round the world's textile industry	TM	'40. 8. 9
Industrie-Grossraum Oberschlesien II	DAZ	'40. 8.15	Exports and imports of textiles	TM	'40. 5.24
Industrie-Grossraum Oberschlesien III	DAZ	'40. 8.18	Wool exports drive success	TM	'40. 5.24
Wiederbelebung der Antwerper Diamantindustrie mit deutschen Initiative	DAZ	'40. 8.20	XIV 動力及燃料		
Die Bedürfnisfrage im Handwerk	DAZ	'40. 8.20	A 英 國		
Industrie-Grossraum Oberschlesien IV	DAZ	'40. 8.22	Events and comments	PT	'40. 5.18
Die Rohstoffrechnung in der Textilindustrie	DV 14.	48'40. 8.30	British Petroleum Board registered as public company	PT	'40. 5.18
D 佛 國			Some factors affecting tank steamer transportation	PT	'40 5.18
Neue Aufgabe für Frankreichs Autoindustrie	DAZ	'40. 8.10	Rationing and conservation of British oil supplies	PT	'40. 5.25
E 伊 太 利			Event and comment	PT	'40. 5.25
Italy as a factor—editorial	TM	'40. 6.14	Rationing and conservation of British oil supplies	PT	'40. 6. 1
Ausbau der Italienischen Eisen und Stahlindustrie	DVs	9. 22'40. 8.	The search for oil in Australia	PT	'40. 6. 1
F 其他諸國			Export trade drive by Imperial Chemical Industries	PT	'40. 6. 1



Smashing the way to victory through German oil supplies	PT	'40. 8.24	News in the (petroleum) industry	PT	'40. 5.25
D 佛 國			Oil and the war	PT	'40. 6. 1
The discovery of oil in France	PT	'40. 5.25	News in the (petroleum) industry	PT	'40. 6. 1
E 伊 大 利			Event and comment	PT	'40. 6.15
Italian petroleum developments	PT	'40. 5.18	Oil and the war	PT	'40. 6.15
Italy at war will increase petroleum needs of the Axis and reduce available supply	PT	'40. 6.22	Event and comment (re petroleum)	PT	'40. 6.22
F 其他諸國			News in the oil industry	PT	'40. 6.22
Norwegen will Elektrifiktatswirtschaft ausbauen	DAZ	'40. 8. 2	Minimizing oil-tanker corrosion	PT	'40. 6.22
G 世界一般			War and Central European oil resources	St	'40. 6.29
Oil and the war	PT	'40. 5.18	Event and comment re oil	PT	'40. 7.13
World oil output for March—higher level than 1939 maintained	PT	'40. 5.18	Oil and the war	PT	'40. 7.13
International research on viscosity	PT	'40. 5.18	News in the oil industry	PT	'40. 7.13
Present position and future of the steam-driven tanker	PT	'40. 5.25	Event and comment re oil industry	Eco	'40. 8. 8
Crude oil production conversion factors	U. S. Bureau of Mines	'40. 5.25	Petroleum as a war weapon	PT	'40. 8.10
World oil production, 1939	U. S. Bureau of Mines	'40. 5.25	News in the (oil) industry	PT	'40. 8.10
			The blockade and the world's oil trade	Eco	'40. 8.17

XV 商業及外國貿易

A 英 國			Exports of cotton and rayon	TMI	'40. 7. 5
Export markets (for Br. electrical apparatus) V—the Balkan countries	Elect	'40. 5.10	(Control of communications—New Order)	BTJ	'40. 7.11
Export markets (for Br. electrical apparatus) VI—Peru and Mexico	Elect	'40. 5.24	Cotton's new export policy—editorial	TMI	'40. 7.12
(Course of export trade—editorial)	TMI	'40. 5.24	The Cotton Board's export plan	TMI	'40. 7.12
Television and the export market	Elect	'40. 5.31	Initiation of home trade in Textiles	BTJ	'40. 7.18
Export markets (for Br. electrical apparatus) VII—Turkey	Elect	'40. 6. 7	Effect of war developments on export trade in wool goods	TMI	'40. 7.19
Export market (for Br. electrical apparatus) VIII—Australia	Elect	'40. 6.21	Reduced wool markets—editorial	TMI	'40. 7.19
Export group	BTJ	'40. 6.20	Exports to American markets well maintained—textiles, etc.	MJ	'40. 7.28
Import Control—New orders	BTJ	'40. 6.27	Our oversea trade	BTJ	'40. 7.25
The inflow of wool—editorial	TMI	'40. 8.28	Trade of Tanganyika	BTJ	'40. 7.25
Exports and imports of textiles	TMI	'40. 6.28	Export for victory—editorial	LW	'40. 7.31
Check to the advance in export trade in wool goods	TMI	'40. 6.28	Southern Rhodesian tariff changes	BTJ	'40. 8. 1
Export Control	BTJ	'40. 7. 4	Wholesale trading in textiles	BTJ	'40. 8. 1
The T. K. export problem—editorial	TMI	'40. 7. 5	Cotton exports	BTJ	'40. 8. 1
Will the present rate of wool consumptions maintained?	TMI	'40. 7. 5	Export groups	BTJ	'40. 8. 1
			Imprese import restrictions	BTJ	'40. 8. 1
			Export of National defence material from the U. S.	BTJ	'40. 8. 1



England in Aluminium- not?)	DAZ	'40. 8. 1	Trading with the enemy	BTJ	'40. 8. 15
Englisches Aussehen- Landesschwamm	DV	14. 44 '40. 8. 2	Hides and skins	BTJ	'40. 8. 15
England auf der Suche nach Lebensmittel- Tonnage	DAZ	'40. 8. 3	Export groups	BTJ	'40. 8. 15
Can we export?	Eco	'40. 8. 3	Canadian export trade	BTJ	'40. 8. 15
Australian export pro- blems markets and shipping	LT	'40. 8. 8	Goal for Netherlands East Indies	BTJ	'40. 8. 15
New Zealand customs revisions	BTJ	'40. 8. 8	Bermudan tariff changes	BTJ	'40. 8. 15
Wharf trade in June	BTJ	'40. 8. 8	Contraband seized dur- ing July, 1940	LT	'40. 8. 15
Import licensing	BTJ	'40. 8. 8	Wool levy for exports— editorial	TMI	'40. 8. 16
Export control	BTJ	'40. 8. 8	Purchase tax and exports	TMI	'40. 8. 16
Australian tariff by- laws	BTJ	'40. 8. 8	Shipping and ports	Eco	'40. 8. 17
Smaller rail trade	LT	'40. 8. 8	"Total" German bloc- cade—neutrals warn- ed off Britain	LT	'40. 8. 19
A trade lost to London— New York the far market	LT	'40. 8. 9	Tall tales for export— German lies re air battles	LT	'40. 8. 19
The vital importance of export trade develop- ment	Tm	'40. 8. 9	Der Ring um England	DAZ	'40. 8. 20
Der Anfall des Europa- Exports für England Verhängnisvoll	DAZ	'40. 8. 10	Overseas trade in July	BTJ	'40. 8. 22
Markets and middlemen	Eco	'40. 8. 10	Cambian import restric- tions	BTJ	'40. 8. 22
Retail Trade	Eco	'40. 8. 10	Stillstand in England— Transport	DAZ	'40. 8. 22
Punk on "Broken bloc- cade"—German food supplies "Absurd"	LT	'40. 8. 12	Canada and war risk insurance	BTJ	'40. 8. 22
			Australian import licen- sing regulations	BTJ	'40. 8. 22
			Oversea trade of Ceylon	BTJ	'40. 8. 22

Gold Coast General im- port licenses	BTJ	'40. 8. 22	The Foreign Trade of U. S. A.	Eco	'40. 8. 17
Export control	BTJ	'40. 8. 22	Steigender U.S.A. Ex- port zu Lasten Süda- merikas	DHZ	189 '40. 8. 18
More effort for overseas —editorial	TMI	'40. 8. 23	10 months of war lift ex- ports 35%	NT	'40. 8. 23
Facts about wool exports —editorial	TMI	'40. 8. 23	Europa—U.S.A. Ein Bei- trag zur Analyse des Aussehens	Dr. J. Schneider	DVs 9. 24 '40. 8.
Food containers and cooling utensils for Argentina	BTJ	'40. 9. 5	C 欄 邊		
Export (groups)	BTJ	'40. 9. 5	Deutschlands Bereit- schaft zum Weltan- del	FZ	84. 408 '40. 7. 12
Australian tariff deci- sions	BTJ	'40. 9. 5	Blockade Can Still Defeat Germany	Walker Hill	Bank '40. 7.
Export of flax goods	BTJ	'40. 9. 5	Wool exports—enemy tactics—editorial	TMI	'40. 8. 2
B 米 國			Die Durchführung der deutscher — russischen Wirtschaftsabkommen von 1939 und 1940	DAZ	'40. 8. 2
Export of national de- fence material from the U. S.	BTJ	'40. 7. 25	Der Handel in und nach dem Kriege	W. Anst	DV 14. 44 '40. 8. 2
Mr. Roosevelt's ban on petrol export—Japan and source of supply	LT	'40. 8. 1	Hohe Einzelhandelsun- sätze der ersten Kriegsmonaten	DV	14. 44 '40. 8. 2
Roosevelt embargoes aviation gas	NT	'40. 8. 1	Die nordischen Staaten und Deutschland	DEZ	41. 180 '40. 8. 4
USA gegen das englische Zinnmonopol	DAZ	'40. 8. 1	Deutschland und Finn- land im Ostseeraum	DAZ	'40. 8. 9
U. S. Cotton export sub- sidies	BTJ	'40. 9. 5	Südosthandel im Umhan- del	W. A. Fischer	DV 14. 45 '40. 8. 9
Chemical export show gain of 55%	NT	'40. 8. 5			
Russians renew U. S. trade accord	NT	'40. 8. 7			
Die USA kein Pana- merika—Markt	FZ	84.409/10 '40. 8. 13			
America and the bloc- cade	LTW	'40. 8. 14			

Gemeinschaftshandel und Grenzhandel	DAZ	'40. 8.10	Recent trade in Italy	BTTJ	'40. 9. 5
Feindliche Unternehmen im Geschäftverkehr	DAZ	'40. 8.11	F 其他諸國		
Osinnoco mit neuen Aufgaben	DAZ	'40. 8.11	Soviet Union agreement with Yugoslavia	BTTJ	'40. 7.25
Osternesse — Leistungssehlan friedlicher Aufbauarbeit	DAZ	'40. 8.13	Übertragende Stellung Finros im argentinischen Aussehenhandel	DAZ	'40. 8. 1
Deutsche Holzkaufe in Schweden	DAZ	'40. 8.14	Spätpolitik im spanischen Aussehenhandel	DAZ	'40. 8. 4
Osinnoco unter neuen Voraussetzungen	DAZ	'40. 8.15	Aussehenhandlungsorgane der Türkei	DAZ	'40. 8. 4
Größeres Geschäft mit der Schweiz	DAZ	'40. 8.15	Norwegen orientiert sich nach Süden	DAZ	'40. 8.10
Der technische Fortschritt im Kriege und das künftige Maschinenaufbaugeschäft	F. Oik	25. 34'40. 8.25	Brasilien zur Baumwollen Konkurrenz	DAZ	'40. 8.13
Aussehenhandel und Leipziger Messe	Dr. R. Stophan	25. 34'40. 8.28	Schwedische Erfahrungen in U.S.A.	DAZ	'40. 8.13
Von 21 zu 38 Milliarden R. M. Einzelhandelsumsatz	DVs	9. 23'40. 8.	Hollands neue Handelspolitik	DBZ	41. 198'40. 8.22
British good in German ships	BTTJ	'40. 9. 5	South America Takes the Strain	Eco	'40. 8.24
D 佛 國			An Austrian Critic look at Britische Export Policy	Bank	'40. 9.
France and the blockade — appeal to Britain	LT	'40. 8.16	G 世界一般		
Develop Trade with the French Empire!	Bank	'40. 9.	Turkish export prohibition	BTTJ	'40. 8. 1
E 伊 太 利			Peruvian foreign trade	BTTJ	'40. 8. 8
			Distribution of Chilean trade	BTTJ	'40. 8.15
			Einrohhandel vor neuen Zielen	Dr. F. H. Hahle	25. 34'40. 8.28

XVI 交通及通信

Shipping losses—by German attack	MG	'40. 7.17	British Broadcasting corporation's advertisement in page 1, for inviting applications to temporary telephonists (female)	LT	'40. 8.12
Drop in merchant shipping losses	MG	'40. 7.24	Railway fares and charges—Mintser's intimation	LTJ	'40. 8.14
Imports shipping programme	BTTJ	'40. 7.25	Sea facts and fiction—Br. naval strength	LT	'40. 8.17
Railway war finance—interim dividends	MG	'40. 7.27	B 米 國		
British postal traffic	BTTJ	'40. 8. 1	Amerikanisches Passagierflugzeugwesen	DAZ	'40. 8.18
Oversea transport of troops—not a ship nor a life lost	LT	'40. 8. 1	C 獨 逸		
Clocks transport in war	St	'40. 8. 3	Der Fremdenverkehr nach dem Kriege	DAZ	'40. 8. 1
Lack of road and rail cooperation — voluntary proposals turned down	LT	'40. 8. 6	Gute Entwicklung des Fremdenverkehrs	DAZ	'40. 8. 9
Allies shipping strength—a large additions	Ministry of Shipping	'40. 8. 8	U-boat's false claims—no warning	LT	'40. 8. 9
The port of Bristol authority's advertisement in page 1—for chief Assistant Engineer	LT	'40. 8. 9	Germany maintain losing airline inside Panama Canal defense zone	NT	'40. 8.10
Claims and facts—editorial—loss of British tonnage	LT	'40. 8.10	Die Leistung der Reichsbahn im Kriege	VB	240'40. 8.27
Railways war effort—punctual running	LT	'40. 8.10	D 佛 國		
The railway pool—cost and charge	LT	'40. 8.16	Frankreichs Seeverkehr	WS	20. 15'40. 8.
			F 其他諸國		



Neuerdning des dänischen Verkehrswezens	DAZ	'40. 8. 4	Suspension of holidays	MLG	'40. 8.
Schwedischer Schiff-fahrts-Optimismus	DAZ	'40. 8.20	Industrial safety, health and welfare	MLG	'40. 6.
G 世界一般			Schedule of Reserved Occupation	MLG	'40. 6.
Kriegsschäden der neutralen Fahrt	DAZ	'40. 8.17	Regulation of labour supply	MLG	'40. 6.
XVII 社會及勞務			"Munich men" in the government — labour party's war policy	MG	'40. 7.17
A 英國			Protecting the health of the workers—excessive hours	MG	'40. 7.18
Family Allowances	Se	'40. 5.25	Physical training of youth — completion argued	MG	'40. 7.18
Strikes and dock-out in 1939: Statistical Review	MRG	'40. 5.	Stopping strikes and lockouts—national Arbitration Tribunal	MG	'40. 7.20
Agricultural Wages (Regulation) Amendment act, 1940	MRG	'40. 5.	The labour charter—editorial	MG	'40. 7.20
Canteen in factories	TM	'40. 6.28	Expenditure on public social services	MLG	'40. 7.
The Labour Position in May	Se	'40. 6.29	Emergency Powers (Diefence), General Regulations	MLG	'40. 7.
Unemployment Fund Accounts, 1938-39	MLG	'40. 6.	New Joint Industrial Councils	MLG	'40. 7.
Unemployment Insurance Restriction on engagement	MLG	'40. 6.	Agricultural wages in England and Wales	MLG	'40. 7.
Employment of women in the engineering industry	MLG	'40. 6.	Supernumation Schemes (War Service) Act, 1940	MLG	'40. 7.
The Government training scheme	MLG	'40. 6.			
National Service (Armed Forces) Act	MLG	'40. 6.			

Restriction on Engagement Order	MLG	'40. 7.	New inemployment rates—and contribution by agricultural scheme	LT	'40. 8. 9
Opportunities for employment on war service	MLG	'40. 7.	Sozialprogramm als Rettungsanker?	DAZ	'40. 8.10
The Central and Supplementary Registers of Professional Personnel	MLG	'40. 7.	Women on land—war-time adjustment	LT	'40. 8.19
Dock labour: Emergency arrangements	MLG	'40. 7.	Conditions of Employment and National Arbitration Order	MLG	'40. 8.
Old Age and Widow's Pensions Act, 1940	MLG	'40. 7.	Training For war-Time work	MLG	'40. 8.
Unemployment Insurance Bill	MLG	'40. 7.	Compulsory Registration Orders	MLG	'40. 8.
Unemployment Insurance (Amendment) (No. 2) Regulations, 1940	MLG	'40. 7.	Lighting in Factories	MLG	'40. 8.
International labour force—friendly foreigners	LT	'40. 8. 2	Truck Act, 1940	MLG	'40. 8.
Disappearing labour reserves	Eco	'40. 8. 3	Changes in the scope of the unemployment statistics	MLG	'40. 8.
Work in wartime	Eco	'40. 8. 3	Legal cases affecting labour	MLG	'40. 8.
The New Workmen's Compensation Bill	Eco	'40. 8. 3	Emergency Powers (Defence) Condition of Employment and National arbitration	MLG	'40. 8.
Verscharfter Facharbeiter meeting in Grossbritannien	Eco	'40. 8. 3	Industrial Registration order, 1940	MLG	'40. 8.
First trade dispute for arbitration	LT	'40. 8. 8	Registration of Specified Classes of Persons		
Englands unzureichende Arbeitsdecke	DV	'40. 8. 9	B * 英國		
			Needy young Britons to be brought to U.S. on behalf of relatives here	NT	'40. 8.12

Feeding Europe—next big problem for U.S. Physical examinations for employes	USN 1A 146.	40. 8.23 0.40. 8.29	
C 獨 逸			
Der sozialpolitische Aufgabenzirkel des Betriebsführers im Kriege Arbeit am deutschen Tabakbau	A. Weigis DAB.	8. 7/8 40. 7. 8 40. 8. 1	
9000 dänische Arbeiter in Deutschland Fahrpreiserhöhung für Erntehelfer	DAZ DAZ	40. 8. 1 40. 8. 1	
Der Wohnungsbau Eine Arbeitsreserve	VB FZ 84.389/90	58. 21 40. 8. 1 40. 8. 2	
Der wirtschaftliche Einsatz der Kriegesbeschäftigten	Dr. P. Osthold DV	14. 44 40. 8. 2	
Forderungen gegen die öffentliche Hand in den Ostgebieten Holländische Arbeitskrisse in Deutschland Die Private Krankenversicherung im Krieg	DAZ DBZ DAZ	40. 8. 3 41. 179 40. 8. 3 40. 8. 4	
Der Vorratsch der deutschen Lehrwerkstatt Welche weltausgangshohen Bücher liest der deutsche Arbeiter?	YB YB	217 40. 8. 4 217 40. 8. 4	
Krieg als höchste Bedingung des Arbeitsdienstes Unproduktive Arbeit vermeiden	Dr. H. Hottenstein VB	SS. 219 40. 8. 6 40. 8. 6	
Soziale Betriebsarbeit Arbeitslenkung nach dem Kriege Die neuen Volkswohnungen Beihilfen für einberufene Hausbesitzer	H. Bangert DAB DAZ DAZ	41. 181 40. 8. 6 40. 8. 7 40. 8. 8 40. 8. 8	
Kündigungstragen in der Kriegswirtschaft Der Arbeitseinsatz der Kriegesangehörigen	DBZ DBZ	41. 183. 40. 8. 8 41. 185 40. 8. 10	
Berufsforschung und Nachwuchsenlenkung Forderung des Wohnungsbaues—Eine Neugründung der DAF Der Sozialbericht als Spiegel des Krieges	DBZ DAZ SP FZ	183 40. 8. 10 40. 8. 13 49. 16 40. 8. 15 84.413/4 40. 8. 15	
Belgische Arbeiter in Deutschland Die sozialpolitische Bedeutung der Marktordnung Baden blickt aufs Eisass Techniker und Lehrer—Zwei wichtige Berufe	Dr. H. Merkel SP DAZ YB	49. 16 40. 8. 15 40. 8. 15 228 40. 8. 15	

Arbeitseinsatz heute und im Frieden Künftige Lenkung des Arbeitseinsatzes Der Aufbau der Parteiarbeit im Generalgouvernementen Deutsch-italienischer Sozialversicherungsvertrag Geschichte und Gegenwart in Lublin Zur Kündigungsgenehmigung durch das Arbeitsamt Dänische Arbeitsprobleme Berufserziehungsarbeit der DAF, 1938/40 Voller Erfolg des Arbeitseinsatzes Erfolge des Arbeitseinsatzes Jedes deutsche Mädchen Arbeitsmädchen werden Freizeit für berufstätige Frauen (Neue Richtlinien des Reichsarbeitsministers) Keine Dienstverpflichtung entlassener Kriegsteilnehmer	YB DBZ DAZ DAZ DAZ DAZ DAZ DAZ DBZ DBZ DBZ FZ YB FZ	229 40. 8. 16 190 40. 8. 16 40. 8. 17 40. 8. 17 40. 8. 17 40. 8. 17 40. 8. 17 40. 8. 17 40. 8. 22 41. 195 40. 8. 22 41. 195 40. 8. 22 41. 195 40. 8. 22 84.428/9 40. 8. 23 237 40. 8. 24 84.430/1 40. 8. 24 84.437/8 40. 8. 28	
Probleme der gewerblichen Berufserziehung im Kriege D 佛 國 War problem of French consumers' co-operation F 其他諸國 Industrial co-operation in China Essentials of co-operative price policy in the Netherlands Dänische Arbeiterschaft sucht neue Wege G 世界一般 Das Ende der internationalen Arbeitsorganisation XVIII 科 學 A 英 國 Sprüchworter und Harpunen gegen Tanks Timber control G 世界一般 Die Bewährung des Ingenerneus XIX 教化一般 A 英 國	H. Freudenberg DVs RIC RIC RIC DAZ DBZ DAZ DAZ DAZ DAZ DAZ DAZ DAZ DAZ DAZ DAZ DAZ	9. 24 40. 8. 40. 6. 40. 5. 40. 6. 40. 8. 6 41. 185 40. 8. 10 40. 8. 4 40. 8. 15 40. 8. 8 40. 8. 8 40. 8. 8 40. 8. 8 40. 8. 8 40. 8. 8 40. 8. 8 40. 8. 8	

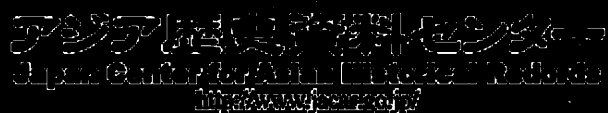
Co-operative teaching in War-time	RIC	40. 7.	"Town hall calling"—emergency news service	MG	40. 7.29
Purchase tax on book-amendments in the Commons	LT	40. 8. 7	The danger to free speech—editorial	MG	40. 7.29
C 類 逸			Inspirationsministerium	DAZ	40. 8. 1
Kriegszeit 1939/40 Das Gesicht des deutschen Theaters	VB	218 40. 8. 5	The Ministry of Information—list of personnel	LT	40. 8. 2
Litenthal- und Ludwig-Prandl-Preis	DAZ	40. 8.15	Questions about the Ministry of Information—reply by Minister	LT	40. 8. 9
Die Volksschulen im Jahre 1939	WS	20. 15 40. 8.	Englische Propagandabestellungen in USA	DAZ	40. 8.10
D 類 國			Day of national prayer—churches' response	LT	40 8.15
Revival of family Major French aim	NT	40. 8. 6	Black out ventilation	LT	40. 8.16
XX 概論及宣傳			B 米 國		
A 類 國			Text of Col. Lindbergh's speech appealing for peace plea to Europe	NT	40. 8. 5
National effort; a manufacturer exhibition	MG	40. 6. 7	Lindbergh, urges we "cooperate" with Germany if Reich wins war	NT	40. 8. 5
World mobilizing its resources—a broadcast declaration	MG	40. 6.28	Lindbergh speech held inconsistent	NT	40. 8. 6
If you hear from.....—advertisement by the Ministry of Information	MG	40. 7.23	Text of Lucas—reply to Lindbergh	NT	40. 8. 6
Censorship of the press—Britains voluntary method	MGw	40. 7.26			

Former President Hoover asks relief for Netherlands, Belgium, Iceland and Norway	CFC 151,392	40. 8.17	People of Britain must learn this—Ministry of Information's announcement in advertisement	MG	40. 7.17
U.S. refugee vessel and party lands	NT	40. 8.23	Overseas evacuation scheme postponed	MG	40. 7.17
C 類 逸			Overseas evacuation—editorial	MG	40. 7.19
German propagandier in France—editorial	MG	40. 7.23	Premier and evacuationary scheme—parli amon-	MG	40. 7.19
Germans said to spend vast sums abroad to pave way for conquest	NT	40. 8.23	Censorship of the press—fighter control rejected	MG	40. 7.22
D 類 國			Many interned aliens to be released	MG	40. 7.24
French accepting lessons of defeat	NT	40. 8. 2	Census of loud-speaker vans	MG	40. 7.24
"Anglo-Maines" in France—a revealing broadcast	LT	40. 8.16	The welfare of internees new policy	MG	40. 7.24
F 其他諸國			Commonse on gossip—editorial	MG	40. 7.24
German propaganda in Colombia seen as winning conservatives	NT	40. 8.17	Spy mania in Japan—the meaning of arrest	LT	40. 8. 2
G 世界一覽			The internee and the friendly alien	St	40. 8. 3
Cadaly is cleared in talk with Roosevelt; Ambassador says London has quoted him	NT	40. 8.15	Coasts where the vigil is unceasing — prime minister's injunction	LT	40. 8. 5
XXI 警備及防諜			Enemy alien camps—Home Office now in control	LT	40. 8. 6
A 英 國					



MLP's and Swinton (Com- mittee)—parliamentary article	LT	'40. 8.16	Lord Woolton's 9d lunch — communal feeding	MG	'40. 7.18
Lively success in the Commons — Swinton Committee and fifth column activities	LT	'40. 8.16	Britain's plentiful food stores	MG	'40. 7.19
B 米 國	LT	'40. 8. 6	The Nation's food Food for school children —more free meals	St	'40. 7.20
Nazi intrigue in U.S.— fifth column activities	MGw	'40. 7.26	Egg supply and prices Freemilk—of the Nation- al Milk Scheme	MG	'40. 7.28
D 佛 國	MGw	'40. 7.26	Food supplies—no fear of shortage	MG	'40. 7.24
XXII 食 糧	MGw	'40. 7.26	Land reclaimed — wheat in place of thorns	MGw	'40. 7.26
A 英 國	MG	'40. 6. 5	The week's food-facts No. 2—the food Min- istry's advertisement	LT	'40. 8. 5
Food control—maximum retail prices of food	MG	'40. 6. 5	Expensive fresh fruit— cheaper to buy tinned	LT	'40. 8. 6
The food campaign— editorial	MG	'40. 6. 7	Wasting food an offence —cases brought under the Order	LT	'40. 8. 6
Reserved age lowered for food production workers	MG	'40. 6. 7	Food criminals — edito- rial	LT	'40. 8. 7
Food control—maximum retail prices of food rationing	MLG	'40. 6. 7	Feeding the nation — campaign for ensilage U.S. and food for Europe —no pressure on Brit- ain	LT	'40. 8. 8
Tea Rationing	St	'40. 7.13	Food stocks and safety —misapprehension ob- vious	LT	'40. 8.10
The outlook for food prices	MG	'40. 7.17			
Good food in war-time— salads in six B-fance The breakfast egg—ed- itorial	MG	'40. 7.18			
	MG	'40. 7.18			

Food and waste—edito- rial	LT	'40. 8.10	Prime Minister to-mor- row—food and block- ade	LT	'40. 8.19
(throwing vegetables to give away—cabbage day	LT	'40. 8.10	Food waste in camps—a reply to criticism	LT	'40. 8.20
British view bars Hoover food plan	NT	'40. 8.12	B 米 國		
Tweed for the autumn— advice on war-time food preparation	LT	'40. 8.12	"Famine already in Eu- rope"—U.S. warning against sending food	LT	'40. 8. 8
Harvest and after—plans for next year	LT	'40. 8.12	Food stuffs for Europe— Hitler responsible for famine	LT	'40. 8. 8
Bread and freedom—ed- itorial	LT	'40. 8.13	Food stamp plan begins in Chicago	OFC 161,3920	'40. 8.10
Holland under German rule—requisitioning of food supplies	LT	'40. 8.13	Food for the vanquished —Mr. Hoover's move	LT	'40. 8.12
The farmer's part—ed- itorial	LT	'40. 8.13	Hoover maps plan to feed Europeans	NT	'40. 8.12
Food wasted by the serv- ices—misuse of tinned goods	LT	'40. 8.13	U.S. plans no step on food blockade	NT	'40. 8.13
Bread and freedom—ed- itorial	LTw	'40. 8.14	Food ships plan for Eu- rope—Mr. Hoover's proposal	LT	'40. 8.15
Food and waste	LTw	'40. 8.14	Mayor dramatizes food- stamp plan	NT	'40. 8.17
Food supplies — calcium in bread	LT	'40. 8.14	C 獨 逸		
Reduction of butter sup- plies—method of adjust- ment	LT	'40. 8.16	"Danisch Bacon" Die Kartoffel in der Ernahrung des Klein- kindes	DAZ	'40. 8. 1
Waste of food in camps —the army meet-ings	LT	'40. 8.16	Famine fears in Belgium —U.S. ambassador's plan for relief	DAZ	'40. 8. 4
	LT	'40. 8.16		LT	'40. 8. 7



Garter Anschluss an die neue Kartoffelernte	DAZ	'40. 8.10	XXIII 人口、保健、殖民及民族問題
Food supplies in Europe—Nazi blame British Europe's food "Shortage" a Nazi Creation	LT	'40. 8.10	A 英國
D 佛 國	Bank	'40. 8.	The British in India and the War
Short rations in France—advice to stay away from cities	LT	'40. 8. 3	Industrial health in war
Food for unoccupied France—an appeal in America	LT	'40. 8.10	B 米 國
Foodstuffs in France—a reassurance from Vichy	LT	'40. 8.16	Outline of a new era Population rose 2.7% in New Jersey
Foodstuffs for Europe—the German trip on France	LT	'40. 8.16	C 挪 逸
Die Ernährungslage in Frankreich	VB	236 '40. 8.23	Die Bodenschätze in Deutschlands Kolonien
F 其他諸國	MG	'40. 6.28	O. Treichel
Russia and Bessarabia—a primitive province	NT	'40. 8. 7	Die Ständige Bevölkerung nach Geschlecht, Alter und Familienstand
Cindaly asserts Belgium faces near famine; asks aid; British are unlikely to ease ban	St	'40. 8.24	Jungenschutz ist Volksgesundheit
Eire's food production	St	'40. 8.24	Sicherung der Volksgesundheit
G 世界一般	Eco	'40. 8.17	D 佛 國
Food for Europe	Eco	'40. 8.17	Frankreichs Kolonialbesitz in Amerika und Ozeanien
			DBZ 41. 182 '40. 8. 7
			E 伊 太 利
			Italienischer Aufbau in Albanien
			Das faschistische Siedlungssystem in Afrika
			Organi di Cameroia
			DBZ 194 '40. 8.21
			Geo 17. 8 '40. 8.

F 其他諸國	AR	'40. 7.	Ein neuer Rohstoff durch eine geniale Idee des Führers	F. Sanckel	VP	4. 16 '40. 8.20
Forty year's public health progress in India	DAZ	'40. 8. 1	Rationalisierte Wirtschaftsstatistik		DBZ 41. 202	'40. 8.30
Mangiesen über das Südosteuropa-System	DAZ	'40. 8. 2	XXV 其 他			
Mangiesen über das Südosteuropa-System	Geo	17. 8 '40. 8.	B 米 國			
G 世界一般	Geo	17. 8 '40. 8.	Der Amerikanische Jugendkongress		DAZ	'40. 8. 1
Die Schicksalslinien Europas	Geo	17. 8 '40. 8.	Amerika and Amerikanismus als geistig-seelische Probleme II	Ross	Geo 17.	8 '40. 8.
Imperialismus und Kolonialpolitik. II	Geo	17. 8 '40. 8.	F 其他諸國		DAZ	'40. 8. 6
XXIV 資源調查及統計			Dänemark verlängert die Sommerzeit		DAZ	'40. 8.22
A 英 國	BTJ	'40. 8.15	Trotsky's career a rebellion		NT	'40. 8.22
Canadian sensus of production	NT	'40. 8. 1				
B 米 國						
Census revises, ranking of cities; 13 slipped on list of the 25 Biggest	VP	4. 16 '40. 8.20				
C 挪 逸						
Kartoffelkraut als Rohstoffquelle	VP	4. 16 '40. 8.20				
Kartoffelkraut — Solanum	VP	4. 16 '40. 8.20				
Zellstoff und Papier aus Kartoffelkraut	VP	4. 16 '40. 8.20				

記 章 分 類 表 (本文編中の部)	
I 一般	(134)
II 精神動員	(135)
III 労働動員	(135)
IV 物資動員	(136)
A 一般	(136)
B 糧食	(137)
C 日用品	(137)
D 被服	(137)
E 皮革、ゴム、木材	(137)
F 燃料	(137)
G 肥料	(138)
H 機械	(138)
I 食料及飼料	(138)
L 其他物資	(138)
M 其他物資	(138)
V 價格統制	(138)
VI 貿易統制	(138)
VII 科学動員	(139)
VIII 財政動員	(139)
IX 資金動員	(140)
X 交通及地方動員	(140)
XI 娯楽	(140)
XII 娯楽施設	(140)
XIII 國民保健、衛生及救護	(141)
XIV 軍 事	(141)

題 名	編 者	著 者	所 在 所	行 日	発 行 月 日
I 一般					
産業行政機構の調整・奢侈・奢侈品の動向と米米政策	本位田幹男	豊と經	豊と經	7.	8 15. 8. 1
中央及び地方に於ける協力	加田哲二	三田學	三田學	10.	2 15. 8. 1
強國は如何なる領域的基盤を有すべきか	H. バレン	文	文	113	15. 8. 10
仰光西和民地の米米勢力	ジエフエ	文	文	113	15. 8. 10
聖地牙哥世界に於けるアメリカ	ラング	文	文	113	15. 8. 10
西半球の歐州新領地問題	野田良治	時	時	95.	4 15. 8. 15
ソ聯のバルカン進出	内藤智秀	時	時	95.	4 15. 8. 15
獨逸制憲の可能性と日本	平野門人	時	時	95.	4 15. 8. 15
都市行政問題概説	金務健次郎	時	時	31.	1955 15. 8. 24
高麗國の國家	上野 陽一	時	時	31.	3 15. 9. 1
能率から見た官公吏	黒谷了太郎	時	時	31.	3 15. 9. 1
國土計畫の主要原則(上)	船田 中	時	時	31.	3 15. 9. 1
政治體制の方針と目標	永井三樹三	時	時	1.	8 15. 9. 11
フランス植民地の經濟價值	ジエフエ	時	時	239	15. 9. 15
和蘭の南洋統治	長 野 朗	時	時	454	15. 9. 20
遠東の南洋關係					
仰光問題と支那					

題 名	編 者	著 者	所 在 所	行 日	発 行 月 日
仰光の最近事情	アージェニア	外務省	外務省	452	15. 9. 20
南洋政策の進歩と南洋米米	トムソン	文	文	15.	10 15. 9. 20
化學的肥料	ラット	文	文	117	15. 9. 20
薩摩邦の人口構成		文	文	21.	38 15. 9. 21
米國租借の英領領		文	文	21.	38 15. 9. 21
英米合作と英米聯合		文	文	21.	38 15. 9. 21
日本の地位と役割		文	文	1071	15. 9. 21
英米合作と英米聯合		文	文	1071	15. 9. 21
日本の地位と役割		文	文	1071	15. 9. 21
米の租借する英領領		文	文	1071	15. 9. 21
ソ聯邦の人口構成		文	文	3.	9 15. 9. 21
英米一體化と太平洋の將來	川邊 貞藏	文	文	18.	35 15. 9. 23
新體制の検討	稲原 勝治	文	文	18.	35 15. 9. 23
英米合作をめぐり		文	文	18.	35 15. 9. 23
米側から見た英米協定		文	文	18.	35 15. 9. 23
英米合作のカタメ		文	文	18.	35 15. 9. 23
歐洲戦争の新段階		文	文	18.	35 15. 9. 23
イタリヤの近傍	佐々木 謙一	文	文	21.	39 15. 9. 23
ソ聯邦の人口構成(完)	石橋 進山	文	文	21.	39 15. 9. 23
英米戦争の前途と我が國		文	文	4.	10 15. 10. 1
II 精神動員					
新黨問題と社行大衆黨の解散	如中正 謙	政	政	230	15. 8. 1
新黨問題の政治的考察	近衛 文房	政	政	21.	38 15. 9. 21
新黨問題の政治的考察	大隈 行行	政	政	31.	3 15. 9. 1
新黨問題と理念		政	政	15.	10 15. 10. 1
國民組織經濟體の論理	正井 敬次	政	政	5.	11 15. 10. 1
III 労働動員					
英國の一九四〇年第二條全法の諸問題	田邊 勝正	政	政	28	15. 6.
印度労働者の賃金問題	須永 重光	政	政	29	15. 7.
英國に於ける労働者保護法	平田 隆夫	政	政	239	15. 8. 1
時局下・農業労働問題	須永 重光	政	政	7.	2 15. 8. 1
英國労働運動の戦時態勢	須永 重光	政	政	30.	8 15. 8. 1
ナチスの戦時労働立法の概観	須永 重光	政	政	9.	9 15. 9. 1
最近の我労働者賃金と生計	須永 重光	政	政	7.	3 15. 9. 1
技術者について	星野 周一	政	政	7.	3 15. 9. 1
工場精神と労働管理	星野 周一	政	政	34.	9 15. 9. 1
新なる労働管理の方策	星野 周一	政	政	3.	9 15. 9. 1
鑛山機械の技術の公開に就	星野 周一	政	政	3.	9 15. 9. 1
新なる労働管理の方策	星野 周一	政	政	3.	9 15. 9. 1
新なる労働管理の方策	星野 周一	政	政	718	15. 9. 5
新なる労働管理の方策	星野 周一	政	政	12	15. 9. 9
新なる労働管理の方策	星野 周一	政	政	21.	39 15. 9. 23
新なる労働管理の方策	星野 周一	政	政	21.	39 15. 9. 23
新なる労働管理の方策	星野 周一	政	政	21.	39 15. 9. 23
新なる労働管理の方策	星野 周一	政	政	4.	10 15. 10. 1

